

示スモノナリ而ノ其方法三個アリ

第一刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス凡ソ刑ノ宣告ヲ受ケタル者即時逃亡シタリト雖モ期滿免除ノ期限ヲ起算スルニハ其逃亡ノ日ヨリ起算スルヲ得ス此ノ場合ニ於テハ上訴ノ期限已ニ經過シ其裁判ノ確定シタル日ヨリ之ヲ起算スルモノトス其裁判已ニ確定シタルノ後ニ於テ逃亡シタル日ハ其逃亡ノ日ヨリ之ヲ起算スルナリ

第二若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ云々「受刑人一次逃亡スルモ卒ニ捕獲セラレ後々復々逃走シタル日ハ其前キニ經過シタル時日ハ之ヲ計算セス更ニ後々ノ逃走シタル日ヨリ之ヲ起算スルナリ

第三關席裁判ニ係ル時云々「蓋シ關席裁判ニ係ル日ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ改正スルヲ得ルモノニシテ裁判確定ノ日ナキカ故ニ其宣告ノ日ヨリ起算スルモノトス

○参照○獨逸刑法第七十條末項其棄捐年限ハ裁判ノ確定シタル日ヨ

リ起算ス可シ○佛期西治罪法第六百三十五條第六百三十六條第六百三十九條

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

本條ハ期滿免除ヲ中断スルノ方法ヲ定メタルモノナリ凡ソ期滿免除ヲ得ルニハ犯人刑ノ執行ヲ遁レテヨリ法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ至ルマテ其時日ノ連續シテ障害ヲ受クルヲナキヲ要ス故ニ逮捕ヲ命シ令狀ヲ發シタル日ハ其連續セントスルノ時日ニ障害ヲ爲スニ因リ之レカ爲メ期滿免除ヲ中断セラル、モノナリ

抑モ刑ノ期滿免除ハ社會ニ於テ其犯罪ヲ遺忘スルト云フノ理ニ基ツキタルモノナレハ社會ヨリ其逃亡シタル受刑人ニ對シテ屢々其權利ヲ行フハ是レ社會ニ於テ未ダ其罪ヲ遺忘セサルニ因ルモノナ

リ社會未タ其罪ヲ忘レヌシテ其權利ヲ行フ以上ハ何ソ期滿免除ヲ
 中斷セサルノ理アラシヤ然レハ其權利ヲ行フヲ止メタルハ其
 止メタル日ヨリ起算シテ若干ノ年限ヲ經過スルキハ亦期滿免除ヲ
 得ルモノトス例ヘハ此ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリ其裁判確定
 シタル後ヲ仍ホ待報内ニ在テ逃亡シ其所在ヲ知ラサルヲ凡ソ八九
 年ニシテ初メテ某地ニ在リト聞キ令狀ヲ發シ逮捕ヲ命シタリシニ
 犯人早ク已ニ其事ヲ聞知シ復タ某地ヲ逃亡シテ其踪跡ヲ晦マシタ
 リ此ノ如クスルヲ數次ニ及フモ遂ニ之ヲ捕獲スルヲ能ハサルニ因
 リ後チ更ニ逮捕ヲ命スルヲ止メタリ而シテ其最後ノ令狀ヲ發シタ
 ル日ハ犯人刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ既ニ二十年ヲ經過シタルモ
 ノト假想センニ是レ其間ニ在テハ社會未タ其罪ヲ遺忘セス犯人屬
 障害ヲ受ケタルヲ以テ己ニ經過シタル二十年ノ時間ハ之ヲ中斷シ
 テ期滿免除ノ効ヲ失ハシメ其最後ニ令狀ヲ發シタル日ヨリ起算シ

テ更ニ三十年ヲ經過スルニ非ラサレバ期滿免除ヲ得サルノ類ナリ
 令狀トハ勾引狀勾留狀及ヒ収監狀ノ類ヲ云フ事ハ治罪法ニ詳カナ
 リ

○参照○獨逸刑法第七十二條棄捐年限ハ刑ヲ行ハシムル爲メ該處
 ヨリ爲シタル事件ヲ探索ノ及ビ犯人捕縛等ノ爲メニ爲タル事ニヨレ
 ハ算入セス

第八節 復權

復權ハ主刑ノ消滅シタル後チニ存在スル所ノ剝奪公權ノ刑ヲ消滅
 セシムルノ方法ナリ而シテ復權ヲ得ルニハ治罪法第四百七十條以下
 ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ本犯ヨリ之ヲ請求スルモノニシテ悔悟悛
 改ノ狀アルモノニ非ラサレハ之ヲ復與セス是レ猶ホ假出獄ヲ許ス
 ト同一ナルカ如シ然レハ復權ハ其一トタヒ之ヲ許シタル以上ハ決
 シテ取消スルヲ得サルモノナレハ假出獄トハ相異ナレルモノト

ス

明治十五年二月十四日司法省丙第六號達

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左之通心得可シ此旨相達候事

第一條 逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二号書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ

但管轄地ノ内外ニ拘ハラス急遽ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條 管轄地外ハ第一號書式ニ準シ人相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕

狀ヲ作り之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四條 司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ
第壹號

人相書

本籍身分氏名

年齢

丈	
顔	
色	

頭髮	眼	眉	鼻	口	耳	齒	音聲	痘痕	疵所	鬚鬢ノ有無	其他特徵

長所	父母妻子	逃走ノ際 着用衣服	同上ノ際 持去物品	罪名	刑名及 其期限

右者何方ニ於テ處刑中明治何年何月何日第何時何分逃走候ニ付逮捕ノ御處分有之度候也

明治 年月日

何裁判所 何裁判所之印

檢事氏名殿

何裁判所 檢事氏名印

逮捕狀

本籍身分 罪名并ニ刑名及ヒ其期限 氏名 年齢 右者何方ニ於テ處刑中明治何年何月何日 第何時何分逃走(管内ニ發スル逮捕狀ニ ハ「シタル以下有之」迄ノ二十二字ヲ除 シ「シタル」趣ヲ以テ何裁判所檢事ヨリ逮 捕方囑託有之候ニ付嚴密搜索ヲ遂ケ見當 リ次第逮捕ス可キ者也 但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可 シ 明治 年 月 日 時 何裁判所 何裁判 所之印 檢事氏名 印		執行シタル 月日時 執行シタル 場所 家宅搜索ヲ 爲シタル時 ハ其事由 勾引スル 能ハサル 其事由 右之通取扱候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵氏名 印
---	--	---

人相書

丈	顔	色	頭	髪	眼	眉	鼻	口	耳	齒	音	聲	痘	痕	疵	所	鬚	髻	有	無	其	他	特	徵	長	所	父	母	妻	子	逃	走	ノ	際	着	用	衣	服	同	上	ノ	際	持	去	物	品						

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

本條ハ公權ヲ剝奪セラレタル者其公權ヲ回復スルニ付キ之ヲ請願スルヲ得可キ期限ヲ定メタルモノナリ

夫レ剝奪公權ノ刑ハ無期ノモノニシテ重罪ノ刑ニ處セラレタルハ別ニ宣告ヲ用ヒスシテ畢生間公權ヲ剝奪セラル、モノナレハ假令ヒ主刑ノ執行既ニ畢リ其刑ハ消滅セリト雖モ剝奪公權ノ刑ハ仍ホ其効ヲ將來ニ保ツ可シ其期滿免除ヲ得テ主刑ノ消滅シタルモ亦同シ然ルニ其主刑ニハ假出獄ノ恩典アリ又附加刑中監視ノ刑ニハ假免ノ特例アリ以テ犯人ノ善良ニ趣ク者ヲ獎勵ス故ニ剝奪公權

ノ刑ニモ亦之ヲ復與スルノ特典ヲ設ケラレタリ而シテ復與スルノ法ハ主刑ノ執行終リタル時ハ其終リタル日ヨリ起算シ五年ヲ經過スルノ後ヲ治罪法ノ法式ニ從ヒ將來ノ公權ヲ悉皆復與スルモノトス若シ主刑ノ期滿免除ヲ得タルハ其捕ニ就キ監視ニ付セラレタル日ヨリ起算シテ五ヶ年ヲ經過スルノ後亦前ニ云フ如ク治罪法ノ手續ヲ履ミ之ヲ請願スルモノトス

復權ヲ請願スルヲ得ルハ五年ヲ經過スルノ後ヲト定メタルモノハ何ソヤ他ナシ監視ノ最長期ハ五年ナルニ因リ其監視ノ期限未ダ經過セサルニ復權ヲ許ス可キノ理ヲキテ以テナリ

○參照○佛朝西治罪法第六百十九條ヨリ第六百三十四條ニ至ル

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非レハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

大赦特赦ノ二典モ亦刑罰消滅ノ一原由ナリトス
大赦ハ全罪ヲ遺忘スルノ意ニ出テタルモノニシテ之ヲ施行スルハ獨リ天皇陛下ノ特權ニ屬スルモノトス特赦ハ特別ノ理由ヲ以テ一〇個ノ犯人ニ對シテ其刑ノ全部若クハ幾分ヲ赦免スルモノニシテ亦天皇陛下ノ特權ヲ以テ之ヲ施行スルモノトス
大赦ト特赦トハ大ニ其効力ヲ異ニス大赦ハ槩テ國事犯ノ如キ同夥結合シテ相ヒ共ニ罪ヲ犯シ其人員ノ夥多ナル場合ニ於テ適用シ而シテ已決未決ヲ分タス罪過ト刑罰トヲ併セテ之ヲ消滅セシメ一点ノ跡ヲ殘スコトナキモノトス故ニ大赦ニ因テ罪ヲ免セラレタル者ハ將來更ニ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス尙ホ初犯ヲ以テ論スルモノナリ

特赦ハ之レニ反シ國事犯ト常事犯トヲ問ハス一個ノ己決囚ニ對シ特別ノ理由ヲ以テ其刑ヲ赦免スルモノニシテ罪過ヲ併セテ之ヲ消滅セシムルモノニ非ラス故ニ特赦ニ因テ死刑セラレタルモノハ將來更ニ罪ヲ犯シタルキハ初犯ヲ以テ論セス再犯ヲ以テ論スルモノトス而シテ特赦ヲ請願スルノ法ハ治罪法第四百七十七條以下ニ定メラレタレハ同法ニ就テ之ヲ看ンコト要ス

本條定ムル所ハ本犯ノ請願ニ因ラス赦典ヲ以テ剝奪セラレタル公權ヲ復與スルノ場合ニシテ已ニ説明シタルカ如ク大赦ハ全ク其罪過ト刑罰トヲ併セテ之ヲ遺忘ニ付スルノ主義ニ出テタルモノナレハ豈ニ獨リ公權剝奪ノ跡ヲ存シテ之ヲ忘レサルノ理アラソヤ故ニ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ言ヲ俟タスシテ復權ヲ得ルモノトス之レニ反シテ特赦ハ已ニ説述シタルカ如キ理由ナルヲ以テ假令ヒ特赦ノ裁可アリテ免罪ヲ得タリト雖モ其赦狀中特ニ公權ヲ復與ス可

キ旨ヲ記載シ有ルニ非ラサレハ復權ヲ得ルモノニアラス
裁典ニ因テ已ニ復權ヲ得タルキハ其監視ノ刑モ亦別ニ宣告ヲ要セ
スシテ自ラ免セラレタルモノトス

第六十五條

復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

公權ヲ復與スルハ獨リ天皇陛下ノ特權ニ屬スルモノニシテ敢テ行
政上ノ處分或ハ裁判權ヲ以テ之ヲ許否ス可キモノニ非ラス故ニ治
法罪第四百七十條以下ニ定ムル所ノ法式ニ從ヒ司法卿ヨリ之ヲ上
奏シテ勅裁ヲ仰キ其裁可ヲ得ルニ非ラサレハ復權ヲ得可カラサ
ルモノトス蓋シ復權ハ全ク法律并ニ天皇陛下ノ恩典ニシテ一旦之
ヲ復與シタルキハ假出獄ノ如ク能ク取消シ得可キモノニ非ラス故
ニ此ノ如キ至重ノ法式ヲ履行ス可キハ素ヨリ當然ノ事ナリトス

第三章

加減例

凡九條

加トハ本刑ヲ加重スルナリ減トハ本刑ヲ減輕スルナリ凡ソ犯罪ノ

情狀ニ因リ各本條ニ定ムル所ノ本刑ニ就キ加重減輕セサルヲ得サ
ルモノアリ乃チ再犯若シハ身分ニ因テ本刑ヲ加重シ或ハ自首宥恕
酌量若シハ從犯未遂犯等各本刑ヲ減輕スルカ如キ是也是等ノ場合ニ
於テハ法律上別ニ一章ヲ設ケ加減ニ關スル法例ヲ規定セサル可カ
ラス是レ本章ノ起ル所以ナリ

第六十六條

法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後

ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑
ニ入ルヲ得ス

法律上ニ於テ其本刑ヲ加重減輕ス可キキハ次條以下ニ定ムル所ノ
等級ニ照シ以テ之ヲ加減スルナリ

加等罪ハ無期徒流刑ニ止マリ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス蓋シ死刑
ハ一旦之ヲ決行シタル以上ハ再ヒ挽回ス可カラサルモノニシテ之
ヲ徒流以下ノ刑ニ比スルニ其重輕ノ差アル豈ニ管霽讓ノミナラン

ヤ故ニ法律上死刑ニ處ス可キモノハ極惡大罪ニシテ天誅容レサル
人命、放火、等ノ罪ニ非ラサルヨリ敢テ之ヲ辟^{シクイ}ニ擬スルコトヲ得ス而シテ
等シ人命ナリト雖モ故殺、闘毆致死、過失殺、等ノ罪ハ抵命^{イシチカワリ}セス其人ヲ
殺スノ罪ニ係ルト雖モ仍ホ之ヲ死刑ニ置カス况ンヤ其他ヲヤ是レ
其罪ノ性質タル本ト之レニ死[○]刑[○]ヲ[○]科[○]ス[○]可[○]キ[○]ノ[○]性[○]質[○]ヲ[○]有[○]セ[○]サル[○]カ[○]故[○]
ナ[○]リ[○]

然ルニ其加重ス可キノ情狀アルニ因リ徒流以下ノ刑ニ處ス可キ固
有ノ性質ナル罪モ加等シテ死刑ニ入ル可シトセハ頗ル苛酷ニ涉リ
大ニ正理ニ背反スト謂ハサルヲ得ス故ニ本條但書ヲ添ヘ以テ本刑
ヲ加重スルモ加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ禁止セリ

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

本條ハ重罪ノ刑ヲ加減スルニ付キ之ヲ二種ニ大別シ一種ヲ常事犯
ノ刑ト爲シ本條ハ即チ重犯常事犯ノ刑ヲ加減スル等級ヲ定メタル
モノトス乃チ死刑以下五等ノ區別ニ從テ之ヲ加減スルナリ例ヘハ
死刑ニ處ス可キ者一等ヲ減スルキハ無期徒刑ニ坐シ無期徒刑ニ處
ス可キモノ一等ヲ減スレハ有期徒刑ニ坐スルノ類

又輕懲役ニ處ス可キ者一等ヲ加フレハ重懲役ニ坐シ重懲役ニ處ス
可キモノ一等ヲ加フルキハ有期徒刑ニ坐スルノ類ナリ

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照

シテ加減ス

一死刑

- 二無期流刑
- 三有期流刑
- 四重禁獄
- 五輕禁獄

本條ハ國事犯ノ重罪刑ヲ加減スルノ等級ヲ定メタルモノナリ

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
 輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

本條ハ重罪ノ刑中最下級ニ位スル輕懲役及ヒ輕禁獄ノ刑ヲ減輕スル法ヲ示スモノナリ

本條ハ之ヲ二項ニ分チ第一項ハ常事犯ノ刑第二項ハ國事犯ノ刑ヲ減輕ス可キ時ノ例ヲ定ム

輕懲役及ヒ輕禁獄ノ刑ニ該ル者減輕ス可キ時ハ之ヲ輕罪ノ刑タル禁錮ノ刑ニ降サ、ルヲ得ス然ルニ禁錮ノ刑ノ最短期ハ十一日ナルヲ以テ若シ重罪ノ刑ヨリ直チニ此ノ最短期ニ降スルハ頗ル寛ニ流レ輕重ノ衡ヲ失ス可シ故ニ輕懲役及ヒ輕禁獄ノ刑ヲ減輕スル時ハ二年以上五年以下ノ輕重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス蓋シ輕罪禁錮ノ中其最モ重キモノハ二年以上五年以下ニ超ルモノナキヲ以テナリ
 而シテ若シ二等若シシハ三等ヲ減輕ス可キ時ハ第七十條ノ例ニ照シ二年以上五年以下ノ長短期四分ノ一ヲ減スルモノトス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

本條ハ輕罪ノ刑即チ禁錮罰金ノ刑ヲ加減スルノ法ヲ定メタルモノナリ禁錮罰金ハ之ヲ加減スルニ付キ其刑ヲ變更スルヲ得ス唯其刑期ト金額トヲ加減スルニ止マルノミ而シテ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス例ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス可キ者一等ヲ減スルキハ長期四分ノ一即チ一年三ヶ月ト短期四分ノ一即チ六月トヲ減シ一年六ヶ月以上三年九ヶ月以下ノ禁錮ニ處シ若シ二等ヲ減スルキハ二年六ヶ月ト一年トヲ減シ一年以上二年六ヶ月以下ノ禁錮ニ處シ若シ三等ヲ減スルキハ三年九ヶ月ト六ヶ月トヲ減シ六ヶ月以上一年三ヶ月以下ノ禁錮ニ處スルノ類

其一等ヲ加フルキハ二年六ヶ月以上六年三ヶ月以下ノ禁錮ニ處シ

若シ二等ヲ加フルキハ二年六ヶ月ト一年トヲ加ヘ三年以上七年六ヶ月以下ト爲ス可シト雖モ最長期七年ヲ超ユルヲ得サルニ因リ六ヶ月ヲ除棄シ七年以下三年以上ノ禁錮ニ處スルノ類ナリ罰金モ亦前例ノ如ク最多數ト最寡數トノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス然レモ罰金ハ法律上一般ノ最多數ヲ定メサルニ因リ加等シテ何圓ニ至ルモ其制限ナキモノトス第二項輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス是亦徒流以下ノ刑ヲ加ヘテ死刑ニ入ルヲ禁シタルト同ク刑ノ苛酷ニ涉ルヲ避ケンカ爲メナリ而シテ本項ノ但シ書ニ特例ヲ設ケ禁錮ノ刑ヲ加ヘテ七年ニ至ルヲ得ルトアルハ全ク自然ノ法ニシテ必ス然ラサルヲ得サルモノトス蓋シ其罪タル加重ス可キノ情狀ナクシテ犯シタルキハ五年ニ超ユルヲ得スト雖モ若シ其加重ス可キノ情狀アルキハ更ニ其刑ヲ重クセサルヲ得サレハナリ例ハ此ニ不實ノ一ヲ以テ人ヲ誣告シ

タル者ナラシムニ証告ノ罪ハ偽証ノ例ニ照シテ處斷ス可キモノナレハ之ヲ第二百二十條第一項ニ照スニ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス可キモノトス然ルニ若シ子孫其祖父父母ニ對シテ此罪ヲ犯シタルハ第三百六十三條ニ凡人ノ刑ニ二等ヲ加フルノ明文アルヲ以テ之レニ二等ヲ加フレハ其長期五年以上ニ至ル可シ是レ全ク自然ノ法ニシテ又然ラサルヲ得サルモノナリ

○參照○佛朗西刑法第四十條第二項但シ再犯ノ場合又ハ其他法律上ニ別段期限ヲ定メタル場合ハ格別ナリトス

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

本條ハ輕罪ノ刑ヲ減等スルニ當リ其刑ヲ減盡シタルト及ヒ半ハ尙

本輕罪ノ刑ノ範圍内ニ在ルモ半ハ己ニ違警罪ノ刑ノ範圍内ニ及フキノ處分法ヲ示シタルモノナリ及トハ輕罪ト違警罪トニ跨レルヲ云フ

第一禁錮罰金ヲ減盡シタル時是レ輕罪ノ刑四分ノ一ヲ減等スルニ該リ四次減輕スルキ若シクハ其刑ノ初メヨリ甚ダ輕フシテ一次又ハ二次ノ減等ニ因リ己ニ禁錮罰金ノ範圍内ヲ減盡シテ十一日及ヒ二圓ヨリ低下スルキヲ云フ此ノ場合ニ於テハ必ラス違警罪ノ刑即チ拘留科料ノ刑ヲ科セサルヲ得ス

第二禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢ニ及フ時是レ禁錮罰金ノ四分ノ一ヲ減スルニ該リ或ハ一回或ハ二三回減等スルニ其長期ハ尙ホ輕罪ノ刑ニ在リ而シテ其短期獨リ違警罪ノ刑ニ及フキ即チ輕罪ト違警罪トノ兩刑ニ跨リタルキヲ云フ例ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ該ル可キ者三等ヲ減スレハ七日以上二十

二日以下ト爲ルカ如キ又二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ該ル可キモ
ノ三等ヲ減スレハ五十錢以上五圓以下ト爲ルカ如キノ類ナリ此ノ
場合ニ於テハ其長期二十二日及ヒ多數五圓ハ輕罪ニシテ短期七日
及ヒ寡數五十錢ハ違警罪ノ範圍内ニ在ルヲ以テ裁判官所犯ノ情狀
ヲ酌量シテ或ハ輕罪ノ刑ニ處シ或ハ違警罪ノ刑ニ處スルヲ得可キ
モノトス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ノ刑ニ入ル、ヲ得スト雖モ減シテ違警罪
ノ刑ニ降スヲ得ルハ猶ホ死刑ヲ減シテ徒流以下ニ降シ重罪ノ刑
ヲ減シテ輕罪ノ刑ニ降スヲ得ルカ如ク強メテ其刑ヲ輕カラシメ
ント欲スルノ主義ニ出テタルモノナリ

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮
罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト
爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加
ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降スヲ得
得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ五
錢以下ニ降スヲ得ス

本條ハ違警罪ノ刑ノ加減法ヲ定メタルモノニシテ其法輕罪ノ刑ノ
加減例ト同シク亦拘留科料ノ長期短期多數寡數ノ四分ノ一ヲ加減ス
ルヲ以テ一等ト爲シ累加累減スルモノナリ

○違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ル、ヲ得ス是レ亦輕罪ノ刑ヲ加ヘ
テ重罪ニ入ルヲ許サ、ルト其主義同一ノモノト爲ス然レハ亦特
例アリ乃チ拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得、科料ハ加ヘテ二圓四
十錢ニ至ルヲ得ル是レナリ是亦輕罪ノ刑ヲ加重シテ七年ニ至ル
ヲ得ルト同一ノ理ニシテ其刑ヲ加重スルニ當リ自然十日以上壹
圓九十五錢以上ニ至ラサルヲ得サルモノナリ然リト雖モ若シ禁錮

ノ刑ヲ加重シテ八九年ニ及フキハ懲役禁獄ノ刑ト其區域ヲ混ス可
 キカ故ニ第七十條ニ於テ之レカ制限ヲ爲シ假令ヒ加重シテ五年以
 上ニ及フコアリト雖ヒ七年ヲ超ルコトヲ得スト爲シタルカ如ク拘留
 科料ノ刑モ亦是レ之レカ制限ヲ爲サ、ルキハ加重シテ十五六日或
 ハ五六圓ニ至ル可シ然ルカ如キハ殆ント禁錮罰金ノ刑ニ異ナラス
 故ニ本條加ヘテ十日以上壹圓九十五錢以上ニ至ルコトヲ得ルモ十二
 日及ヒ二圓四十錢ヲ超ルコトヲ得スト爲セリ
 違警罪ノ刑ヲ減輕スルニ該リ其短期一日ヲ下リ寡數五錢ヲ下ルコ
 アリ或ハ四等ヲ減シテ其刑ノ盡クルコトアル可シ然レハ其輕減ニ因
 テ有罪者ヲ放免スルコトヲ得ス故ニ仍ホ一日及ヒ五錢ノ拘留科料ニ
 處スルモノトス
 綱領ニ減等無科ノ法アリ例ハ盜賊ナルコトヲ知テ典賣ノ牙保ヲ爲
 スモノハ典賣スル所ノ數ヲ計ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアル

カ如キ之ヲ例圖ニ照スニ坐贓五圓以下ハ懲役十日ナリ而シテ其典賣
 スル所ノ數五圓以下ナルキ一等ヲ減スレハ即チ減シ盡クルヲ以テ
 其罪ヲ科セサルノ類是レナリ此ノ刑法ニ於テハ減等無科ノ法ヲ用
 ヒス仍ホ一日及ハ五錢ノ刑ヲ科ス是レ此ノ刑法ノ主義ト綱領ノ主
 義ト相ヒ異ナル所ノモノナリ

**第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零
 數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス**

禁錮拘留ノ加減法ハ其刑期長期ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等
 ト爲スモノナレハ其刑期ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タサルモノ甚ナカ
 ラス此ノ場合ニ於テハ法律ハ實地ノ便利ヲ計リ其一日ニ滿タサル
 零數ハ之ヲ除棄スルモノト爲セリ例ハ一月以上三月以下ノ禁錮
 ニ該ル者一等ヲ減スレハ二十二日十二時以上二ヶ月七日十二時以
 下ト爲ルカ如シ又三日以上十日以下ノ拘留ニ該ル者一等ヲ減スレ

ハ二日六時以上七日十二時以下ト爲ル可シ此ノ場合ニ於テハ何レモ其時數ヲ除棄シ禁錮ハ二十二日以上二ヶ月七日以下ヲ科シ拘留ハ二日以上七日以下ヲ科スルノ類ナリ

蓋シ法律ノ斯ク零數ヲ除棄スル所以ノモノハ其一日ニ滿タサル時數ヲ計ヘテ實地上ノ煩雜ヲ生セシメ併セテ犯人ヲ苦シメンヨリ寧ロ之ヲ除棄シテ其便利ヲ計ルニ如カサルヲ以テナリ然レハ其罰金料ノ如キ金額ヲ以テ算スルモノハ假令ヒ零數ヲ生スルモ實地上取テ煩雜ナルニアラス故ニ本條特ニ禁錮拘留ノミテ擧ケテ罰金科料ニ及ハサルナリ

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス

本條ハ附加刑タル罰金ノ加減法ヲ定メタルモノナリ輕罪禁錮ノ刑

ニ附加スル所ノ罰金ハ主刑ノ加減法ニ從テ之ヲ加減シ亦其金額四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス故ニ主刑ニ一等ヲ加フルモハ附加ノ罰金モ亦共ニ一等ヲ加ヘ主刑ニ一等ヲ減スルモハ附加ノ罰金モ亦共ニ一等ヲ減スルモノトス若シ禁錮罰金共ニ減盡シタルモハ禁錮ハ拘留ニ降ス可キモノナルヲ以テ附加ノ罰金ハ之ヲ科料ニ降ス可キ手法律ハ之ヲ許サス唯主刑ヲ科スト言ヘリ何ニカ故ニ然ル乎曰ク科料ハ違警罪ノ主刑ナリ然ルニ輕罪ノ附加刑ヲ以テ之レニ換フル時ハ是レ一個ノ罪ニシテ二個ノ主刑ヲ科スルモノナリ豈ニ之ヲ正理ト謂フヲ得ヘケンヤ故ニ獨リ主刑ヲ科スルニ止マルノ

第四章 不論罪及ヒ減輕凡三節 十六條

不論罪トハ罪ヲ犯スト雖モ法律ハ罪トシ論セサルノ謂ナリ或ハ云フ全ク罪ナシ故ニ法律ハ刑ヲ加ヘスト此ノ說恐ラクハ非ナラン然

レ此今敢テ批駁ヲ加ヘス姑ク看者ノ取捨ニ任ス
 本章ニ於テハ法律上ニ定ムル重罪又ハ輕罪ト爲ル可キ所爲ヲナシ
 タリト雖モ其刑罰ヲ被ラサル場合ト其刑ヲ減輕スルノ場合トヲ定
 メタルモノトス
 抑モ法律上ニ於テ犯罪ナリトシテ刑罰ヲ加フルノ所爲ハ道德ノ損
 害ト社會ノ損害ト相合スルヲ待テ始メテ其所爲ヲ犯罪ト稱ス可キ
 モノトス然ルニ今其所爲タルヤ道德ヲ破リ社會ヲ害ヒ且ツ法律ニ
 正條アルモ未ダ直チニ此ノ所爲ヲ以テ犯罪ナリトシテ刑罰ヲ加フ
 可カラサルモノハ何ツヤ蓋シ法律ノ要スル所ハ道德上ノ損害ト社
 會上ノ損害トノ外尙ホ三個ノ條件アリ而シテ此ノ三要件ヲ具備ス
 ルニアラサレハ假令法律上罪ト爲ル可キ行爲ニ係ルト雖モ之ヲ罰
 ス可カラサレハナリ何チカ三要件ト云フカ曰シ意思自由智覺是レ
 ナリ

意思トハ罪ヲ犯スノ意思アルヲ云フ自由トハ他ノ強制ヲ受クルニ
 アラサシテ我カ心ニ於テ善惡邪正ヲ識別スルノ氣力アルヲ云フ智
 覺トハ其所爲ノ臧否ヲ辨別スルノ智能アルヲ云フ此ノ三要件ヲ具
 備スルニアラサレハ法律上罪ト爲ル可キノ所業ニ係ルト雖モ之ヲ
 罰スルヲ得ス故ニ罪ヲ犯スノ意ナキモハ假令ヒ辨別アリ且ツ自
 由ヲ有シテ爲ス所ノ事モ仍ホ之ヲ罰ス可カラス一例ヲ舉グルニ人
 アリ談話ノ間偶々他人ノ名譽ヲ害スルノ言ニ及ヒタルカ如キ是レ
 其他人ヲ譏毀誹謗スルハ是ナルカ將タ非ナルカヲ辨別シ且ツ他人
 ノ爲メニ強制セラレテ此ノ如キ言辭ヲ吐キタルニアラス全ク自家ノ
 自由ニ因ルト云フト雖モ其意タルヤ敢テ譏謗ノ罪ヲ犯サントスル
 ニアラサレハ之ヲ罪トシ罰スルヲ得サルノ類ナリ蓋シ偶々言ノ
 此ニ及ヒタルハ本ト其人ノ失言タルニ過キサル可クレハナリ
 故ニ無意ノ所爲ハ之ヲ罰セス唯民事ノ賠償ニ止ム然レモ或ルニ二三

ノ場合ニ於テハ法律上無意ノ所爲ヲ罰ス可キ例外法ヲ規定セラレタ
 リ蓋シ此例外法ヲ設ケタルハ唯其不注意ヨリ生スル道德上ノ過失ア
 ルヲ以テナリ「ボアソナード」氏曰ク例ヘハ獸獵ニ於テ誤テ其同伴人
 或ハ農夫ヲ殺傷スル者アラン此人ハ自己ノ快樂ニ溺レテ之カ爲メ
 ニ他人ノ生命ニ注意セサルノ罪アリトス又曰ク妄リニ車馬ヲ疾驅
 シテ往來人ヲ倒シタルモノハ自己ノ便利ノミヲ計リテ諸人ノ安危
 ナヲ顧ミサルノ罪アリトスト乃チ是レナリ
 其自由ヲ欠キ或ハ智覺ヲ有セサルモ亦無意ノ所爲ト同ク刑ヲ加
 ヘス夫ノ瘋癲人及ヒ幼者ノ罪ヲ犯シタルカ如キハ唯我カ爲サント欲ス
 ル所ニ從ヒ之ヲ爲シタルモノニシテ敢テ他人ノ行止ニ因ラサルモ
 ノナレハ之ヲ無意ト云フ可カラヌ又自由ヲ失ヘリト云フ可カラヌ獨リ
 其是非ヲ識別スルノ智覺ヲ有セサルニ因リ之ヲ罰セサルノ類是レ
 ナリ以上敷衍スル所ハ即チ不論罪及ヒ法律上ノ宥恕ナリ而シテ其自

首減輕及ヒ酌量減輕等ハ後節ニ至リ之ヲ説明ス可シ

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非
 サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ
 自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同
 シ

本條ハ法律上罪ト爲ル可キ所業ヲ爲シタリト雖モ其之ヲ爲シタル
 ハ全ク他ノ強制或ハ危難ニ遇ヒ已ムヲ得スシテ爲シタルモノニシ
 テ夫ノ三要件ノ一即チ自由ヲ得サルニ因リ法律ハ之ヲ罪トシ論セサ
 ルノ場合ヲ示シタルモノトス
 凡ソ人タル者其行止ヲ決スルノ自由ヲ得スシテ犯セル罪ハ之ヲ罰
 スルヲ得ス蓋シ已ムヲ得スシテ好事ヲ行フ者ハ敢テ之ヲ賞スル

「ナ得ス其惡事ニ於ケルモ亦然リ敢テ之ヲ罰スル」ナ得サルナリ
 而シテ法律ハ其已ムヲ得スシテ罪ヲ犯セル場合ヲ二個ニ分テ第一項
 ニ示ス所ハ人爲ニ因ルモノニシテ其第二項ハ即チ自然ニ因ルモノ
 ナ示セリ
 第一項抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ云々「此レヲ爲スハ我カ本意ニ
 アラス之レニ抗ノ遁レントスレハ他ノ強制ヲ受クル甚ク切ニ力ヲ
 支フル能ハス已ムヲ得ス」爲シタル場合ヲ云フ而シテ其強制モ亦分
 チテ二ト爲ス曰ク精神上ニ對スル者曰ク身體上ニ對スル者是レナリ」
 精神上ニ對スルモノトハ言語形容等ヲ以テ迫マラレ神心畏懼恰モ
 虎尾ヲ履ムカ如ク卒ニ爲メニ其心思ノ自由ヲ喪失シ去ラシムルヲ
 云フ例ヘハ茲ニ甲ナル者アリ乙ナル者ヲ恐嚇シテ曰ク汝ナ我カ爲
 メニ某ノ事ヲ爲セ若シ拒マハ則チ汝ナカ頭足處ヲ異ニセント乙カ死
 生甲カ手ニ係レリ乙性怯ニシテ神畏レ心戰キ己ムヲ得スシテ其意

ニ聽從スルカ如キノ類是レナリ
 然レハ其強制ヲ敢テ死ヲ以テ強制セラレ、ヲ要セス他ノ毆傷監禁若
 シハ破壊財産等ノ方法ヲ以テ脅迫セラレ、モ亦己ムヲ得サルノ場
 合ト看做スリナ得可キモノトス
 身體上ニ對スルモノトハ直チニ身體ノ自由ヲ喪失シ去ラシムルモ
 ノチ云フ一例ヲ舉グルニ甲者非理ニ乙者ノ手ヲ取り丙者ヲ毆打セ
 シメタルカ如キ是レナリ此ノ場合ニ於テハ乙者ハ甲者カ人ヲ毆打
 スルノ用ニ供シタル一器械タルニ過キサルナリ而シテ乙者ノ意豈ニ
 丙者ヲ打ツヲ欲センヤ故ニ此ノ場合ニ在テハ其己ムヲ得サルノ行爲ト
 言ハソヨリ寧ロ之ヲ無意ノ所爲ナリト云フノ勝レルニ如カサル可シ」
 右二個ノ場合ニ於ケル皆其勢ノ抗拒拒止ス可カラサル狀況アルヲ
 要ス果シテ其勢ノ抗拒ス可カラスシテ自由ヲ失却シタルノ行爲ナ
 ルキハ之ヲ罪トシ論セサルモノトス

第二項天災又ハ意外ノ變ニ因リ云々「天然ノ危難ニ強制セラレ他人ノ身命ヲ奪フニアラサレハ自家ノ生命ヲ保存スル能ハサルノ場合ニシテ水火震災其他ノ變ニ遭遇シタル時ニ云フ一例ヲ舉グルニ此ニ同舟江ヲ渡ルモノアリ中流ニ至ルニ及ンテ暴風俄カニ起リ舟遂ニ覆没シ相ヒ共ニ溺レントスルノ際甲者一片ノ板子ヲ得テ之レニ倚テ以テ遁レントセシニ乙者モ亦來テ之レニ倚ラントセリ而シテ其板子ハ能ク甲乙二人ノ命ヲ救ヒ得ヘキニアラサルヲ以テ甲者己レカ命ヲ全フセンカ爲メ乙者ヲ壓倒シテ死ニ致シタルカ如キノ類ナリ此ノ場合ニ於ケル甲者果シテ己レヲ保護スルノ切ナル時ハ假令ヒ人ヲ死ニ致スト雖モ法律ハ之ヲ罪トシ論セサルモノトス凡ソ人タル者ハ行止ノ自由ヲ以テ能ク善惡邪正ヲ識別シテ之ヲ選擇スルノ氣力アリ然リト雖モ是レ尋常動作ノ間ニ止マルノミ若シ夫レ他ノ強制ニ遭遇シ或ハ非常ノ事變ニ際會セハ唯リ己レノ生命

ヲ全フスルヲ知リ一身ヲ保護スルニ汲々下シテ爲メニ善惡ヲ選擇スルノ自由ヲ失シ他人ニ對スルノ義務ヲ忘レ法律ノ禁ト不禁トヲ顧慮スルノ違ナキニ至ラン蓋シ情性ノ勢自ラ然ラサルヲ得サレハナリ其顛沛造次ノ間ニ在テモ尙ホ能ク人ヲ救護センヲ念ヒ身ヲ殺シテ以テ仁ヲ成スカ如キハ道德ノ美事頗ル嘉賞ス可シト雖モ這箇ニ唯仁人君子ノ事ニシテ通常人民ニ望ム可キ所ニ非ラサルナリ故ニ其弱ト呼ヒ怯ト呼フモ唯識者ノ貶黜ニ一任シ法律ヲ以テ之ヲ裁定スルヲ得ス是レ本條第一項及ヒ第二項ニ於テ其所爲ヲ以テ之ヲ罪トシ論セサル所以ナリ然リ而シテ其殺傷ニ關スルノ行爲ノミナラス財產ニ對スルノ行爲モ亦已ムヲ得サルノ場合ニ出テタル時ハ素ヨリ之ヲ罪トシ論スルノ限リニアラス例ヘハ其人ノ爲メニ追逐セラレ遁レントスルモ他ニ途ナキヨリ他人ノ牆壁ヲ破壊シ僅カニ身命ヲ遁レ得タルカ如キ

ノ類是レナリ
 以上敷衍シタル所ノ強制危難ニ自ラ緩急輕重ノ差異アルヲ以テ一
 概ニ之ヲ論スルコトヲ得ス唯裁判官ニ於テ其景狀ヲ審驗シ以テ其果
 シテ已ムヲ得サルニ出テタルヤ否ヤヲ定ム可キモノトス
 ○參照○佛朗西刑法第六十四條○獨逸刑法第五十二條人ニ遁ル可
 カラサル暴害ヲ蒙リ又現ニ己ノ身體又ハ生命或ハ其親族ノ身體
 又ハ生命ニ罹ル危難ニ及フ可ク強迫セラレ己ムヲ得スシテ爲シタ
 ル時又ハ之ヲ爲サズシテ免ル可ラサル時ハ無罪トス○耳自義刑法
 第七十一條凡事瘋癲若クハ抵抗スル能サル劫迫ノ故ニ已ムヲ得ス
 犯罪ニ至ル者ハ皆無罪

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲
 シタル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ本屬長官ノ命令ニ從テ執行シタル事件ニ係ルルハ亦其罪ヲ

論セサルノ場合ヲ示シタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ其罪ヲ論セサル者ハ前條ノ場合ト自ラ相異ナル
 所ナキニ非ラスト雖モ亦是レ其自由ヲ得スシテ犯シタルモノト看
 做サ、ルヲ得ス何トナレハ則チ本屬長官ノ命令ハ必ス之ヲ遵奉セサ
 ルヲ得サルモノニシテ其命令ニ從テ爲シタル事件ハ是レ其職務ヲ
 盡シタルモノナレハナリ例ヘハ獄丁、檢察官ノ命令ヲ奉シテ死刑ヲ
 執行シタルカ如キ異日其死刑ニ處ス可キ者ニ非サルコトノ發覺スト雖
 モ其責ノ歸スル所ハ獨リ命令ヲ下シタル者ニ在リ故ニ法律ハ其命
 令ニ從テ爲シタル事件ハ之ヲ罪トシ論セサルナリ然リ而シテ其罪ヲ
 論セサルニ付テハ左ニ記載スル所ノ三個ノ要件ヲ具ヘサル可カラ
 ス
 第一其命令ヲ下シタル者ハ必ス己レノ附屬スル所ノ長官ナルコトヲ
 要ス蓋シ軍隊ノ司令長官ハ司法官吏ニ向テ命令ヲ下スコトヲ得ス故

ニ司法官吏ハ其命令ヲ遵奉ス可キモノニアラス又司法官吏ハ兵卒ニ命シテ地方ノ騷擾ヲ鎮撫セシムルヲ得ス故ニ兵卒ハ其命令ヲ奉行ス可キモノニ非ラス

第二其命令スル所ノ事件ハ必ス本屬長官ノ職權内ニ在ルヲ要ス蓋シ長官ト雖モ己レカ職權外ノ事件ハ之ヲ令スルヲ得ス故ニ屬官モ亦之ヲ奉スルノ責メナシ

第三其奉行スル所ノ事件ハ必ス己レノ職務上ニ關スルノ事件タルヲ要ス

以上敷衍スル三要件ヲ具ヘテ以テ執行シタル事件ニ付テハ法律以テ之ヲ罪トセス蓋シ本條ノ旨意タル本屬長官ノ命令ニ因ルルハ假令ヒ如何ナル不正ノ所爲タリト雖モ皆之ヲ罪トシ論セサルト云フニハ非ラス若シ夫レ判然法律ニ違犯スルノ事ヲ令シ其命令ヲ承ケテ爲シタル事件ニ於テハ素ヨリ不論罪ノ限リニ非ラス例ヘハ軍隊

ノ司令長官其隊下ノ兵卒ニ命シテ皇城内ニ發砲セシメ若シハ人民ヲ恐嚇シテ其財物ヲ劫奪セシメタルカ如キノ類ナリ此ノ場合ニ於テ其命令ニ發ヒ發砲シ及ヒ奪取ノ所業ヲ行フタル兵卒ハ豈ニ之ヲ全ク罪ナシト爲スヲ得可ケンヤ本條謂フ所ハ即チ其命令スル所本屬長官ノ職權内ニ在リ且ツ自己ノ職務上ニ關スル事件ニ非ラサレハ不論罪ノ限リニアラサルモノトス

○參照○佛朗西刑法第四百十四條第二項第三百二十七條○白耳義刑法第七十條凡ソ國法ニ從ヒ若クハ長官ノ命ヲ奉ノ事ヲ行フ者ハ皆無罪トス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ

論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス

本條ハ法律上罪ト爲ル可キ所業ヲ行フト雖モ其罪ヲ犯スノ意思ナキハ之ヲ罪トシ論セサルノ場合ヲ示シタルモノトス
第一項罪ヲ犯スノ意ナキ所爲云々之ヲ害スルノ惡意ナキ所爲ハ假令ヒ犯罪ニ涉ルト雖モ之ヲ論セサルモノト云フ可カラズ若シ果シテ之ヲ論セサルモノトスルハ夫ノ竊盜ノ如キ若シ宿怨惡意ヲ懷クモノニアラス唯遊手財ヲ得ントスルヨリ遂ニ所有者ノ承諾ヲ得スシテ其財ヲ用ヒタルノミニシテ毫モ其人ヲ害スルノ惡念ナキハニ於テハ亦之ヲ不論ニ措カサルヲ得サル可シ然レモ其人ヲ害スル

ノ惡意無キ而已ヲ以テ之ヲ不論ニ措クヲ得ス

又夫ノ國事犯人ノ如キ國體ヲ一變シ百姓ヲ安堵セシメ以テ國家ノ安全ヲ希圖スルニ外ナラスシテ毫モ人ヲ害セントスルノ意念アルニ非ラスト雖モ到底之ヲ罰セサルヲ得ス

本項云フ所ハ即チ唯其人ヲ害スルノ惡意ナキ而已ノ所爲ヲ云フコト非ラス其事件タル全ク人ノ意表ニ出テタルノ場合ヲ云フナリ例ヘハ獸獵ヲ爲サントシテ深山ニ入リシニ喬木ノ上ニ宿スル者アリ或ハ是レ人ナルカ將テ猿猴ノ属ナルカハ已ニ判然スト雖モ獵夫ハ尙ホ注意ヲ加ヘ熟慮百回其人ニ非ラサルヲ極メ始メテ鳥銃ヲ發射シタリシニ何ソ圖ラン猿猴ニアラスシテ他ノ獵夫ヲ射殺シタルカ如キノ類其思慮ノ外ニ生シタルモノヲ云フナリ
但シ法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者トハ過失殺傷等ノ如キモノニシテ其不注意ヨリ生スル過失ノ罪ハ之ヲ問ハサルヲ得サルモ

ノナリ例ハ家宅ノ建築ヲ請負ヒタル者ハ其建築場ニ閉園ヲ設ケ以テ豫メ往來人ノ危害ヲ防シ可キニ却テ之ヲ爲サスシテ爲メニ往來人ヲ死傷ニ致シタルカ如キ此ノ請負人ハ管ニ失費ヲ厭フテ人ノ生命ヲ顧ミサルノ過失アルヲ以テ法律ハ之ヲ罰スル者ニシテ敢テ不論罪ニ擬スルノ限リニアラス

第二項罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者云々「一處女ノ年十二歳未滿ナルヲ知ラス若クハ婦婦ナリト確信シ之レト通姦シタルニ圖ラサリキ其女ハ未ダ十二歳ニ滿タス而シテ其婦ハ尙ホ所天ノ在ル有ルカ如キ是レ其知ラサル所ノ事實ハ即チ犯罪ヲ成立スルノ元素ナルヲ以テ其人若シ初メヨリ十二歳未滿及ヒ有夫ノ婦ナルヲ知ラハ豈ニ敢テ之レト姦センヤ又當サニ逡巡シテ去ル可シ乃チ之ヲ犯スノ思念ナキモノナレハ法律ハ之ヲ罪トシ論セサルナリ

第三項罪本ト重カク可クシテ犯ス時知ラサル者云々「子孫其祖父母父母ナルヲ知ラスシテ脅迫罪ヲ犯シ官司推問ノ後チ始メテ其祖父母父母ナルヲ知リタルカ如キ是レ子孫其祖父母父母ニ對スル脅迫ノ罪ハ凡人ノ刑ニ二等チ加フル者ニシテ律ニ正條アリト雖モ登時ニ在テハ未ダ其祖父母父母ナルヲ知ラスシテ之ヲ犯シタルモノナレハ之ヲ犯スノ意思ナキモノトス故ニ其重キ加ニ二等ノ律ニ依テ論スルヲ得ス止ク凡人脅迫ノ罪ニ照シテ處斷スルノ類ナリ之レニ反シテ其祖父母父母ヲ毆打セントシテ誤テ凡人ヲ打チタルカ如キハ其意思本ト毆祖父母父母ノ罪ヲ犯サントスルニ在ルヲ以テ亦凡人ノ刑ニ二等チ加フ可キニ似タルニ敢テ然ルニ非ラス凡人毆打ノ律ニ從テ擬斷スルモノトス又竊盜ノ罪ノ如キモ其例ニ乏シカラス例ヘハ此ニ甲者アリ乙者ノ家宅内ニ入り某物品ヲ偷ミ得タランニ圖ラサリキ其物品ハ乙ノ所有ニアラスシテ嘗テ甲カ其同居ノ弟丙カ

付托シタル所ノ物品ニ係ルカ如キ當時甲ハ之ヲ知ラスシテ竊取シタルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ唯人ノ邸宅内ニ入ルノ罪ヲ科スルコト止マリ竊盜罪ハ之ヲ論セサルモノトス 第三百七十條見合 蓋シ法律ノ之ヲ論セサルハ其道徳上ノ害多シト雖モ社會ノ害少ナケレハナリ 網領名例律本條別有罪名條第二項ニ其罪本ト輕カル可キモノハ本法ニ從フヲ聽ストアリ此刑法ニ於テ別ニ之レカ明文ヲ掲ケサルハ蓋シ一般ノ原則ニ從テ決定スルヲ得ヘキモノナレハナリ 第四項法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシ云々 我カ國往時ノ習慣ヲ見ルニ一切ノ法令獨リ之ヲ官衙ニ秘藏シ當該官吏ヲ除クノ外絶テ之ヲ與リ知ル者ナク且ツ其法令ヲ漏サ、ルヲ以テ政治ノ肯概ヲ得タリト爲スモノ、如シ故ニ當時ノ人民ハ斷然法律規則ヲ知ラスト主張スルヲ得可シト雖モ維新ノ際ニ至リ此ノ習慣ヲ一變シ法ヲ頒テ令ヲ布キ周ク之ヲ人民ニ示シ以テ向準スル所ヲ知ラシ

メダレハ今日ノ人民ハ昔日ノ人民ト異ナリ法律規則ヲ知ラスト言フヲ得ス若シ果シテ之ヲ知ラサル者アラハ是レ其知ラサル者ノ過失ナリ法律豈ニ其知ラサルノ故ヲ以テ此ノ輩ノ爲メニ之ヲ貸ス可ケンヤ亦必ス其刑ヲ科セサルヲ得ス蓋シ實地上ニ在テハ法律規則ヲ知ラサル者多カル可シ而ノ之ヲ知ラサルハ強テ人民ノ過失トノミ云ヒ難キ場合ナシトセス此ノ如キ場合ト雖モ亦必ス法律ノ責罰ヲ受ケシムルハ或ハ酷ナルニ似タリ然レモ法律ノ禁止罰責スル所ノ行爲ハ皆是道徳ニ背キ社會ヲ害スルノ事由ニ係ルヲ以テ假令ヒ法律規則ヲ知ラサルモノト雖モ若シ能ク之ヲ良心ニ照シテ考フルルハ自ラ其行爲ノ非ナルヲ知ル可シ故ニ法律規則ヲ知ラスシテ犯シタルト雖モ尙ホ之ヲ罰責スルモノトス 行政上ノ規則又ハ地方ノ便宜ニ從ヒ設定スル所ノ規則ニ付テハ之ヲ知ラサルモ少ク恕ス可キ所アルニ似タリ然レモ全ク之ヲ不論ニ

付スルヲ得ル此ノ場合ニ於テハ唯其罪ヲ宥恕シテ輕減スルヲ得ルニ止マルノミ

○參照○魯西亞刑法第九十二條所爲ヲ罪ト爲ス可ラサル事故ハ左ノ如シ「第一偶然及ヒ先見ナキヨリ惡事ノ生シタル所爲○英吉利刑法凡罪ヲ犯シ其人自ラ法律ヲ知ラスト言フハ其罪ヲ免赦スルヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ法律上罪ト爲ル可キ所業ヲ行ヒ且ツ其之ヲ行フニハ自由及ヒ意思ヲ有シタルキト雖モ獨リ其是非ヲ辨別スルノ知覺ヲ有セサルニ因リ之ヲ罪トシ論セサルノ場合ヲ示シタルモノナリ
知覺精神ノ喪失トハ瘋癲白癲若シハ疾病老耗者等ヲ云フ
罪ヲ犯ス時犯罪ノ前後ヲ云フニアラス唯其罪ヲ犯ス時ニ際シテ知

覺精神ヲ喪失セル者ヲ云フ故ニ犯罪ノ以前ニ在テハ瘋癲病ヲ患フル者ナリシト雖モ之ヲ行フ時ニ在テ已ニ全癒シタルカ如キハ素ヨリ不論罪ノ限リニ非ラサルヲ言テ俟ダスシテ明カナリ又犯罪ノ後チ推問中ニ在テ偶然知覺精神ヲ喪失シタルキハ唯其裁判ヲ中止シ治罪法第二百八條見合ニ裁判確定ノ後ナルキハ刑ノ執行ヲ中止スルノミ
夫レ罪ヲ犯スノ時ニ際シ遽然トシテ其知覺精神ヲ喪失スルモノ徃々之レ有リ就中婦人ノ如キハ哀悼ノ其度ニ過キ或ハ數圍ノ甚太シキ之レカ爲メ乍チ精神錯亂シ俄カニ同室ノ人ヲ刺シ遂ニ非命ノ死ヲ取ラシムル等往々吾人ノ目撃スル所ナリ此ノ如キハ則チ其殺人ノ罪タル精神錯亂中ニ犯セルモノナレハ之ヲ罪トシ論ス可カラス而シテ精神錯亂スルヤ罪ヲ犯シ始ムルノ前僅カニ數分時間ニ起リ已ニ其事ヲ行ヒ終リタルノ後チ又乍チ本心ニ復スルモノアリ此ノ間果シテ精神ノ錯亂セルカ將タ否ヲサルカヲ識別スルハ頗ル難シト

スル所ニシテ一ニ裁判官ノ判定ニ任スルモノトス
 蓋シ断獄ノ法其難キ犯罪ノ實否ヲ知ルニ在ラスシテ犯罪ノ時夫ノ
 三要件即チ意思自由知覺ヲ具ヘクリヤ否ヤヲ求ムルニ在リ故ニ醉
 中ニ在テ人ヲ殺傷シタルカ如キ何人モ能ク其罪ヲ犯シタルヲ知
 ル可シト雖モ醉人ノ知覺精神ヲ喪失セスシテ之ヲ犯シタルヤ否ヤ
 ノ点ニ付テハ恐クハ直チ之ヲ決スルヲ難カル可シ抑モ知覺精神ヲ
 喪失スル者其狀態万別決シテ一樣ナラス或ハ稟性ノ痴漢アリ或ハ
 病痾ノ爲メニ襲ハレテ一時本心ヲ失却スルモノアリ或ハ定時ノ失
 心者アリ或ハ生涯不治ノ癡狂者アリ或ハ老テ面ノ心老スルモノア
 リ若クハ酒氣ノ爲メニ精神ヲ喪失スルモノアリ此レ等ノ者罪ヲ犯
 シタルハ概シテ之ヲ不論ニ措クノ限リニアラス宜ク密ニ審察ヲ
 加ヘ而シテ後チ始メテ論ト不論トヲ決セサル可カラス
 以上敷衍シタル知覺精神ヲ喪失セル者ノ中チ醉狂者處分ノ点ニ付

テハ特ニ困難ナル問題アリ蓋シ飲食ノ間其醉狂ス可キ物ト知ラス
 シテ之ヲ飲ミ或ハ他人ノ偽計ニ陥リ之ヲ飲ミ遂ニ甚ダシク醉狂シ
 殆ント人事ヲ覺ヘス因テ以テ罪ヲ犯シタルカ如キハ其人嘗テ醉狂
 セントスルノ意思ナキヲ以テ之ヲ不論ニ擬スルヲ得可シト雖モ
 其醉狂ス可キ物ナルヲ知テ故ラニ之ヲ飲ミタルハ假令ヒ飲酒ヲ
 禁スルノ法律ナシト雖モ其人竟ニ過失アルヲ免レサルナリ然レト
 若シ果シテ知覺精神ヲ喪失シタル者ナルハ假令ヒ醉狂ニ因ルト
 雖モ亦之レヲ不論罪ニ擬スルヲ得可シ
 若シ又初メヨリ罪ヲ犯サント欲シ故ラニ醉狂スル者アランカ是レ
 其人ハ犯罪ノ爲メ勢力ヲ酒氣ニ藉ルモノナレハ其有罪ナルヲ疑フ
 可カラス何トナレハ即チ其人ハ知覺アリト云フヲ得ヘケレハナリ
 此ノ点ニ付テハ之ヲ法律ニ規定スルモ不可ナルナキニ似タリ然レ
 立法者ハ一ニ裁判官ノ鑑識ニ任セタリ故ニ其有罪無罪ヲ判スル

ハ特ニ裁判官ノ信認スル所ニ在リトス

○参照○佛朝西刑法第六十四條

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

本條以下ハ法律上罪ト爲ル可キ所業ヲ行フト雖モ知覺精神ノ完全ナラサルニ因リ之ヲ罪トシ論セサル者ト其罪ヲ宥恕減輕スルトノ處分法ヲ定メタルモノトス

凡ソ人ノ知覺ハ其年齡ニ隨テ自ラ逕庭無キヲ得ス故ニ幼年者ノ如キハ之ヲ成人ト同一視ス可カラズ蓋シ其知覺精神ノ不完全ナル率ニ善惡是否ヲ辨別セス况ンヤ社會ノ損害ヲ識別スルニ於テチヤ然リト雖モ幼者モ亦一槩ニ之ヲ論スルヲ得ス何トナレハ則チ幼者各其年齡ヲ異ニシ隨テ其識別心ニモ亦多少異ナラサルヲ得ザレハ

ナリ故ニ八歳ノ童子ヲ將テ之ヲ十九歳ノ幼者ニ比スルニ其知覺ノ相ヒ距ル豈ニ分毫ノ間ニ在ランヤ是ヲ以テ法律ハ三期ノ區別ヲ設ケ十二歳以下ヲ第一期ト爲シ十二歳以上十六歳以下ヲ第二期ト爲シ十六歳以上二十歳以下ヲ第三期ト爲シ或ハ全シ其罪ヲ論セス或ハ全シ其罪ヲ論セサルニアラスト雖モ之ヲ宥恕減輕スルモノト爲セリ而シテ本條ハ第一期ノ幼者罪ヲ犯シタル片ノ處分法ヲ定メタルモノトス

夫レ十二歳以下ノ幼童ニ至テハ或ハ怜悯ニシテ其智成人ノ如キ者無キニアラスト雖モ是レ萬中ニ就テ一ヲ計フルニ過キスシテ世間ノ小童子能ク菽麥ヲ辨スル者蓋シ亦少レナリ何ソ况ンヤ能ク其所爲ノ善ト不善トヲ辨別スル者ニ於テチヤ其偶惡所爲ヲ行ヒ以テ社會ヲ害スルニ至リシハ畢竟膝下ノ教ヘ足ラサルニ原因スルノミ故ニ幼年即チ十二歳以下ニシテ罪ヲ犯スト雖モ是非ヲ辨別スルノ知

覺チ有セサルカ爲メ法律ハ之ヲ罪トシ論セサルナリ然レハ儘_レ狡童アリ後來更ニ社會ノ害ヲ惹起ス可キノ恐レアル者ハ亦之レカ懲戒ヲ加ヘサル可カラス故ニ滿八歳以上ノ者ハ其犯罪ノ情狀ニ因リ裁判官ノ意見ヲ以テ滿十六歳ニ過キサル時間ヲ期限ト爲シ相當年限間之ヲ懲役場ニ留置シテ懲戒セシムルヲ得可キモノトス

懲治場ニ留置スルハ之ヲ刑罰ト看做ス可カラス唯幼者ヲ改良ニ導クノ主義ニシテ後チ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論ス可キモノニ非ラス又本條ニ罪ヲ犯ス時トアルハ前條ト同一ノ主義ニシテ其罪ヲ犯ス時ニ臨ミ尙ホ十二歳ニ滿タサル者ヲ云フナリ

○參照○獨逸刑法第五十五條凡罪ヲ犯シ未ダ滿十二歳ニ至ラサレハ其罪ヲ論セス○英吉利刑法止テ七歳以下ハ重罪ヲ犯スト能ハスト爲ス若シ犯スト雖モ罪ニ坐セス○魯西亞刑法第九十四條七歳以下ノ年少ニシテ未ダ全ク己レカ所爲ノ何物タルヲ辨知セサル者ハ

犯罪及ヒ違罪ノ刑罪ニ属セス而シテ其者ハ説論及ヒ教戒ヲ受ンカ爲ニ父母或ハ後見人又ハ親戚ニ附託セラレ○佛朗西刑法第六十六條

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

本條ハ第二期ノ幼者罪ヲ犯シタルトノ處分法ヲ定メタルモノトス凡ソ十二歳以上十六歳未滿ノ幼者罪ヲ犯シタルトハ先ツ其幼者ニ於テ善惡是非ヲ辨別シテ犯シタル歟或ハ辨別ナクシテ之ヲ犯シタル歟ヲ察セサル可カラス蓋シ十二歳以下ノ幼者ニ於テハ法律上概

シテ知覺無キモノト認ムルヲ以テ如何ナル行爲ニ係ルト雖モ敢テ區別スルヲナク都テ之カ刑ヲ科セス而シテ十六歳以上二十歳未満ノ幼者ニ於テハ法律上概シテ知覺有ル者ト認ムルヲ以テ亦敢テ區別スルヲナク都テ之レカ刑ヲ科ス可キモノトス然ルニ其中間ニ在ル第二期ノ幼者ニ至テハ確然知覺ナシト言ヒ難ク又確然知覺アリトモ言ヒ難シ故ニ裁判官ニ於テ其是非ヲ辨別シテ犯シタルヤ否ヤヲ審判セサル可カラズ

若シ其幼者辨別ナクシテ犯シタル者ト宣告セラル、其ハ十二歳未満ノ幼者ト等シ處分セラル、モノトス而シテ此ノ場合ニ於テハ二十歳ニ滿タサル時間ヲ期限トシ懲治場ニ留置セラル、前條ノ法ニ同シ

第二項若シ其幼者辨別アリテ犯シタル者ト宣告セラル、其ハ有罪トシテ刑罰ヲ受ク可キモノトス然レモ丁年即チ滿二十歳以上ノ者

ト同一ノ刑ヲ科ス可カラズ何トナレハ則チ其能力ノ充分ナラズシテ丁年者ニ比スレハ自ラ間有レハナリ故ニ本刑即チ丁年者ノ受ク可キ刑ヨリ二等ヲ減シテ之ヲ科スルモノナリ

○參照○佛朗西刑法第六十六條○獨逸刑法第五十六條滿十二歳以上十八歳以下ニテ罪ヲ犯シタルニヨリ其罪ヲ論スルハ其所業ノ罪アルヲ辨別スルヲナク無意ニ出テ爲シタルト認レハ放免ス可シ
○白耳義刑法第七十二條凡犯罪者ノ年齢未タ十六歳ニ滿タスシテ其故意ニ出テサル者ハ論スル勿レ○英吉利刑法八歳以上十四歳以下ハ若シ自ラ其事ノ曲直ヲ了解シテ故ヲニ犯セハ仍ホ其罪ニ坐セス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

本條ハ第三期ノ幼者罪ヲ犯シタル者ノ處分法ヲ定メタルモノトス

十六歳以上二十歳以下ノ幼者ハ法律上概シテ知覺ヲ有スルモノト認ムルヲ以テ必ス其刑ヲ科ス可キモノトス然レヒ之レヲ丁年者ニ比スレハ亦自ラ其能力ノ不充分ナル所アリ故ニ丁年者ノ受ク可キ刑ヨリ宥減輕セサルヲ得ス而シテ其第二期ノ幼者ニ比スレハ亦之レヨリ勝ル所アルヲ以テ其刑ヲ重クセサルヲ得ス因テ法律ハ減一
 等ニ從ヒ以テ彼此ノ權衡其宜シキヲ得セシメタリ
 抑モ法律ニ於テ幼者ノ年齢ニ付キ此ノ如ク三期ニ區別セラレタリト雖モ人各其性質ノ相ヒ異ナルアリテ賢愚一樣ナラス又教育ノ有無ニ因テ知識ノ開達自然遲速アリ等ク一期内ニ在テモ多少ノ不同ナキヲ得ス然レヒ法律ニ於テハ此ノ如キ事ヲ豫定スルヲ能ハス故ニ之ヲ三期ニ大別シ其犯人各自ノ能力ニ付テハ一ニ之ヲ裁判官ノ鑑定ニ任セラレタリ
 又法律ニ於テハ特ニ幼者ノ年齢ニ付區別ヲ設ケタルノミニシテ

老年者ノ爲メニハ此ノ法ヲ設ケス蓋シ人生已ニ五旬ヲ超ユレハ其體力次第ニ衰弱スルニ至ル可キモノト雖モ其智力ニ至テハ敢テ然ルモノニアラス若シ夫レ其年齢ヲ重スルニ從ヒ智力ノ衰弱スルモノト定ムルニ於テハ却テ老者ノ爲メニ耻辱ヲ與フルニ似テ甚タ其理ナキモノトス故ニ若シ老人罪ヲ犯サハ唯裁判官其實地ニ就テ知覺ノ有無ヲ判ス可キノミ

○参照○伊太利新刑法第六十八條滿十八歳ニシテ未ダ二十一歳ニ滿タサル者ノ犯罪ハ本罪ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

瘖啞者トハ耳ニ音聲ヲ聽クヲ能ハス口ニ言語ヲ發スルヲ能ハサル者ヲ云フ蓋シ瘖啞者ニ生來ノ者アリ又幼年若クハ丁年以上ニ及ヒ

偶然瘖啞ト爲ルモノアリ本條言フ所ノ瘖啞者ハ生來瘖啞ナル者ヲ云フナリ

夫レ生來聾ナル者ニ非ラサレハ口モ亦啞ナルニ非ラス必スヤ人ノ言辭ヲ聽キ能ク之ヲ擬似シテ自ラ談話ヲ爲スヲ得ヘシ然ルニ生來聾ナル者ハ他人ノ言語耳朶ニ上ラス他ノ口吻ヲ開合スルヲ見ルモ何等ノ爲メナルカ之ヲ解得スルヲ能ハサルカ爲メ到底教ノ以テ施ス可キナシ故ニ其善惡是非ヲ辨別スルノ知覺ヲ有セサル素ヨリ言ヲ俟タズシテ明ナリ是ヲ以テ法律ハ其年齡ノ區別ナク十二歳以下ノ幼者ハ同一ノ處分ヲ施ス可キモノト爲セリ

然レモ其犯罪ノ情狀ニ因リ將來再ヒ危險ヲ生ス可キノ恐レナキヲ得ス此ノ場合ニ於テハ亦幼者ト同一ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ懲戒セザル可カラズ故ニ五年ニ過キサル時間ヲ期限トシ裁判官ノ意見ヲ以テ適宜ニ年限ヲ定メ懲治場ニ留置スルヲ得セシムルモノトス

若シ生來ノ瘖啞者ニアラスシテ丁年以上或ハ丁年未滿ニシテ瘖啞ト爲リタル者ハ其者管テ多少ノ教育ヲ受ケ已ニ善惡是非ヲ辨別スルノ知覺ヲ具フルヲ以テ本條不論罪ノ限リニアラス唯裁判官ニ於テ其情狀ヲ酌量シテ宥恕スルニ止マルノミ

○參照○魯西亞刑法第九十八條生來ノ聾者及ヒ幼年ニ於テ耳聾及ヒ舌言ヲ失ヒシ者ハ教養ニ由テモ交接ニ由テモ義務及法律ノ何物タルヲ知得セサルヲ疑ナキハ亦犯罪及ヒ違罪ノ刑罰ニ處セラレズ然レモ斯ノ如キ聾者ニシテ殺害ヲ爲シ又ハ自他ノ性命ヲ犯シ或ハ放火ヲ企ルノ場合ニ於テハ彼番卒ノ下ニ在ル他ノ者ト別異シテ之ヲ禁錮シ及ヒ之ヲ嚴重ニ監視スルノ處分ヲナス

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス
滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本

刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

違警罪ハ他ノ罪ヨリ甚ク輕微ニシテ其刑モ亦甚ク輕微ナル者トス故ニ其刑ノ目的タル專ラ警察取締上ニ關シ其徳道上ノ損害ヨリハ却テ社會ノ損害ヲ防衛スルカ爲ニ罰ヲ加フルモノトス而シテ之ヲ罰スルニ付テハ害意ノ有無ヲ問ハス又法律ニ背シ念慮ノ有無ヲ分クサルモノナレハ敢テ其犯人ノ丁年以上及ヒ知覺ノ充分ナルヲ要セス故ニ第三期ノ幼年者即チ十六歳以上二十歳以下ノ者ト雖モ其罪ヲ宥恕セス其第二期ノ幼年者即チ十二歳以上十六歳以下ノ者ニ至テハ僅カニ一等ヲ減スルニ止マルノミトス然レモ其第一期ノ幼者即チ十二歳以下ノ者及ヒ瘖啞者ニ至テハ法律上全ク知覺ナキモノト認ムルヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ス又其罪ノ輕微ナルカ故ニ之ヲ留置スルヲナシ

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

本節ニ記載スル所ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ハ其犯罪ノ性質如何ヲ問ハス又其犯人ノ身分ノ何ニタルヲ分クテ廣ク一般ニ之ヲ適用スル所ノ法則ナリトス故ニ之ヲ總則中ニ記載セリ然ルニ此ノ總則ノ外特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕アリ乃チ第三編第一章第三節ニ記載セル殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪ノ如キモノ是レナリ是等ノ宥恕及ヒ不論罪ハ特ニ其一犯罪ニノミ限リ適用スル者ニシテ一般ニ適用ス可キモノニ非ラサルナリ故ニ之ヲ總則中ニ記載セス尙ホ其詳カナルハ各本條ニ就テ之ヲ説明ス可シ

第二節 自首減輕

本節ニ記載スル所ノ減輕ハ前節ニ記載スル所ノ減輕トハ其性質相ヒ同シカラス前節ノ減輕ハ犯罪ヲ成立セシムルノ元素即チ夫ノ三

要件ヲ欠缺スルニ因リ其罪ヲ宥恕シテ刑ノ減輕ヲ爲スモノナリ而
シ本節ノ減輕ハ敢テ此ノ理由ニ因ルコアラズ犯人巳ニ三個ノ要件
ヲ具備セリト雖モ唯自ラ其罪ヲ首シテ之ヲ訴フルカ故ニ其刑ヲ減
輕スルモノトス

犯罪自首ノ律ハ巳ニ舊律中ニ於テ見ル所ナリ然レモ該律ノ旨趣ハ
專ラ清明律ヨリ取レル者ニシテ此ノ刑法トハ其理由ヲ異ニシ且ツ
其適用スル所モ亦彼此廣狹ノ差アリ

蓋シ舊律ノ自首法ハ全ク犯人悔悟ノ一點ニ在リ例第六十九條明カ
ニ之レカ解釋ヲ下シタルヲ見テ知ル可シ而シテ專ラ盜罪及ヒ其他財
産ニ對スルノ罪ニ適用シ身體ニ對スルノ罪ニ至テハ并ニ自首ノ例
ヲ用ヒス犯罪自首條第三項ヲ見テ知ル可シ其再犯ニ係ルモノ亦同
シ例第六十六條ヲ見テ知ル可シ而シテ未發已發及ヒ贓ノ徵不徵ヲ分
テ或ハ全免ヲ與ヘ或ハ減輕ニ止ム犯罪自首條第五項及ヒ例第五十

九條ヲ見テ知ル可シ

然ルニ此ノ刑法ニ於テハ全ク之レト異ナリ犯人其事ノ未發以前ニ
在テ自ラ首出スルルハ官其捜査ノ煩勞及ヒ費用ヲ省キ又犯人其踪
跡ヲ隱匿シテ刑罰ヲ免ルハノ患ヲ防キ又其巳ニ刑罰ヲ免レ爲メニ
無辜者冤ヲ受クルノ患ヲ防クトノ理由ニ因レリ故ニ敢テ本犯ノ悔
悟ヲ要セス又敢テ財産ニ對スルノ罪ト身體ニ對スルノ罪トヲ分ツ
テ要セスシテ廣ク一般ノ犯罪ニ適用シ唯一二ノ例外アルノミ而シ
初犯再犯ヲ分ダスシテ減輕スルモ全免ヲ與ヘサルヲ以テ原則ト爲セ
リ但シ二三ノ例外アリ其處ニ就テ之ヲ説明ス可シ

第八十五條 罪ヲ犯シ事未ダ發覺セサル前ニ於テ官
ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係
ル者ハ自首減輕ノ限ニアラス

本條ハ重罪輕罪違警罪ヲ問ハス又身體ニ對スルト財産ニ對スルト

オ分々罪ヲ犯シテ事未ダ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首スルハ
 本刑ヲ減輕シテ犯人ニ利益ヲ得セシムルノ原則ヲ示シタルモノト
 ス
 自首減輕ヲ與フルハ一般ノ犯罪ニ適用スト雖モ素ヨリ之レカ制限
 ナナサ、ルヲ得ス今本條規定スル所ヲ見ルニ二個ノ要件アリ以テ
 之レカ制限ヲ爲セリ
 第一罪ヲ犯シテ事未ダ發覺セサル前ニ自首スルヲ要ス故ニ重罪輕
 罪及ヒ違警罪ヲ犯シテ自首スト雖モ其事タル被害者ノ告訴ヲ經ル
 カ或ハ他人ノ告發其他ノ事由ニ因テ已ニ官ニ覺露シタルノ後チニ
 係ルハ本犯未ダ之ヲ知ラサルモ自首減輕ヲ與フルノ限リニ非ラ
 ス蓋シ自首減輕ヲ與フルハ已ニ説明シタルカ如キ理由ナルヲ以テ
 其事ノ己ニ發覺ニ及ヒタル後チニ在テハ官爲メニ搜索ノ事ニ着手
 シ早晚之ヲ追捕スルヲ得可ク又他ノ無辜者ノ冤ヲ受クルノ患ナク

社會ニ於テ毫モ利益ヲ得ルコトナケレハナリ
 第二自ラ官ニ首出スルヲ要ス官ハ裁判所及ヒ警察署ヲ指ス凡ソ裁
 判所及ヒ警察署ハ犯罪捜査ノ事ヲ司トルノ處ト爲ス故ニ假令ヒ犯
 罪未發ノ以前ニ在ルト雖モ此レ等ノ官衙ニ自首セシテ他處ニ首
 出スルハ毫モ自首ノ効ヲ有スルモノニアラス已ニ自首ノ効ヲ有セ
 サレハ其減輕ヲ與フ可カラサルハ言テ俟タスシテ明カナリ
 以上二個ノ要件ヲ具ヘテ自首スルハ如何ナル罪ト雖モ本刑ニ一等ヲ
 減スルヲ以テ原則ト爲ス然レモ其謀殺故殺ニ係ル者ハ并ニ自首ノ
 律ヲ用ヒス是レ其例外ナリトス抑モ謀殺故殺ハ罪ノ最モ大ニ惡ノ最
 モ極レルモノニシテ其道德ヲ損シ社會ヲ害スル斯レヨリ甚ダシキ
 ハ無クシテ人情ノ容ス可カラサルモノナレハ法律之ヲ死刑若クハ
 無期徒刑ニ置ケリ然ルニ夫ノ光棍的人ヲ殺シ或ハ賊子其祖父母々
 々ヲ謀殺スルノ慘狀アルモ自首スルノ故ヲ以テ之ヲ死刑若クハ

無期徒刑以下ニ降サハ法律ノ効以テ他ノ懲戒ヲ取ルニ足ラス故ニ此レ等ノ罪ニ於テハ并ニ自首減輕ノ律ヲ用ヒサルモノトス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セズト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

財産ニ對スル罪トハ第三編第二章中ニ記載スル強盜及ヒ詐欺取財或ハ遺失物埋藏物若シハ受寄財産等ノ罪ヲ云フ本條ハ此レ等ノ罪ヲ犯シタル者自首シテ贓物ヲ返還シ損害ヲ賠償シタルトノ減輕法ニ定メタルモノニシテ分テ二ト爲ス一ハ贓物及ヒ損害ノ全部ヲ返還賠償シタル時其二ハ半數以上ノ返還賠償ヲ爲シタル時是レナリ

夫レ罪ヲ犯シ事未ダ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首スルトハ本刑ニ

一等ヲ減スルヲ以テ原則ト爲ス然ルニ財産ニ對スルノ罪ヲ犯シタル者自首シ贓物ノ全部ヲ被害者ニ返還シ且ツ損害全部ノ賠償ヲ爲シタルトハ前條ノ例ニ照シテ一等ヲ減スルノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減シ通減三等ニ從ヘリ蓋シ其自首シテ贓物ノ全部ヲ返還シ併セテ損害ノ全部ヲ賠償シタル時ハ被害者ニ於テ毫モ損失スル所ナリ而シテ幾分カ社會ノ損害ヲモ消滅シタル者ナリ故ニ自首減輕ノ外仍ホ二等ヲ減スルモノトス其全部ノ還償ヲ爲スニ至ラスト雖モ半數以上ヲ還償シタル者ハ自首減輕ノ外仍ホ一等ヲ減シ通減二等ニ從ヘリ蓋シ犯人全部ノ還償ヲ爲ス者ハ實際上絶テ無クシテ僅カニ有ル者ト云フモ敢テ過言ニ非ラサル可シ何トナレハ則チ犯人多クハ贓物ノ幾分ヲ費消シ又全部ノ還償ヲ爲ス可キ資力ヲ有スル者少レテレハナリ試ミニ之ヲ實地ニ徵スルニ夫ノ盜罪ヲ犯スガ如キハ概テ窮漢的ノ活路ニ迷ヒ誠ニ旦暮ノ命ヲ繫クコト能ハス饑寒交一身ニ

集マリ之レカ爲メ只得他ノ財物ヲ偷ムニ至ルカ否ヲヤレハ放蕩子
 ノ快チ花柳ニ買ハントスル者偶々囊底ノ空ヲ報スルヨリ倏忽ノ間
 變シテ偷兒ト爲ルノ類ナリ此ノ輩本ト家ニ餘産アル者ニ非ラス又
 其得ル所ノ財ヲ以テ倉庫ニ貯蓄セントスルニモ非ラス亦必ラス其
 幾分ヲ消費スルナル可シ然ラハ即チ此ノ輩ニ望ムニ全償ヲ以テス
 ルモ到底得可カラズ唯詐欺取財若シハ消費受寄財産等ノ如キハ格
 別ナリト雖モ此レ等ノ罪ハ盜罪ノ多キカ如クナラス故ニ法律ハ獨リ
 其全部ノ還償ヲ爲ス者ニノミ減輕ノ利益ヲ與ヘスシテ能ク半數以
 上ノ還償ヲ爲シタル者ニモ亦自首減輕ノ外仍ホ一等ヲ減シ通減二
 等ノ利益ヲ受クルヲ得セシム蓋シ假令全數ノ還償ヲ爲スニ至ラ
 スト雖モ全ク其還償ヲ爲サ、ル者ニ比スレハ亦大ニ其情ノ恕ス可
 キアリ而シテ犯人ノ良意ヲ烏有ニ販セシムルハ法律ノ望ム可キ所ニ
 アラザレハナリ然リ而シテ其或ハ幾分ノ還償ヲ爲シタリト雖モ仍ホ

半數ニ滿タサル者ハ法律ニ於テ別ニ減等ノ利益ヲ與ヘス是レ其刑
 罰ヲ細分スルヲ得サルニ因ルヲ以テナリ故ニ若シ自首シテ其還償
 ヲ爲スモ仍ホ半數ニ及ハサル者アラハ裁判官ニ於テ長期短期ノ範
 圍内ニ就テ公平ノ刑ヲ科ス可キノミ
 以上敷衍シタル返還賠償ハ必ラス本犯ノ眞意ヨリ出テ其罪ヲ首ス
 ルト共ニ還償スル者ヲ云フ若シ私訴ノ裁判ニ因テ還償ヲ宣告セラ
 レ而シテ之レヲ還償スルカ又ハ自首スルニ非ラスシテ逮捕セラレタ
 ル後チ本犯ヨリ還償シタルカ如キハ假令ヒ全部ノ還償ヲ爲スト雖
 モ減等スルノ限リニ非ラス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シ
 タル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處
 斷ス

凡ソ犯罪自首ト稱スルモノハ官廳ニ對シテ自己ノ罪惡ヲ首出スル

者ヲ云フ是レ一般ノ法則ナリ然レモ特ニ財産ニ對スルノ罪ニ限リ必ラス官廳ニ自首セスト雖モ被害者ニ首服シタルハ亦官廳ニ自首スルト同ク論シ第八十五條ノ例ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ若シ全部ノ還償ヲ爲シタルハ第八十六條ノ例ニ照シ仍ホ二等ヲ減シ其全部ニ及ハスト雖モ半數以上ヲ還償シタルハ仍ホ一等ヲ減スルモノトス若シ又毫モ還償ヲ爲サ、ルカ或ハ之ヲ爲スト雖モ仍ホ半數ニ及ハサルハ唯自首ノ減等即チ一等ヲ減スルニ止マルノミ

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

本節ニ記載スル所ノ自首減輕ハ一般ノ犯罪ニ適用スル所ノ法則アリ然ルニ此ノ自首減輕ノ外各本條ニ於テ別ニ自首ノ例ヲ掲ケタルモノアリ乃チ第二百二十六條第九十二條第二百二十六條第三百五十六條ノ如キ是レナリ是レ特ニ其一犯罪ヲ限リ適用スル者ニシテ

本節掲ケタル所ノ自首ト同シカラス本刑ヲ全免ス是レ等ノ場合ハ各其本條ニ從テ處斷シ敢テ一般ノ自首法ヲ適用セサルモノトス

第三節 酌量減輕

酌量減輕ノ法ハ我カ國ニ於テ從來用ヒ來レルモノニアラス向キニ明治七年十二月申第三十四号ノ御布告ヲ以テ五等減ノ法ヲ頒布セラレタルヲ酌量減輕ノ嚆矢ト爲ス故ニ此ノ法ハ仍ホ新法ニ屬スト云フモ可ナリ

之レニ反シテ歐洲諸國ニ於テハ早ク已ニ此ノ法ヲ用ヒラレタリ而シテ此ノ法ヲ非トスル者ハ常ニ刑罰ヲシテ其効ヲ失却セシムト云ヘリ然レモ此ノ說ハ允當ナルニ非ラサルカ故ニ佛朗西獨逸及ヒ以太利白耳義其他ノ諸州ニ於テモ今尚ホ酌量減輕ノ法ヲ用ヒサル所ナシ而シ佛朗西國ノ如キハ一千八百十年法律發行ノ際ハ唯輕罪ニノミ之ヲ適用シタリシカ一千八百二十四年ニ至リ始メテ二三ノ重罪ニ

適用スルヲ許シ其後チ一千八百三十二年法律改正ノ時ニ至リ更ニ諸般ノ重罪ニ適用スルヲ許シタリ蓋シ此ノ法ヲ重罪ニ適用スルヲ許サ、ルキハ陪審官死刑ニ該ル者ヲ憐ミ証佐已ニ定マルト雖モ枉ケテ之ヲ無罪ナリト主張スルヲ多キヲ以テ此ノ弊ヲ矯メンカ爲メニ斯ク改正ヲ施シタルモノナリト云ヘリ

我カ國ニ於テハ陪審ヲ置カスト雖モ若シ酌量減輕ノ法ヲ置カサレハ其死刑ニ該ル者事實憫諒ス可クシテ直チニ本刑ヲ科シ難キモノアルモ裁判官ハ他ニ減輕スルノ途ナキヨリ遂ニ本刑ヲ科シ爲メニ慘情ヲ見ルヲアル可ク加之他ノ重罪及ヒ違警罪ニ付テモ亦或ハ刑罰ノ苛酷ニ涉レル点ニ於テ此ノ法アルトキハ大ニ得ル所アル可シ

抑モ犯罪ノ情狀ニ有形ノ罪狀及ヒ無形ノ罪狀ノ異ナル有り有形ノ罪狀ハ法律上豫メ之レヲ規定スルヲ得ルト雖モ無形ノ罪狀ニ至

テハ法律之ヲ豫定スルヲ能ハス何トナレハ則チ其罪狀タル千態萬狀決シテ一様ナラサルヲ以テナリ例ヘハ他人ノ財物ヲ竊取スルカ如キ是レ有形ノ罪狀ナルヲ以テ法律之ヲ豫定シテ某ノ刑ニ處ス可シト明言スルヲ得ルト雖モ其盜情ニ至テハ或ハ窮子漢、債鬼ノ爲メニ督責セラレ僅カニ其責メヲ否カントシテ他ノ財物ヲ偷ム者アリ或ハ飲食ノ人其口腹ヲ養ハンカ爲メ竊取ノ策ヲ施スモノアリ或ハ色慾ノ爲メニ心醉シ己ニ我カ財產ヲ耗盡シ他ノ財物ヲ竊ムモノアリ若クハ性來ノ癖ニシテ彼此ノ物品ヲ連テ一様ノ看ヲ爲ス等其情狀ノ相ヒ異ナル概シテ之ヲ梁上ノ君子ト稱スルモ亦同一視シ難キモノアリ是レ即チ無形ノ罪狀ニシテ其生スル所ノ原因或ハ教育ノ臧否ニ因ル歟或ハ稟性ノ賢愚ヨリ起ル歟若クハ身位ノ貴賤、資産ノ貧富等一ニシテ足ラス素ヨリ之ヲ法律上ニ豫定シ得可キ所ニ非ジサルナリ是ニ於テ乎立法者之ヲ豫定スルヲナクシ裁判官ヲ實地

ノ情狀ヲ審理シ適當ノ處分ヲ爲サシム酌量減輕ノ法即チ是レナリ
蓋シ立法者法律上ニ豫定スルコトヲ決テ裁判官ニ委スルモノ
獨リ酌量減輕ノ法ノミナラス儘之レ有リト爲ス而シテ斯ク豫定スル
コトナクシテ一ニ裁判官ノ鑑定ニ任セタル場合ニ於テハ前二節ニ揭
ケタル法律上ノ宥恕等ト甚ダ相ヒ異ナルモノト爲ス前節ノ如キハ所
謂有形ノ罪狀ニシテ法律ノ豫定スル所ナルヲ以テ裁判官ハ必ラス
之ヲ適用セサル可カラサル者ト雖ヒ本節ノ如キハ然ルニ非ラス裁
判官ハ唯其犯人ノ情狀特ニ憫諒ス可キ者ト認ムルキニ於テ之ヲ適
用スルコトヲ得ルノミトス之ヲ要スルニ其輕減ス可キノ事實ヲ制限
スルト否ヲサルトノ異ナル有ルニ過キサルノミ

**第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分ダス所犯情狀原諒
ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得
法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其**

酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

凡ソ確定ノ罪狀即チ有形ノ罪狀ハ之ヲ法律上ニ豫定シ以テ某ノ罪
ニハ某ノ刑ヲ科ス可シト爲シタリト雖モ其所犯ノ情狀百出ニシテ
一様ナラス或ハ憫諒ス可キ者アリテ本刑ノ苛酷ニ涉レリト認ムル
キハ其罪ノ種類如何ナルヲ問ハス裁判官ノ意見ヲ以テ法律ニ定ム
ル所ノ各本刑ヲ減輕シテ適當ノ處置ヲ施スコトヲ得可キモノトス是
レ本條ノ明示スル所ナリ
而シテ其法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者例ハ再犯ノ如
キ本刑ニ一等ヲ加フルキ又ハ宥恕減輕若クハ自首減輕從犯末遂犯
ノ減輕等ノ如キ場合ト雖モ其所犯ノ情狀ニ於テ苟クモ原諒ス可ク
シテ刑罰ノ酷ニ過クルモノト認ムルキハ一旦本刑ヲ加重シタルキ
ト雖モ更ニ之ヲ減輕シ又已ニ之ヲ減輕スルモ仍ホ更ニ之ヲ減輕ス
ルコトヲ得ルモノトス

○参照○佛朗西刑法第四百六十三條 千八百六十三年五月十三日改正ノ法 ○伊太利新
 刑法第七十條一法律中正條ヲ以テ特示シタル減刑ノ外重罪又ハ輕
 罪ヲ犯シタル犯人ノ爲メ酌量減輕ノ情狀アル時ハ尙ホ一等ヲ輕減
 ス二前項ノ輕減ハ死刑ニ該ル重罪ヲ犯シタルトノ言渡アル犯人
 ニ付少ナクトモ陪審三員ヨリ酌量減輕ス可キ情狀アリト申立ル毎
 ニ之ヲ用フ可シ ○白耳義刑法第七十九條凡ソ情狀斟酌ス可キモノ
 ハ下條ニ照準シ刑ヲ減ス可シ 下條即チ八十條以下ハ ○埃及刑法第
 三百四十一條 法文長キヲ以テ之ヲ次條ニ記載ス可シ

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等
 ナ減ス

前條ニ於テハ唯其本刑ヲ酌量減輕スルヲ得ルト明示シタルニ過
 キス故ニ獨リ前條ノミニテハ酌量減輕ス可キ者アリト雖モ其本刑
 ニ何等ヲ減ス可キヤヲ知ル能ハス因テ本條ニ於テ酌量減輕ス可キ

キハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スルヲ以テ定限ト爲ス可キヲ明示
 セテレタリ而シテ此ノ點ニ付テハ舊律ト異ナリ減二等ヲ超ルヲ許
 サス舊律ニ於テハ減シテ五等ヲ過シルヲ得ストアリ蓋シ舊律ニ
 於テハ其刑ニ長期短期ヲ付スルヲナク刑期ノ融通ヲ爲スヲ能ハサ
 ルカ故ニ減シテ五等ニ至ルヲ許サレハ允當ヲ得サルニ似タリ
 ト雖モ此ノ刑法ニ於テハ然ラズ此ノ如ク數等ヲ減スルキハ却テ刑
 罰ノ寬ニ流レ理ニ於テ適合セサル所アル可シ故ニ一等若クハ二等
 ナ減スルヲ以テ定限ト爲シタルハ最モ適當ノ法ト云フ可キノミ
 ○参照○佛朗西刑法第四百六十三條 ○伊太利新刑法第七十條 法文
 條ニ揭 ○白耳義刑法第八十條凡ソ罪死刑ニ該ル者ハ減シテ無期懲
 役若クハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ 第二項以下第八
 文長キヲ ○埃及刑法第三百四十一條

第五章 再犯加重 凡八條

凡ソ刑ヲ加重スルニ一般ノモノアリ特別ノモノアリ本章定ムル所
 ノモノハ一般ノ犯罪ニ適用スル加重法ナリ
 再犯トハ前キニ一罪ヲ犯シ已ニ刑ニ處セラレ滿期放免ノ後チ若シ
 ハ其刑期限内ニ在テ再ヒ他罪若クハ同罪ヲ犯シタルモノヲ云フ若
 シ初犯ノ裁判宣告ノ後チニシテ未ダ其裁判ノ確定セサル已前ニ於
 テ更ニ別罪又ハ同罪ヲ犯シタルモノハ之ヲ再犯ト言ハスシテ數罪
 俱發ノ例ニ照シテ處断スルモノトス蓋シ再犯ト數罪俱發トハ甚ダ
 相ヒ似テ而シ其効果ハ甚ダ相ヒ異ナルモノナリ乃チ一ハ其刑ヲ加
 重セラル、モ一ハ否ラスシテ却テ刑罰消滅中ノ一ニ在ル是レナリ
 其詳カナルハ第七章ニ至テ之ヲ説明セン
 抑モ一罪前キニ發シ已ニ断決テ經タル後チ再ヒ別罪若クハ同罪
 ヲ犯シタルモノハ各本刑上ニ就テ加重スルモノハ何ソヤ是レ他ナシ
 凡ソ刑罰ノ目的タル主トシテ犯人ヲ懲戒シ非チ悔ヒ過チチ悛メ卒

ニ能ク本然ノ善ニ反ラシメント欲スルニ在リ然ルニ一旦刑罰ニ處セラ
 レ責罰ノ苦楚ヲ喫着スルト日チ累チ月チ積ミ又年チ經ルト雖モ尙
 ホ未ダ悛改セスシテ再ヒ罪ヲ犯シ靦然法網ニ觸ル、チ意トセス更
 ニ社會ヲ害シ道德ヲ破ルカ如キニ至テハ情ニ於テ甚ダ惡ム可シト
 爲ス蓋シ犯人ノ再ヒ斯ル結果ヲ見ルニ至リシハ必竟是レ前キノ刑
 罰其効ヲ奏セサルニ因ル可シ今此ノ輩ヲ待ツニ通常ノ刑ヲ以テス
 ルモ耻心已ニ冥シ亦懼心ヲ動シ以テ懲戒ノ効ヲ奏セシムルニ足ラ
 ス故ニ本刑ヲ加重シテ其警ヲ嚴ニスルナリ
 再犯加重ノ点ニ付テハ舊律ト相ヒ同シカラス名例律再犯加等罪例
 條ニ據ルニ凡ソ竊盜及ヒ賭博ヲ犯シ云々并ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ
 加フト有リ又監守盜常人盜ハ竊盜ト同シシ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加
 フルノ明文アリ故ニ舊律ニ於テ再犯加重ト稱スル者ハ特ニ盜罪即
 チ強盜及ヒ監守盜常人盜並ニ賭博等前後同罪ヲ犯シタルモノニ非

ラサレハ再犯ヲ以テ論スルノ限リニ非ラスト爲ス此ノ刑法ニ於テ
ハ之レニ反シ都テ一般ノ犯罪ニ適用シ唯罪ノ種類即チ重罪輕罪違
警罪ノ區別ニ依テ少シシ制限アルニ過キサルノミ

○第五條ノ末ヘ掲載セル第七十二號布告參看

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重 罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ハ初犯重罪ニシテ再犯モ亦重罪ナル時其刑ヲ加重スルノ法ヲ
定メタルモノナリ

再犯加重ハ後犯ノ本刑ニ一等ヲ加フルヲ以テ法ト爲ス而シテ初犯再
犯共ニ重罪ナル時ハ必ラス後犯ノ本刑ニ一等ヲ加フ例ヘハ前キニ
重懲役ノ刑ニ處セラレタル者再犯重懲役ノ刑ニ該ルキハ本刑ニ一等
ヲ加ヘ有期徒刑ニ處シ若シ再犯有期徒刑ニ該ルキハ本刑ニ一等ヲ
加ヘ無期徒刑ニ處スルノ類ナリ然レモ若シ再犯無期徒刑ニ該ルキ

ハ加重セス蓋シ之ヲ加重スレハ死刑ニ入レサルヲ得ス加ヘテ死刑
ニ入ルハ第六十六條ノ禁スル所ナリ故ニ之ヲ加重セスシテ無期
徒刑ニ止ム

以上敷衍シタル所ハ即チ常事犯ノ場合ナリ若シ國事犯ノ再犯ニ係
ルキハ第七十八條ノ例ニ照シ輕禁獄ヨリ無期流刑ニ至ルノ順次ニ
從ヒ之ヲ加重スルヲ猶ホ常事犯ノ如シ是レ亦加ヘテ死刑ニ入ルヲ
ヲ得ス而シテ其加ヘテ死刑ニ入ルヲ禁シタルノ理由ハ第六十六條
ニ於テ敷衍シタルヲ以テ今茲ニ之ヲ贅セズ

○參照○佛朗西刑法第五十六條 第一項ヨリ第五項マテ ○普魯士一
八百五十一年四月第五十八條第五十九條 ○白耳義 第六月八日ノ刑法
第五十四條及ヒ第五十五條 ○埃及刑法第十一條以下 ○伊太利新刑
法第八十七條 第一 第八十八條 第八十九條 ○魯西亞刑法第三百十一
條 第三百二十二條 第四百十六條

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ハ初犯輕罪ニシテ再犯モ亦輕罪ナルト又ハ初犯重罪ニシテ再犯ハ輕罪ナルト其刑ヲ加重スルノ法ヲ定メタルモノナリ例ヘハ前キニ禁錮若クハ罰金ノ刑ニ處セラレタル者後ヲ又禁錮或ハ罰金ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルカ如キ并ニ後犯ノ本刑ニ一等ヲ加フルモノトス又前キニ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ再犯禁錮或ハ罰金ノ刑ニ該ルキハ本刑ニ一等ヲ加フルモノトス蓋シ初犯重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ノ刑ニ該ルキト雖モ仍ホ其本刑ヲ加重スル所以ノモノハ他ナシ己ニ至重至大ノ刑ヲ受ケタルキハ能ク其心ヲ改良ニス可キニ却テ再ヒ罪ヲ犯スカ如キハ其犯人未ダ悔悟セザルニ因ル犯人未ダ悔悟セザレハ懲戒ノ主義ニ於テ其刑ヲ重セサルヲ得サレハナリ

之レニ反シテ前キニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ノ刑ニ該ルキハ本刑加重ノ限リニアラサルモノハ何ソヤ是レ他ナシ重罪ノ刑ハ輕罪ノ刑ヨリ重キト固ヨリ言テ俟タス故ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再ヒ罪ヲ犯スハ必竟前刑ノ輕キヨリシテ其懲戒ノ効ヲ奏セザリシニ因ルト雖モ今更ニ重罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルニ於テハ敢テ本刑ニ加重セサルモ充分懲戒スルニ足ル可ケレハナリ若シ之ヲ加重スルキハ却テ刑ノ苛酷ニ失スル患ナキ能ハス故ニ之ヲ加重セサルナリ

○參照○佛朗西刑法第五十七條第五十八條○白耳義刑法第五十六條凡ソ已ニ重罪ヲ犯スノ後ヲ更ニ輕罪ヲ犯ス者ハ輕罪一等ヲ増科ス○伊太利新刑法第九十條一重罪又ハ輕罪ニ處セラレタル者輕罪ヲ犯シタル時ハ本罪ノ爲メ定メタル刑ノ長期ニ處ス云々

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯

違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其
違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレ
ハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

本條ハ初犯違警罪ニシテ再犯モ亦違警罪ナル時其刑ヲ加重スルノ
法ヲ定メタルモノナリ

前キニ重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ノ刑ニ該ル
キ又ハ前キニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ再犯重罪及ヒ輕罪ノ
刑ニ該ル時ハ並ニ再犯加重ノ例ヲ用ヒス唯前後二次共ニ違警罪ヲ
犯シタル時ニ限り再犯ヲ以テ論シ後犯ノ本刑ニ一等ヲ加フルモノ
トス蓋シ違警罪ハ屢次説明シタルカ如ク其罪ノ最モ微々其刑ノ最
モ輕キモノニシテ之ヲ罰スルニ犯人惡意ノ有無ヲ問ハズ專ラ警察
取締上ニ關シ道德上ノ損害ヨリモ却テ社會ノ損害ヲ防衛スル点ヨ
リ之ヲ罰スル者ナレハ初犯後犯共ニ違警罪ナルキニ限り加重シ其

前後ノ二犯各別ナルキハ加重セサルモノトス

其初犯違警罪ニシテ後犯モ亦違警罪ナルキハ再犯ヲ以テ論スト雖
モ此ノ点ニ付テハ法律ハ二個ノ制限ヲ設ケラレタリ第一前後ノ二
犯共ニ一年内ニ在ルモノニ非ラザレハ加重セズ第二同一ノ違警罪
裁判所管轄内ニ於テ犯シタルキニ非ラザレハ加重セサル是レナリ
斯ク二個ノ制限ヲ設ケラレタル所以ノモノハ單ニ實際上ノ便宜ヲ
許リ煩雜ヲ防キタルニ過キサルモノトス
夫レ違警罪ハ本ト概テ無心上ヨリ起ルモノナレハ平素篤實温厚ノ
人ト雖モ尙ホ能ク之ヲ犯サ、ルヲ期シ難キモノニシテ其犯者之ヲ
他ノ重輕罪ノ犯者ニ比スレハ其數甚ク多ク且ツ一人ニシテ數次之
ヲ犯ス者儘之レ有ラン故ニ若シ之ヲ他ノ重輕罪ト同ク其時ノ如何
ヲ問ハズ再犯ヲ以テ論スルモノトスルキハ其刑甚ク酷ニ涉ル可ク
加之一犯者アル毎ニ之ヲ全國ノ裁判所ニ照會シテ往時ニ遡リ前科

ノ有無ヲ調査セサル可カラス是レ實際上甚ダ煩雜不便ニシテ到底
 施シ難キモノトス因テ一年內再ヒ犯シタルハ非ラサレハ再犯ヲ
 以テ論セサルモノト爲セリ然リ而シテ假令ヒ一年內ニ再ヒ之ヲ犯シ
 タリト雖モ裁判所ノ管轄ヲ異ニスルハ亦再犯ヲ以テ論セス是レ
 違警罪ハ第四百三十條ニ示セルカ如ク各地方ノ便宜ニ從ヒ設置ス
 ル所ノ刑ヲ以テ罰スルヲ得ルモノナレハ此ノ地方ニ於テハ之ヲ
 罰スルモノモ彼ノ地方ニ於テハ之ヲ罰セサルモノ有リ故ニ同一ノ
 違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ一年內ニ再ヒ違警罪ヲ犯シタル時ニ
 非ラレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得サルモノトス
 抑モ第一條ニ於テ之ヲ三等ニ區別シタルニ因リ各其効果ヲ異ニス
 ルヲ敷行シタリシカ本條ノ場合ノ如キモ亦其三等ノ區別有ルヨ
 リ生スル所ノ効果ニシテ重罪輕罪トハ甚ダ相ヒ異ナルモノトス
 本條ニ一年內再ヒ其違警罪裁判所云々トアリ蓋シ其一年內ト

ハ初犯ノ月ヨリ算シテ一年ノ月數十二ヶ月ニ滿ツルヲ云フナル
 可シ然レトモ之ヲ起算スルニハ日ヲ以テス可キ歟將タ月ヲ以テス可
 キ歟抑モ亦曆ニ從フ可キ歟凡ソ年月日ヲ計算スルノ法日ト稱スル
 者ハ時ヲ以テシ月ト稱スル者ハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スル者ハ
 曆ニ從フヲ以テ通例ト爲ス故ニ其曆ニ從テ算ス可キハ敢テ疑團ヲ
 措クニ足ラスト雖モ其所謂曆ニ從フモノトスルニハ第四十九條ノ
 明文ニ依テ之ヲ決定ス可キ乎同條ハ即チ刑期ノ計算ニ適用ス可キ
 モノニシテ本條ノ場合ハ是レ刑期ニ非ラサルヲ以テ之ヲ適用スル
 ハ或ハ穩當ナク欠クニ似タリ然ラハ則チ何レノ法文ニ依テ之ヲ決定
 ス可キ乎今他ニ明文アルヲ見ス因テ姑ク疑ヲ存テ以テ識者ノ説
 明ヲ俟ツト云爾

○參照○佛朗西刑法第四百八十三條

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サ

レハ之ヲ論スルヲ得ス

凡ソ再犯加重ト數罪俱發ト相ヒ異ナルノ點ハ初犯ノ裁判確定前後
 ナリテ之ヲ判別スルモノトス其裁判確定前即チ初犯ノ裁判宣告ヲ
 受ケタリト雖モ未ダ上訴ノ期限ヲ經過セサルカ或ハ上訴中ニ在テ
 他ノ罪ヲ犯シタルハ第百條以下ノ法文ニ照シ數罪俱發一ノ重キ
 ニ從テ論定シ敢テ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス
 夫レ法律ニ於テ上訴ノ權利ヲ附與セラレタルノ理由ハ已ニ説明シ
 タル所ニシテ此ノ期限内ニ在テハ要スルニ初犯ノ裁判ハ仍ホ未定
 ノモノニ屬ス故ニ若シ犯人或ハ檢察官ヨリ治罪法ニ定ムル所ノ規
 則ニ從ヒ上訴ヲ爲シタルハ前裁判ヲ破毀シ或ハ無罪ニ歸スルヤ
 モ亦未ダ期ス可カラズ因テ初犯ノ裁判確定ニ至ラサルノ以前ニ在
 テハ再犯ヲ以テ論スルヲ得サルモノトス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告

シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ
 服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル
 刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先
 ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラズ各之ヲ徵収ス

凡ソ初犯ノ刑期已ニ終リタルノ後ニ在テ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑
 ナ宣告シタルハ其執行ニ關シテ毫モ困難アルヲ見スト雖モ若シ
 初犯ノ刑期未ダ終ラズ刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ再犯ノ
 刑ヲ宣告シタル時ニ於テハ前後ノ二刑ヲ同時ニ執行スルヲ得サ
 ルニ因リ必ラス之レカ順序ヲ定メサル可カラズ法律ハ之ヲ四個ニ
 區別シテ其執行ノ順序ヲ定メラレタリ
 第一初犯ハ定役ニ服スルノ刑ニシテ再犯ハ定役ニ服セサル刑ニ該
 ル時又ハ初犯ハ定役ニ服セサルノ刑ニシテ再犯ハ定役ニ服スル刑

ニ該ル時例ハハ初犯定役ニ服セサル輕禁錮二年ノ刑ニ處セラレタル者一年ヲ經過スルノ後ヲ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ新タニ定役ニ服スル重禁錮三年ノ刑ヲ宣告シタルカ如キ此ノ場合ニ於テハ其定役ニ服スル者ヲ以テ先キニ執行ス可キ者ナレハ先ツ重禁錮三年ヲ執行シ終リタルノ後ヲ更ニ輕禁錮ノ殘期一年ヲ執行スルノ類ナリ若シ初犯或ハ再犯ノ刑無期ノ刑ニ該ル時ハ一ノ定役ニ服スル者ノミテ執行スルモノトス例ハハ無期流刑ノ囚人ヲ故殺スルニ因リ無期徒刑ヲ宣告シタルカ如キ一ノ無期徒刑ノミテ執行スルノ類ナリ

第二初犯定役ニ服スルノ刑ニシテ再犯モ亦定役ニ服スルノ刑ニ該ル時例ハハ初犯重禁錮五年ノ刑ニ處セラレタル者三年ヲ經過スルノ後ヲ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ新タニ定役ニ服スル重懲役九年ノ刑ヲ宣告シタルカ如キ此ノ場合ニ於テハ其重キ者ヲ以テ先キニ執行ス可キ者ナレハ先ツ其重キ重懲役九年ヲ執行シ終リタルノ後ヲ更ニ

其輕キ重禁錮ノ殘期二年ヲ執行スルノ類ナリ若シ其初犯或ハ再犯ノ刑無期徒刑ニ該ル時ハ一ノ無期徒刑ノミテ執行スルモノトス

第三初犯定役ニ服セサル刑ニシテ再犯モ亦定役ニ服セサルノ刑ニ該ル時例ハハ初犯輕禁錮六年ノ刑ニ處セラレタル者三年ヲ經過スルノ後ヲ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ新タニ重禁錮九年ノ刑ヲ宣告シタルカ如キ此ノ場合ニ於テハ其重キ者ヲ以テ先キニ執行ス可キ者ナレハ先ツ其重キ重禁錮九年ヲ執行シ終リタルノ後ヲ更ニ其輕キ輕禁獄ノ殘期三年ヲ執行スルノ類ナリ若シ其初犯ハ再犯ノ無期流刑ニ該ル時ハ一ノ無期流刑ノミテ執行スルモノトス

第四初犯再犯共ニ罰金料ニ該ル時或ハ初犯又ハ再犯罰金料ニ該ル時ハ以上敷衍シタルカ如キ順序ニ拘ハラヌシテ各之レヲ徴収スルモノトス

夫レ斯クノ如ク順序ヲ定メテ以テ其刑ヲ執行スルハ頗ル允當ヲ得

タル者ニシテ總テ重キモノヨリ先キニ執行スル時ハ犯人刑罰ノ嚴ナルニ畏レ法典ノ犯ス可カラサルヲ知り之レカ爲メ悔悟ノ念ヲ發シ遂ニ能ク刑罰ノ目的ヲ達シ得ルニ至ル可キヲ以テナリ

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

本條ハ先キニ重罪輕罪ヲ犯シ陸海軍裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケタル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時其刑ヲ加重スルノ法ヲ定メタルモノトス

第四條ノ明文ニ據ルニ此ノ刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得スト有リ而シテ其軍人ノ犯シタル罪ト記載セサリシハ洵トニ軍人ト雖モ常事ノ犯罪ニ係ル時ハ軍律ヲ以テ論セスシテ普通刑法ニ依テ處斷シ又常人ト雖モ兵事ノ義務ニ關スル

罪ヲ犯シタル時ハ普通刑法ヲ以テ論セスシテ軍律ニ依テ處斷ス可ケレハナリ故ニ陸海軍刑法術ニ於テモ亦普通刑法ニ依テ處斷スルコト儘之レ有リト爲ス而シテ若シ其陸海軍法術ニ於テ初犯ノ罪ヲ判スル時普通刑法ニ從テ處斷シタル者再ヒ普通刑法ニ觸ル、所ノ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ素ヨリ再犯ヲ以テ論シ加重スル者ト雖モ其初犯ノ罪軍律ニ依テ處斷シタル者ニ付テハ決シテ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルモノトス

夫レ陸海軍法律ハ普通刑法ニ比スルニ其刑タル甚ダ重ク且ツ彼此ノ犯罪各其性質ヲ異ニスル者ナレハ兵事ノ義務ニ關スル犯罪ニ付テハ普通刑法ノ以テ關涉スルコトヲ得サルモノトス故ニ其初犯ノ罪軍律ニ從ヒ處斷シタル者ニ付テハ再ヒ普通刑法ニ觸ル、所ノ重罪輕罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス若シ再犯ヲ以テ論スルモノトスル時ハ其刑頗ル酷ニ涉ルノミナラス或ハ再犯加重ノ本

旨ニ拂ル可シ是レ本條ノ特ニ之ヲ禁シタル所以ナリ

○參照○伊太利新刑法第八十七條ニ左ニ記スル者ハ再犯罪ト爲ス可カラズ一、本律中ニ揭示セサル軍事ニ管シタル犯罪ニ付軍事裁判所又ハ外國裁判所ニ於テ處決ヲ經タル者

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

本條ハ先キニ重輕罪ヲ犯シタル者大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ重輕罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セサルノ場合ヲ示シタルモノナリ

夫レ大赦ノ解義ハ已ニ第六十四條ニ於テ敷衍シタルカ如ク其罪ヲ遺忘スルノ義ニ出テタル者ニシテ罪過ト刑罰トヲ併セテ悉皆消滅シ去リ敢テ一點ノ痕跡ヲ留ムル者ニ非ラス故ニ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ後チ更ニ罪ヲ犯スト雖モ再犯加重ノ基礎ト爲サズシテ

仍ホ初犯ヲ以テ論スルモノトス

然レハ特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ其罪過刑罰ヲ消滅セシムル者ニ非ラサルカ故ニ初犯ヲ以テ論セスシテ仍ホ再犯ヲ以テ論スルモノトス其期滿免除ヲ得タル者モ亦同シ然ルニ期滿除免ノ如キハ亦社會ニ於テ其罪ヲ遺忘スルノ理ニ基ツキタルモノナレハ其再犯ノ場合ニ於テモ亦大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ト同シ論ス可キニ似タリ然レハ法律ハ特ニ大赦ノミチ舉ケテ期滿免除ニ及ハサルモノハ何ソヤ是レ他ナシ期滿免除ニ因テ其刑ヲ免レ能ク社會ヲシテ満足セシメサル者却テ實地刑ヲ受ケテ社會ヲ満足セシメタル者ヨリ利益ヲ受ク可キノ道理ナクハナリ故ニ若シ期滿免除ヲ得タル者ニシテ再ヒ罪ヲ犯シタル者ハ猶ホ先キニ刑罰ヲ受ケタル者ノ如ク再犯ヲ以テ論シ加重スルモノトス

○參照○伊太利新刑法第八十七條ニ左ニ記スル者ハ再犯罪ト爲ス

可カラスニ大赦ヲ以テ處決ノ刑ノ消滅シタル者

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

凡ソ再犯者ハ本刑ニ一等ヲ加フルヲ以テ原則ト爲ス故ニ其三犯乃至四犯以上ノ者ハ之レニ順シテ各一等ヲ累加ス可キニ似タリ然レモ若シ此ノ如クスルキハ其刑甚タ酷ニ過シ可シ因テ本條ニ於テ之レカ制限ヲ爲シ三犯以上假令ヒ四犯五犯ニ至ルト雖モ其加重ノ法ハ仍ホ再犯者ト同シク一等ヲ加フルニ止マルモノト爲セリ

第六章 加減順序 凡一條

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

本條ハ犯罪ノ情狀ニ因リ一個ノ犯罪ニ付キ總則ニ照シテ同時ニ其本刑ヲ加重減輕ス可キ時之ヲ加減スルノ方法ヲ定メタルモノトス乃チ本條記列スル所ノ第一ヨリ第四ニ至ルマテノ順序ニ從ヒ之ヲ加減スルモノナリ而シテ加減ノ法ハ加チ先キニシ減チ後ニスルヲ以テ通法ト爲ス例ハ先キニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者今又重懲役ニ該ル可キ罪ヲ犯シテ自首スル者アリ而シテ其犯人二十歳未満ニ係リ且ツ酌量減輕ス可キ情狀アラシキニ此場合ニ於テハ本條記列スル所ニ照シ先ツ第一ニ再犯加重ヲ爲シ本刑即チ重懲役ニ一等ヲ加ヘ有期徒刑ト爲シ而シテ犯人二十歳未満ナルヲ以テ其罪ヲ宥恕シテ一

等ヲ減シ重懲役ニ降シ自首スルヲ以テ又タ一等ヲ減シ輕懲役更ニ
 情狀酌量ス可キ所アルヲ以テ仍ホ一等ヲ減シ第六十九條ニ照シ二
 年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類ナリ
 然レモ其從犯及ヒ未遂犯ノ減等其他各本條ニ記載スル所ノ特別ノ
 加重減輕即チ第四百四十五條、第四百四十六條、第四百五十一條、囚徒逃
 走ノ罪、第四百
 六十七條、往來通信ヲ罪、第四百七十一條以下、人ノ住居、第四百七十四條、封印
 ナ破棄、第四百四條、第四百五條、官ノ文書ヲ、第四百十四條、第四百十五
 條、第二百十六條、免狀鑑札及ヒ疾病、第二百十九條、偽証、第二百三十九
 條、阿片烟ニ、第二百四十七條、傳染病豫防規、第二百七十八條、第二百八
 十條、第二百八十一條、第二百八十四條、第二百八十五條、官吏人民ニ、第
 三百二條、毆打創、第三百二十二條、擅ニ人ヲ逮捕、第三百三十二條、墮胎
 第三百三十八條、幼者及ハ老疾者、第三百六十二條、第三百六十三條、祖
 母父母ニ、第三百六十九條、竊盜、第三百七十九條、強盜等ニ記載スル所
 對スル罪

ノ加重及ヒ、第二百二十五條、内亂ニ關、第三百三十三條、外患ニ關、第三百五十
 八條、私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ、第六十四條、往來通信ヲ、第八十一條
 公務ヲ行フ、第八十六條、第八十七條、第八十八條、第九十條、幣
 ナ拒ム罪、第九十七條、官印ヲ偽、第二百八條、私印私書ヲ、第二百二十八
 條、偽造、第九十七條、度量衡ヲ偽、第二百五十一條、危害物品及ヒ健康ヲ害ス
 條、第二百三十條、造スル罪、第二百五十一條、殺傷ニ關、第三百二十條、自殺ニ
 關、第三百六條、毆打創、第三百十三條、殺傷ニ關、第三百二十條、自殺ニ
 ル罪、第三百六條、傷ノ罪、第三百十三條、殺傷ニ關、第三百二十條、自殺ニ
 罪、第三百四十三條、誘拐者ヲ、零取等ニ記載スル所ノ減輕ハ其順序ニ拘
 ハラス先ツ之ヲ加減シ其加減シタル所ノ者ヲ以テ本刑ト爲シ而シテ
 后チ本條ニ記列スル所ノ順序ニ從ヒ加減スルモノト爲ス
 今一例ヲ舉ケンニ茲ニ二十歳未滿ナル甲乙二人ノ幼者アリ甲ハ先
 キニ重罪ヲ犯シ已ニ相當ノ刑ニ處セラレ滿期放免ノ後チ更ニ乙ト
 通謀シテ現ニ強盜ヲ行ヒタリシカ或ハ他ノ障礙ニ因ルカ若シハ舛
 錯ニ因リ遂ニ其目的ヲ達スルヲ能ハサリシ而シテ事未ダ發覺セサル

以前ニ於テ共ニ官ニ自首シタル因テ之ヲ第三百七十八條ニ照スニ
 強盜ノ罪ハ輕懲役ノ刑ニ該ル其二人以上ニ係ルヲ以テ第三百七十
 九條ニ照シ特別ノ加重即チ各一等ヲ加ヘ重懲役ト爲シ未遂犯ニ係
 ルヲ以テ第一百十二條ニ照シ各一等ヲ減シ輕懲役ニ降シ之レヲ本刑
 ト爲シ而シテ本刑記列スル所ノ順序ニ從ヒ甲ハ再犯ナルヲ以テ一等
 ナ加ヘ重懲役ニ上シ二十歳未満ナルヲ以テ其罪ヲ宥恕シテ一等ヲ
 減シ輕懲役ニ降シ自首スルヲ以テ又一等ヲ減シ第六十九條ノ例ニ
 照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ降シ仍ホ其情狀酌量ス可キ時ハ
 更ニ一等ヲ減シ一年六ヶ月以上三年九ヶ月以下ノ重禁錮ニ處スル
 ノ類ナリ

夫レ加重減輕ニ一般ノモノアリ又特別ノモノアリ而シテ犯罪ノ種類
 ニ因リ一般ノ加重減輕ト特別ノ加重減輕ト同時ニ發スルヲ往々之
 レ有リ此ノ時ニ當テヤ如何シテ之ヲ決ス可キ乎其一般ノ加重減輕

ヲ先キニス可キ乎抑モ亦特別ノ加重減輕ヲ先キニ可キ乎之ヲ決セ
 サル可カラズ法律ハ先ツ其特別ノ加重減輕ヲ爲シ而シテ后チ一般
 ノ加重減輕ヲ爲ス可キモノト定メテラレタリ是レ其特別ノ加重減輕
 ニ在テハ其加減シタル所ノ者ハ犯罪固有ノ性質即チ各本條ニ固定
 シタル所ノ本刑ト同一ノ性質ヲ有スル者ニシテ再犯加重又ハ宥恕
 自首酌量減輕等ノ如キ他ノ情狀ニ因テ已ニ固定シタル所ノ本刑ヲ
 變更スル者ト同シカラサルカ故ナリ蓋シ再犯宥恕自首酌量等ノ加
 減ハ本刑ト性質ヲ異ニスルモノナレハ其本刑ト同一ノ性質ヲ有ス
 ル加減ヨリモ先キニス可キノ理由ナレハナリ但シ從犯及ヒ未遂犯
 ナ減等ハ一般ノ犯罪ニ適用スルモノナリト雖モ是レ亦其減輕シタル
 所ノ者ハ各本條ニ固定シタル所ノ本刑ト同一ノ性質ヲ有スル者ナ
 レハ特別ノ加重減輕ト同ク先ツ之ヲ減輕ス可キモノト爲ス
 又其犯罪ノ情狀ニ因リ加減同時ニ相ヒ發スルヲ儘之レ有リ此ノ場

合ニ於テハ其加重ヲ先キニス可キ手將ク減輕ヲ先キニス可キ手決
 シテ之ヲ不問ニ措ク可カラズ必ラスヤ豫メ一定ノ法ヲ設ケサルヲ
 得ス何トナレハ則チ若シ之ヲ一定セシテ一ニ裁判官ノ意見ニ任セ
 加減セシムルモノトスル時ハ頗ル奇怪ノ結果ヲ生シ甚タシク犯人
 ニ幸不幸ヲ與フ可クレハナリ例ヘハ此ニ輕懲役ニ該ル者二人アリ
 各一等ヲ加ヘ又一等ヲ減ス可キノ情狀アリ而シテ一人ハ甲裁判官ノ
 斷決ニ屬シ今一人ハ乙裁判官ノ判定スル所ニ係ルモノト爲サンニ
 此ノ場合ニ於テ若シ加減ノ順序ヲ定メサル時ハ甲裁判官ハ能ク加
 重ヲ先キニシ減輕ヲ後チニスルモ乙裁判官ハ之レニ反シテ減輕ヲ
 先キニシ加重ヲ後チニスルコト有ル可シ然ルモ甲裁判官ノ判決ヲ
 受ケタル犯人ハ先ツ一等ヲ加ヘ重懲役ニ上ラシメ而シテ後チニ一
 等ヲ減スルニ因リ元トノ輕懲役ニ止マル可シト雖モ乙裁判官ノ判決
 ヲ受ケタル犯人ハ先ツ一等ヲ減シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ降

ラシメ而シテ後チニ一等ヲ加フルニ因リ二年六月以上六年三月以
 下ノ重禁錮ニ處セサルヲ得ス何トナレハ則チ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重
 罪ニ入ルコトヲ得サレハナリ
 又無期徒刑ニ該ル者ノ場合ニ於テハ以上數術シタルカ如キ結果ニ
 テ其加シ重ヲ先キニスル時ハ加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得サルニ因リ
 唯一等ヲ減シテ無期徒刑ニ降スニ過キスト雖モ若シ減輕ヲ先キニ
 スルモ於テハ無期徒刑ヨリ一等ヲ減シテ有期徒刑ニ降ラシメ而
 シ後チニ一等ヲ加フルニ因リ再ヒ元トノ無期徒刑ニ復ル可シ豈ニ
 奇性ノ結果ナラス哉故ニ本條ニ於テ之レカ順序ヲ定メ若シ一罪ニ
 付キ同時ニ加減ス可キ者アルモ必ラス加チ先キニシ減チ後チニ
 ス可キモノト爲セリ

第七章 數罪俱發 凡四條

本章ニ規定スル所モ亦刑罰消滅ノ一原因ニシテ一個人數個ノ罪例

へハ三箇ノ罪ヲ犯シ俱ニ發覺シタルカ如キ其三箇ノ罪ニ付テハ各
之ヲ罰ス可キ法律ノ正條アリト雖モ其中テノ最モ重キ一罪ノミヲ
罰シ餘ノ二罪ハ之ヲ論セサルニ因リ其二罪ニ科ス可キ刑罰ノ消滅
スルヲ云フ即チ數刑混シテ一ト爲ルノ場合ナリ或ハ云フ數罪俱發
一ノ重ニ從フト雖モ餘罪ニ科ス可キ刑罰ノ消滅スルニ非ラスト然
レモ普通一般ノ說ニ於テハ數罪俱發ハ刑罰消滅ノ一原因ト爲ス故
ニ今之レニ從フ

又數刑併科スルヲ以テ正當ナリトスルノ說アリ而シテ聞ク所ニ據レ
ハ我カ立法者モ亦初メ此ノ刑法ヲ編纂スルニ際リ數刑併科ノ說ニ
一決シタリシカ實際施行ノ点ヲ慮ルニ頗ル困難ヲ生シ到底行ハル
可カラサルヲ以テ遂ニ其說ヲ廢シ一ノ重キニ從テ科スルノ說ヲ採
用セラレシナリト果シテ信ナリヤ否ヤヲ知ラスト雖モ其數刑併科
ノ說ノ如キハ甚ダ穩當ニアラサルヲ以テ採用セラレサルモノナル

可シ

○第五條ノ末へ掲載セル第七十二号布告參看

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱
ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シ
キ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

本條第一項ハ即チ重罪及ヒ輕罪ニ付キ刑罰ヲ併科セサルノ原則ヲ
定メタルモノナリ

未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發スルトハ數個ノ犯罪悉皆未ダ嘗テ
判決ヲ經サル前ニ於テ犯シタルモノヲ云フ例へハ一次強盜ヲ爲スモ
未ダ判決ヲ經スシテ又強姦ノ罪ヲ犯シ尙ホ未ダ判決ヲ經スシテ又
更ニ毆打致死ノ罪ヲ犯シタルカ如キノ類ヲ云フ若シ最初ノ一罪已

ニ判決ヲ經タルノ後チニ在テ又他ノ罪ヲ犯シタルカ如キハ再犯ヲ以テ論スル者ニシテ數罪俱發ノ例ニアラス蓋シ再犯ト數罪俱發トハ皆共ニ一人ニシテ數個ノ罪ヲ犯シタル者ナレハ其模様甚々相ヒ似タリ然ルニ其結果ニ至テハ甚々相ヒ異ナル者何ソヤ亦自ラ理由ノ在ル有リ

抑モ一人ニシテ數個ノ罪ヲ犯スニ至リシ所以ノモノハ他ナシ畢竟犯人未ダ嘗テ官司ノ斷決ヲ經スシテ身ニ法律ノ責罰苦痛ヲ受ケタルヲ無キヨリ之レカ爲メニ道德ヲ破リ社會ヲ害スルヲ意トセス遂ニ惡事ヲ爲スニ慣レ己ニ此ノ罪ヲ犯シ又彼ノ罪ヲ犯シ更ニ又他ノ罪ヲ犯スモ聊カ心ニ厭フ所無キニ因レリ而シ其犯人ヲシテ此ノ極ニ至ラシメシ所以ノ本チ原スレハ社會ニ於テ其犯罪ヲ搜索シテ之レヲ懲罰スルノ責任ヲ怠リタルニ起因スト謂ハサルヲ得ス社會己ニ其責任ヲ怠リタルノ過失アレハ豈ニ獨リ其責メヲ犯人ニ歸ス可

キノ理アラフヤ願フニ數刑併科說ノ採用セラレサリシハ蓋シ此ノ理由ニ原因スルナラン

然レハ仍ホ此ノ外ニ於テ求ム可キノ理由ナキニ非ラス夫レ一身ヲ以テ數個ノ罪例ヘハ十個ノ罪ヲ犯スガ如キ法律上其各個ノ罪ニ科ス可キ刑ハ各其期限ニ長短ノ異同アリト雖モ若シ各個ノ刑ヲ科スル時ハ其年數約スルニ數十年ニ達ス可シ今假リニ各輕懲役ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者ト定メシニ假令ヒ各其最短期ヲ科スルモノトスルモ仍ホ六十年ノ久シキニ及ハシ然ルレハ犯人一生涯ノ自由ヲ拘束セサルヲ得サルニ至ル是レ甚々厭フ可キノトニ屬ス又罰金ナル時ハ其額容易ニ數千萬圓ノ多キニ及ヒ假令ヒ富有チ極ムルノ人ト雖モ忽チ一家ノ産ヲ蕩盡シ去ルニ至ラシ然ルカ如キハ其刑罰甚々嚴酷ニ失シ且ツ到底實施シ難キモノナリ是レ亦其數刑ヲ併科ス可カラサルノ一理由ナリ

又假令ヒ數刑ヲ併科セントスルモ勢ヒ併科ス可カラサルノ場合アリ例ヘハ死刑ト無期徒刑トニ該ル可キノ罪ヲ犯シタルカ如キハ先ツ無期徒刑ヲ執行シタル後チ死刑ヲ科セントスルモ決シテ爲スヲ得ヘカラサルナリ是レ自然ノ勢ナレハナリ

以上説明シタルカ如キノ理由アルヲ以テ一身ニシテ二罪以上ヲ犯スト雖モ各別ニ刑ヲ科セス唯其中チノ最モ重キ者ヲ論シテ餘罪ハ之レヲ論セサルモノト爲ス然ルニ其一旦刑罰ヲ被リ身ニ諸多ノ苦楚ヲ受ケタル者ニ在テハ已ニ法網ノ畏ル可キヲ知リ其心ニ於テ卒ニ道德ノ以テ破ル可カラズ社會ノ以テ害ス可カサルヲ銘ス可キノ尙ホ罪ヲ犯スカ如キハ數罪俱發ノ場合ト異ナリ社會ニ於テハ能ク犯罪搜索及ヒ犯人懲戒ノ責任ヲ怠ラスシテ一点ノ過失ナキ者ナレハ其再度ノ責メヲ取り獨リ之チ犯人ニ負ハシメ以テ社會ノ危険ヲ防遏ス可キハ素ヨリ當然ノコナリト爲ス故ニ數罪俱發ノ場合ト

同一ノ處分ヲ施サハルナリ

第二項本項ハ數個ノ重罪俱ニ發覺シタル時前項ノ原則ヲ適用スルノ法ヲ定メタルモノトス

重○罪○ノ○刑○ハ○刑○期○ノ○長○キ○者○ヲ○以○テ○重○シ○ト○爲○ス○故○ニ○重○懲○役○及○ヒ○重○禁○獄○ハ○輕○懲○役○及○ヒ○輕○禁○獄○ヨリ○重○ク○有○期○徒○刑○及○ヒ○有○期○流○刑○ハ○重○懲○役○及○ヒ○重○禁○獄○ヨリ○重○シ○而○シ○無○期○徒○流○刑○ハ○有○期○徒○流○刑○ヨリ○モ○重○ク○死○刑○ハ○無○期○徒○流○刑○ヨリ○モ○重○キ○コト○言○フ○俟○タ○サ○ル○所○ナリ○例○ヘ○ハ○重○懲○役○ノ○刑○ニ○該○ル○可○キ○罪○ト○有○期○徒○刑○ニ○該○ル○可○キ○罪○ト○俱○ニ○發○シ○タ○ル○ト○ハ○其○刑○期○ノ○長○キ○有○期○徒○刑○ヲ○以○テ○重○シ○ト○爲○シ○一○ノ○有○期○徒○刑○ヲ○科○ス○ル○ノ○類○ナリ

刑○期○ノ○等○シ○キ○者○ハ○定○役○アル○者○ヲ○重○シ○ト○爲○ス○故○ニ○輕○懲○役○ハ○輕○禁○獄○ヨリ○重○ク○重○懲○役○ハ○重○禁○獄○ヨリ○重○シ○又○有○期○徒○刑○ハ○有○期○流○刑○ヨリ○重○ク○而○シ○無○期○徒○刑○ハ○無○期○流○刑○ヨリ○モ○重○キ○モノトス例ヘハ輕禁獄ニ該ル可キ罪トチ輕懲役ニ該ル可キ罪ト俱ニ發シタル時ハ其定役ニ服スル輕

懲役ヲ以テ重シト爲シ一ノ輕懲役ノミナ科シ又無期徒刑ニ該ル可
 キ罪ト無期徒刑ニ該ル可キ罪ト俱ニ發シタルキハ其定役ニ服スル
 無期徒刑ヲ以テ重シト爲シ一ノ無期徒刑ノミナ科スルノ類ナリ而
 ノ其死刑ト無期徒刑ト俱ニ發シタルキハ死刑ヲ以テ重シト爲シ
 一ノ死刑ヲ科スルカ如キハ數刑併科セサルノ原則ニ從テ決スルコ
 索ヨリ論テ俟タサル所ナリ
 第三項輕罪ノ刑ハ重罪ノ刑ト異ナリ其刑ニ等級ナク獨リ禁錮ト罰
 金トノ別ヲ立テタル而已而シ此ノ兩刑ハ各其性質ヲ異ニセリト雖
 モ亦敢テ輕重ノ差アルモノニ非ラス例ヘハ此ニ二月以上二年以下
 ノ禁錮ノ刑ニ該ル可キ罪ト二十圓以上二百圓以下ノ罰金ノ刑ニ該
 ル可キ罪トヲ犯シタル者アランニ孰レヲ重トシ孰レヲ輕シトスル
 こと得ス唯其所犯ノ情狀ニ於テ輕重アルニ過キサルナリ
 又禁錮ハ十一日以上五年以下罰金ハ二圓以上ヲ以テ定限ト爲スト

雖モ仍ホ各本條ニ於テ其長短多寡ヲ區別セラレ重罪ノ刑ノ如ク均
 齊ナルニ非ラサレハ其刑期ノ長短ニ因リ直チニ其刑ノ輕重ヲ決シ
 難ク又定役ノ有無ニ因テ預メ其刑ノ輕重ヲ定メ難カラシ何トナ
 レハ則チ二個ノ禁錮ニ付キ一個ノ禁錮ハ他ノ一個ノ禁錮ヨリ其短
 期ヲ重クシテ長期ハ輕ク若クハ長期ヲ重クシテ短期ハ輕キモノア
 レハナリ罰金ノ如キモ亦同シ故ニ輕罪ノ刑ハ其刑期ノ長短定役ノ
 有無若クハ禁錮ノ輕重及ヒ罰金ノ多寡ニ因テ輕重ヲ定ムルコトナシ
 止タ其所犯ノ情狀ニ於テ苟クモ重シトス可キ所ニ從テ刑ヲ科スル
 モノト爲セリ而シテ所謂所犯情狀ノ輕重ハ預メ之ヲ定メ難キモノナ
 レハ犯者アル毎ニ裁判官ノ意見ヲ以テ判決ヲ下ス可キノミ
 ○參照○佛期西治罪法第三百六十五條○獨逸刑法第七十三條ヨリ
 同第七十九條ニ至ル○伊太利一千八百六十 第六十四條二箇以上ノ
 重罪ヲ犯シタル者ハ次ノ數條ニ登錄セル特例ヲ除クノ外其犯シタ

ル諸重罪ノ刑ヲ受ク可シ同新刑法第八十條一有期ノ刑ヲ以テ罰ス
可キ數個ノ重罪發覺スルキハ其重キ刑ノ長期ニ處ス但シ二罪以上
ノ重罪ノ發覺シタル場合ニ於テハ其長期以上一年ヨリ五年ニ至ル
迄ニ加重スルコトヲ得同第八十一條法文ハ○白刃義刑法第六十條凡
ソ輕罪ヲ犯ス者ハ其各犯ニ從テ刑ヲ科ス但シ輕罪律中最モ重キ
モノヲ倍加スルニ過キサルナリ同第六十一條第六十二條第六十三
條法文ハ

第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑
ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重
キニ從フ

凡ソ重罪及ヒ輕罪ニ付テハ數刑併科セサルヲ以テ原則ト爲スト雖
モ違警罪ハ之レニ反シ數刑併科スルヲ以テ原則ト爲ス
夫レ重罪輕罪ニ數刑ヲ併科ス可カラサルハ前條已ニ説明シタルカ

如ク若シ之ヲ併科スルキハ其刑甚ク嚴酷ニ涉リ大ニ厭フ可キノ結
果ヲ生スルニ至ルト雖モ違警罪ニ至テハ之レニ反シ其刑ノ最モ輕
微ニシテ拘留ノ最長期ハ十日ヲ超ヘス科料ノ最多數ハ一圓九十五
錢ニ上テサル者ナレハ假令ヒ數刑ヲ併科スト雖モ非常ノ過重ニ失
スルノ患ナク他ノ重罪輕罪ノ刑ヲ併科スルカ如キ不穩當ノ結果ヲ
見ルコトヲ加シ之違警罪ノ刑ハ之ヲ併科セサルヲ得サルノ理由アリ
何ソヤ若シ之レヲ併科セサルキハ罪ヲ犯シテ却テ利益ヲ得ルニ至
ル者アル可キヲ以テナリ蓋シ違警罪ハ多クハ職業上ノ規則ニ關ス
ル罪ナルヲ以テ數罪俱發スルモ唯一刑ヲ科スルニ止マルモノトス
ルキハ犯人ノ例ハ朝夕ニ路上ニ於テ賭博ニ類スルノ商業ヲ爲シ
夕ヘニ家ニ歸リ賣淫ノ媒合容止ヲ爲シ或ハ又不熟ノ菓物腐敗シタ
ル飲食物ヲ販賣シ若クハ妄リニ吉凶禍福ヲ說キ利ヲ圖ル等故テニ

數多ノ罪ヲ犯シ竟ニ七ヲ數ヘ八ヲ盡スモ底止スル所ナキニ至ラソ
 因テ法律ハ獨リ違警罪ニ限リ數刑ヲ併科セサルノ原則ヲ翻ヘシ各
 別ニ其刑ヲ科シ以テ此レ等ノ弊ヲ防遏スルナリ
 然レモ若シ重罪及ヒ輕罪ト俱ニ發覺シタルモハ前條ノ原則ニ因リ
 其重キ重罪若シハ輕罪ノ一ニ從テ處斷スルモノトス故ニ其數刑ヲ
 併科スルハ特ニ數個ノ違警罪ノミヲ犯シタル時ニ限レリトス
 重罪輕罪及ヒ違警罪ニ付キ各其效果ノ相ヒ異ナルヲハ己ニ第一條
 ニ於テ説明シタリシカ本條ノ場合ノ如キモ亦是ノ罪ヲ三等ニ區別
 シタルヨリ生スル所ノ效果ノ相ヒ異ナレルモノナリ
 ○參照○伊太利新刑法第八十一條二重罪ト註誤罪レ發覺シタル時
 ハ註誤罪ハ重罪中ニ含有ス同第八十三條一個又ハ數個ノ輕罪ト一
 個又ハ數個ノ註誤ト又ハ二個又ハ數個ノ註誤共合シテ發覺シタル
 時ハ前條ニ從テ一箇ノ輕罪ト註誤ノ刑及ヒ各註誤ノ爲メ定メタル

註誤ノ刑ヲ區處ス可シ但シ留置ノ時間ハ其長期以上ニ至ルヲ得ス
 ○白耳義 一千八百六十七年 第六月八日ノ刑法 第五十八條凡ソ違警罪數個ヲ犯ス者ハ
 其各犯罪條ニ從テ罪ヲ科ス可シ

第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發
 シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更
 ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發
 ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納完シタル者ハ第二十七條
 ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス
 若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪
 ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ
 前發ノ刑ヲ通算セス

前二條ニ於テハ數個ノ犯罪一時ニ發覺シタル場合ヲ示シ本條ニ於
 テハ一個ノ犯罪前キニ發メ已ニ判決ヲ經テ餘罪後チニ發覺シタル

ノ場合ヲ示スモノナリ而シテ本條之ヲ二項ニ分チ第一項ニ於テハ數
 罪ヲ犯シ一罪前キニ發シ己ニ判決ヲ經テ唯餘罪ノミ後ヲニ發覺シ
 タルノ場合ヲ示シ第二項ニ於テハ一罪前キニ發シ己ニ判決ヲ經テ
 餘罪ト再犯ノ罪ト俱ニ發覺シタルノ場合ヲ示シタルモノナリ
 第一項本項モ亦自ラ二個ノ區別アリ曰ク後發ノ罪前發ノ罪ヨリ輕
 ク若クハ等シキ時曰ク後發ノ罪前發ノ罪ヨリ重キ時是レナリ
 第一ノ場合即チ後發ノ罪前發ノ罪ヨリ輕ク若クハ等シキ時ハ之ヲ
 論セス是レ一ノ重キニ從フノ原則ニ基ツキタル者ニシテ例ハ茲
 ニ有期徒刑ニ該ル可キ罪ト重懲役及ヒ輕懲役ノ刑ニ該ル可キ罪ト
 ナ犯シ其一罪前キニ發シ己ニ判決ヲ經テ有期徒刑ニ處セラレタル
 後テ他ノ二罪ノ發覺シタルカ如キ其重懲役及ヒ輕懲役ノ二刑ハ有
 期徒刑ヨリ輕キヲ以テ之ヲ論セサルノ類又有期徒刑ニ該ル可キ二
 個ノ罪ヲ犯シタルハ一個ノ罪前キニ發シ己ニ判決ヲ經テ有期徒刑

ニ處セラレタル後テ他ノ一個ノ罪ノ發覺シタルカ如キ其後發ノ罪
 モ亦有期徒刑ニ該ルヲ以テ罪仍キ等シ故ニ一ノ前發ノ刑ノミヲ科
 シ後發ノ罪ハ之ヲ論セサルノ類ナリ
 第二ノ場合即チ後發ノ罪前發ノ罪ヨリ重キ時ハ更ニ之レヲ論シ後
 發ノ刑ニ改ムルナリ例ハ此ニ二個ノ罪ヲ犯シタル者アリ一個ノ
 刑ハ前キニ發シ己ニ判決ヲ經テ輕懲役八年ニ處セラレタリ而シテ其
 刑期四年ヲ經過スルノ後ヲ又一個ノ罪發覺セリ因テ之ヲ審問スル
 ニ後發ノ罪ハ有期徒刑十二年ニ該ルヲ以テ前發ノ刑ヲ改メ已ニ經
 過シタル四年ヲ扣除シ殘ル八年ノ有期徒刑ヲ科スルノ類若シ重懲
 役八年ノ期限ヲ終リタル後ヲニ至リ餘罪ノ發覺シタル時ハ殘ル四
 年ノ有期徒刑ヲ科ス又前發後發共ニ罰金ノ刑ニ該ル可キ罪ニシテ
 前發ノ罪後發ノ罪ヨリ重キハ第一ノ場合ノ如ク後發ノ罪ハ之ヲ
 論セズト雖モ若シ後發ノ罪前發ノ罪ヨリ重キ時ハ更ニ之ヲ論ス例

へハ前發ノ罪罰金二十圓ノ刑ニ該ク後發ノ罪ハ罰金五十圓ノ刑ニ
 該ルカ如キ其後發ノ罪ヲ以テ重シトスル時ハ更ニ之ヲ論シ已ニ納
 完シタル二十圓ヲ扣除シ殘ル三十圓ノ罰金ヲ科スルノ類ナリ
 但以下ハ前發ノ刑罰金科料ニ該ル可キ罪ニシテ已ニ判決ヲ經テ之
 ナ納完シタルノ後ヲ新クニ身體ヲ拘束スル刑ニ該ル可キ罪ノ發覺シ
 タル時ノ處分法ヲ定メタルモノトス此ノ場合ハ後發ノ罪前發ノ罪
 ヨリ重キ時ヲ豫想シタルモノナリ例へハ此ニ罰金百圓ニ該ル可キ
 罪ト重禁錮六ヶ月ニ該ル可キ罪トナ犯シタル者アリ其罰金ニ該ル
 可キ罪ハ前キニ發シ已ニ判決ヲ經テ納完シタルノ後ヲ重禁錮ニ該
 ル可キ罪ノ發覺シタルカ如キ此ノ場合ニ於テ後發ノ罪即チ重禁錮
 ニ該ル可キ罪ヲ以テ重シトスル時ハ更ニ之ヲ論シ已ニ納完シタル
 罰金ハ第二十七條ノ例ニ照シ一圓ヲ一日ニ折算シ而シテ其折算シタ
 ル日數一百日ヲ扣除シ殘ル二ヶ月ト二十日ノ重禁錮ニ處スルノ類ナ

リ其科料ト禁錮トナ犯シタル時ノ例モ亦同シ

第三項本項ハ即チ一罪前キニ發シ已ニ判決ヲ經タル後チ再ヒ罪ヲ
 犯シタルニ因リ其再犯ノ罪ヲ判決スル時ニ際リ未ダ發セサル所ノ
 餘罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル時ノ處分法ヲ示シタル者ナリ
 未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者「再犯ノ罪ハ前發ノ罪ニ
 對スル再犯罪ナリ其未ダ發セサル罪トハ前發ノ罪ト同ク處断以前
 ニ犯シタル罪ナリ今左ニ一例ヲ掲ケテ以テ之ヲ解説セン
 此ニ甲乙二個ノ罪ヲ犯シタル者アリ甲ノ一罪ト輕懲役ノ刑ニ該ル
 可キ者ニシテ乙ノ一罪ハ重懲役ノ刑ニ該ル可キ者ナリ而シテ此ノ二
 罪中獨リ甲ノ一罪ノミ發覺シタルヲ以テ官司ノ推問ヲ經テ己ニ其
 刑ニ處セラレ滿期放免ノ後チ至リ更ニ丙ノ一罪ヲ犯シタリ即チ
 再犯ナリ而シテ其再犯ノ罪モ亦重懲役ノ刑ニ該ル可キモノナリ今此
 ノ再犯ノ罪發覺ニ及ヒタルヲ以テ官司之レカ推問ヲ始メタリシカ

忽チ未ク發セサル所ノ乙ノ一罪モ亦俱ニ發覺シ來レリ因テ乙丙ノ
 二罪ヲ比較スルニ丙ノ一罪ハ再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加フル時ハ
 乙ノ一罪ヨリモ重シ此ノ場合ニ於テハ一ノ重キ丙罪即チ再犯ノ罪
 ニ從テ科シ有期徒刑ニ處シ乙ノ一罪ハ之ヲ論セサルノ類若シ丙ノ
 罪ハ再犯ナルヲ以テ一等ヲ加フルモ仍ホ乙ノ罪ヨリ輕キ時ハ一ノ
 重キ乙ノ一罪ニ從テ論シ刑ヲ科スルノ類ナリ
 然ルニ或ル先生ハ乙ノ一罪ノ本刑ニ一等ヲ加ヘ丙罪ノ本刑ト比較
 スルナリト解釋ヲ下サレタリ若シ果シテ然ラハ寔トニ一驚ヲ喫ス
 ルニ堪ヘタリ蓋シ所謂乙罪ノ本刑ニ一等ヲ加フルトハ何等ノ理由
 ニ因ル乎疑ラシハ再犯加一等ノ原則ヲ誤リタル者ナランガ法文明
 晰敢テ解説ヲ要セズ然ルニ此ノ如キ誤解ヲ爲スハ豈ニ笑フ可キノ
 甚シキニアラスヤ

第三百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其

沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

凡ソ二罪以上俱ニ發覺スル時ハ一ノ重キニ從ヒ餘ハ之レヲ論セサ
 ルヲ以テ原則ト爲スト雖モ其沒收及ヒ徵償處分即チ裁判費用贓物
 ノ還給損害ノ賠償等ハ尙ホ各本法ヲ盡シ之レヲ免スルヲ得ス例
 へハ竊盜罪ヲ犯シ又私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ所有シ又更ニ阿片烟ヲ
 販賣シタルカ如キ事發スルノ後チ官司推問ヲ遂ケ之ヲ律ニ照スニ
 阿片烟ヲ販賣シタルノ罪ハ第二百三十八條ニ依リ輕懲役ニ處ス可
 キモノトス而シテ竊盜罪及ヒ私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ所有シタルノ罪
 ハ第六十一條第三百六十六條ニ依ルニ皆輕罪ノ刑ニ該ル可キ者
 ナレハ數罪俱發一ノ重キニ從フノ例ニ照シ輕懲役ニ處シ餘ノ二罪
 ハ輕キヲ以テ之ヲ論セサル時ト雖モ其所有シタル所ノ銃砲彈藥ハ
 之レヲ沒收シ其竊取シタル所ノ贓物ハ之ヲ事主ニ還給セシメ若シ
 損害アラハ之レヲ賠償セシメ及ヒ裁判費用ノ徵ス可キハ之レヲ徵收

スルノ類ナリ

抑モ沒収ハ一ノ附加刑ナリト雖モ數刑不併科ノ原則ニ因ラスシテ故ラニ之レヲ科スル者ハ何ソヤ蓋シ沒収ハ附加刑ノ中チニ位スト謂フト雖モ之レヲ他ノ刑ニ比スレハ大ニ其性質ヲ異ニスル者ニシテ其物件ハ應禁物ニ非ラサレハ犯罪ノ用ニ供シタル物件若クハ犯罪ニ因テ得タル物件ナリ此レ等ノ物件ハ到底所有セシムルヲ得サル者ナレハ假令ヒ數罪俱發一ノ重キニ從ヒ餘罪ハ論セサル時ニ係ルト雖モ仍ホ之ヲ沒収スル者トス第四十三條第四十四條ノ註ヲ參看ス可シ其裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償等民事上ノ義務ニ係ル者ハ刑ヲ科セサルノ故ヲ以テ之レヲ免スルノ道理ナシ故ニ其徵收ス可キハ之レヲ徵收シ還償セシム可キハ之レヲ還償セシメ各本法ヲ盡スモノトス此ノ点ニ付テハ舊律ト幾ント同主義ナリ例第七十一條ヲ見テ知ル可シ

第八章 數人共犯凡二篇 七條

數人共犯トハ二人以上謀ヲ通シ互ニ相ヒ連合一致シテ罪ヲ犯ス者ヲ云フ分ツテ二種ト爲ス曰ク正犯曰ク從犯是レナリ其詳解ハ次キノ第一節及ヒ第二節ニ之レヲ掲ク

第一節 正犯

第四百條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

本條ハ正犯ノ解義ヲ擧ケ且ツ其處分法ヲ示シタルモノナリ
二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者「言フハ二人以上連合同意シテ現在罪ヲ犯シタル者ナリ若シ夫レ二人以上現ニ罪ヲ犯スト雖モ其意思ヲ同フセス別個ノ意ヲ以テ犯シタル時ハ之ヲ共犯ト云ハス例ヘハ此ニ甲者アリ一女子ノ金簪ヲ戴クヲ見テ忽然盜心ヲ發シテ之レヲ拘摸ス偶乙者傍ラニアリ甲者カ能ク一物ヲ拘摸シ得タルヲ見テ竊カ

ニ涎ヲ垂ルノ意アリ因テ直チニ腕力ヲ以テ女子ニ迫リ遂ニ衣帶并
 櫛内裙ヲ連テ悉ク劫奪シ去ル丙者亦其後ヘニ在リ女子ノ赤身ナ
 ルヲ見情ヲ起シテ姦ヲ行フカ如キ又甲乙偶然丙ノ家ニ入り財物ヲ
 竊取スル等其期セズシテ相會スルカ如キハ其意思ノ在ル所各別個
 ニ屬スルヲ以テ現ニ罪ヲ犯シタリト雖モ之レヲ共犯ト稱セサルノ
 類ナリ。
 皆○正○犯○ト○爲○シ○各○自○ニ○其○刑○ヲ○科○ス○其○造○意○ノ○何○人○ニ○在○ル○ヤ○チ○問○ハ○ス○又
 加○功○ノ○多○少○ヲ○分○ツ○テ○要○セ○ス○數○人○共○同○シ○テ○現○ニ○罪○ヲ○犯○シ○タ○ル○ト○モ○ハ○猶
 ホ○一○人○一○己○ノ○意○思○ヲ○以○テ○一○罪○ヲ○犯○シ○タ○ル○カ○如○ク○看○做○ス○ヲ○以○テ○各○自
 ニ○其○刑○ヲ○科○ス○ル○モ○ト○ス○例○ヘ○ハ○盜○罪○ヲ○犯○ス○カ○如○キ○躬○自○ヲ○犯○所○ニ○臨
 ム○ト○雖○モ○敢○テ○自○ヲ○財○ヲ○探○ク○テ○ス○餘○ノ○一○人○若○ク○ハ○數○人○ノ○盜○ミ○得○タ○ル
 財○物○ヲ○以○テ○事○主○ノ○家○ヨリ○接○遞○ス○ル○モ○ノ○ア○リ○又○家○主○ヲ○威○嚇○ス○ル○ニ○止
 マ○リ○躬○自○ヲ○財○ヲ○探○ク○テ○ス○シ○テ○餘○人○ニ○盜○取○セ○シ○ム○ル○等○多○少○其○景○况○ノ

同シカラサルアリト雖モ皆之レヲ正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科スルノ
 類ナリ然レモ其數犯人中或ハ再犯者アリ二十歳未満ノ者等アリテ
 加重減輕ヲ爲ス可キ時ハ特ニ其再犯者及ヒ二十歳未満ノ者ニ限リ
 加重若クハ減輕ヲ爲ス可キモノニシテ餘人ニ及フコト得ス何トナ
 レハ即チ是レ等ノ加重減輕ハ特ニ其人ノ一身ニ附着シタルモノナ
 レハナリ其他内亂ニ關スル罪兇徒聚衆ノ罪等第二編以下ニ掲ケタ
 ル者ニシテ二人以上共ニ罪ヲ犯スト雖モ各其處分法ヲ異ニスルノ
 場合アリ此ノ如キ場合ハ本條ノ變例ナリトス
 本條ノ主儀ハ舊律ト甚ダ相ヒ異ナレリ舊律名例律共犯罪分首從條
 ニ凡ソ共ニ犯ス者ハ造意一人ヲ以テ首ト爲シ隨從者ハ從ト爲シ一
 等ヲ減ストアリ蓋シ造意者ハ他ヲ誘致シテ非心ヲ惹起セシムル者
 ナレハ情ニ於テ輕重アルカ如シト雖モ人各行止ノ自由ヲ有シ善惡
 ナク釋スルノ知覺アルモノナレハ之レヲ分ツハ理ナキニ似タリ加

之若主ヨリシテ之レヲ觀レハ素ヨリ軒輊ナ此ノ問ニ措キ難シ故ニ此ノ刑法ニ於テハ其造意ノ何人ニ在ルヲ分クテ唯タ現ニ罪ヲ犯シタルモハ皆正犯ト爲シ第百九條ニ掲グル所ノ者ヲ以テ從犯ト爲セ

第百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

本條ハ前條ニ記シタル以外ノ正犯者ヲ示シタルモノナリ 教唆者ハ躬自ラ現ニ罪ヲ犯サスト雖モ尙ホ正犯ト爲シテ其刑ヲ科ス蓋シ教唆者ハ所謂造意者即チ首謀者ニシテ他ノ未タ嘗テ一点ノ非心ヲ帶ヒサル良民ヲ煽動シ若クハ非心稍ク動クト雖モ猶豫未ダ決セサル者ヲ贊助シテ終ニ罪ヲ犯スニ至ラシメ其情頗ル惡ム可クシテ敢テ現ニ手ヲ下シテ罪ヲ犯シタルモノト軒輊ナキニ因リ之レヲ正犯者ト同等ノ地位ニ立タシムルハ素ヨリ至當ノコトナリト爲ス

本條重罪輕罪ヲ犯サシムルトアリ故ニ其教唆セラル、者卒ニ能ク犯罪ヲ組成シ己ニ遂ケタル時ヲ期シ始メテ教唆者ヲ稱シテ正犯ト爲ス可シ若シ夫レ其犯罪ヲ成就セサルモハ假令ヒ人ヲ教唆シタリト雖モ未ダ之ヲ正犯ト爲ス可カラサルモノトス

法律ハ此ニ其教唆ノ方法ヲ舉示セサルハ何ソヤ蓋シ教唆トハ教令ノ意ナル可シ字書ニ以言弄人ト註セラレタリ言フハ言辭ヲ以テ哄唆挑撥シ撫弄以テ仕令ニ供セシムルノ意ナリ然ルニ獨リ其方法ニ至テハ千差萬別或ハ贈與夫以テシ或ハ威權ヲ以テシ若クハ結約ヲ以テスル等素ヨリ一樣ナルモノニアラス是ヲ以テ法律上之ヲ豫定セシメテ一ニ裁判官ノ意見ニ任セタルナリ

○參照○佛朗西刑法第六十條第壹項

第百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

正犯ノ身分ニ因テ別ニ刑ヲ加重スルトハ例ヘハ子孫他人ヲ延テ祖
 父母父母ヲ毆打スルカ如キ子孫ハ第三百六十三條ニ依リ特別ノ加
 重即チ凡人ノ刑ニ二等ヲ加フト雖モ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ハ之
 レカ爲メニ加重セラル、トナク凡人毆打ノ法ニ依ルノ類ナリ
 蓋シ其子孫タルノ身分ヲ有スルニ因テ特別ニ本刑ヲ加重セラル、
 ト雖モ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ノ如キハ本ト凡人ニ係ルヲ以テ特
 ニ其子孫ノ加ハリタルカ爲メニ重刑ニ坐スルノ謂レナケレハナリ
 故ニ他ノ共犯人ニ及ホストナ得サルモノトス

**第一百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教
 唆者ヲ算入シテ多數ト爲ストナ得ス**

犯人ノ多數ニ因テ刑ヲ加重スルコトハ第二編以下ノ諸條ニ於テ特別
 ニ掲載セラレタル者儘之レ有リ即チ竊盜二人以上ハ一等ヲ加フ強
 盜二人以上ハ一等ヲ加フル等ノ類是レナリ而シテ教唆者モ亦正犯ト

爲スト雖モ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲シ刑ヲ加重スルコトヲ許サス
 例ヘハ甲者乙者ヲ教唆シテ強盜罪ヲ犯サシメタルカ如キ此ノ場合
 ニ於テ甲者モ亦正犯ナルヲ以テ之レヲ算入シテ乙者ト合スレハ即
 チ二人以上ナルニ因リ第三百七十九條ニ照スニ一等ヲ加フ可キモノ
 トス然レモ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スハ本條ノ許サ、ル所ナル
 チ以テ之レヲ算入セス甲者乙者共ニ輕懲役ノ刑ニ處スルノ類ナリ
 凡シ犯罪ノ種類ニ因リ現ニ手ヲ下ス者ノ多數ナルキハ事ヲ爲スニ
 便ニシテ其害タル愈大ナル者アリ是レ特ニ犯罪ノミナラス凡百ノ
 事業概テ然ラサルハナシ故ニ法律上其犯罪ノ摸樣ニ因リ犯人ノ多
 數ナルキハ刑ヲ加重ス可キノ明條アリ即チ第四百四十五條第七十
 七條第三百六十九條第三百九十九條等ニ明示スル所ノ者は是レナリ
 然ルニ教唆者ハ正犯タリト雖モ他ノ共犯人ト異ナリ現ニ共犯所ニ
 臨ミ躬自ヲ手ヲ下シテ加功ヲ爲スニ非ラスシテ唯外ニ在テ謀ヲ授

ケタルニ過キサル者ナレハ現ニ罪ヲ犯ス者其犯罪ヲ成立セシムルノ際ニ在テハ毫モ影響スル所ナシ故ニ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ許サ、ルナリ

第百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乗シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス
一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス
二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

本條ハ第百四條及ヒ第百五條ノ變例ニシテ教唆者ノ刑ヲ異ニスルノ場合ヲ示シタルモノトス

事ヲ指定スルトハ即チ其所爲ヲ指定舉示スルヲ云フ例ハ其々チ某地ニ要シ毆打ス可シ或ハ某家ニ入り財物ヲ竊取若クハ公取ス可シト云フカ如ク其所爲ヲ指シテ餘人ニ授クルノ類ナリ
犯人教唆ニ乗シテ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯ストハ例ハ毆打ヲ爲ス可シト教唆シタルニ犯人教唆ニ乗シテ故殺ヲ行ヒ或ハ貨幣ヲ變造ス可シト教唆シタルニ犯人教唆ニ乗シテ貨幣ヲ偽造シタルカ如キノ類ヲ云フ
其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト殊ナルトハ例ハ人犬皆睡熟スルヲ探聽シテ内房ニ進入シ竊カニ財物ヲ盜取ス可シト教唆シタルニ犯人却テ鎗根ヲ持シ火光ヲ点シ家人ヲ恐嚇シテ財物ヲ奪取シタルカ如キ又ハ家屋ヲ破壊ス可シト教唆シタルニ犯人却テ放火シテ家屋ヲ燒燬シタルカ如キノ類ヲ云フ
以上ノ場合ニ於テ教唆者ヲ處斷スルニ所犯教唆シタル罪ヨリ重キハ

ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ストアルヲ以テ犯人ハ其現ニ
 行フ所ノ罪即チ其重キ故殺或ハ偽造貨幣或ハ放火或ハ強盜等ノ罪
 ニ坐スルト雖モ教唆者ハ止タ其自己ノ指定シタル所ノ罪即チ其輕
 キ毆打或ハ變造貨幣或ハ破壞家屋或ハ竊盜等ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス
 ルモノトス
 其所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時例ヘハ強盜ヲ爲ス可シト教唆シタ
 ルニ犯人強盜ヲ爲サスシテ却テ竊盜ヲ行ヒタルカ如キハ現ニ行フ
 所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ストアルヲ以テ犯人ト同ク竊盜ノ罪ニ從テ刑
 ナ科スルモノトス
 蓋シ法律ノ斯ク規定セラレタリシ所以ノ者ハ教唆者ヲシテ自己ノ
 知ラサル意外ノ罪ニ坐セシムルハ不正ナルヲ以テノ故ナル可シ夫
 レ教唆者ハ唯某ノ事ヲ爲ス可シ又某ノ罪ヲ犯ス可シト指定シ其指
 定シタル以外ノ事ハ自家ノ知ル所ニアラス故ニ其慮モ亦其指定以

外ノコニ及ハス必竟指定以外ノ事ハ犯人カ自意ノ所爲ニ係ルヲ以
 テ教唆者ハ唯其指定シタル所ニ止マルモノトス其所犯指定シタル
 所ヨリモ却テ輕キ時ハ止タ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科スト有ル
 ハ蓋シ社會ヲ害スルノ輕キ者ハ其刑モ亦輕キハ一般ノ原則ニシテ
 今犯人其教唆ヲ受ケタル所ヨリモ輕キ罪ヲ犯シタルハ是レ其社會
 ナ害スルコト輕キカ故ニ教唆者モ亦犯人ト同ク其輕キ所ノ刑ヲ受ク
 可キハ至當ノコトナレハナリ然リ而シテ本條教唆ニ乘シ指定シタル以
 外ノ罪ヲ犯ストハ其罪ノ性質多少相ヒ類似シタル所ノ罪ヲ犯シタル
 場合ヲ云フ例ヘハ毆打創傷ト故殺トノ如キ類ニシテ若シ其竊盜ヲ
 爲ス可シト教唆シタルニ犯人却テ謀殺ヲ行フカ又ハ強姦ヲ行フダ
 ルカ如キハ其事由自ラ別個ニ屬スルヲ以テ之レヲ教唆ニ乘シタル
 者トハ爲ス可カラサルナリ

第二節 從犯

第百九條 重罪輕罪ヲ犯ス₁ヲ知テ器具ヲ給與シ又
ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯
罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一
等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重
キ時ハ止メ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

本條ハ從犯ノ解義ヲ舉ケ且ツ其處分法ヲ定メタルモノトス
凡ソ從犯ト稱スル者ハ現ニ犯所ニ臨ミ手ヲ下シテ正犯ノ加功ヲ
爲ス者ヲ云フニ非ラス唯其正犯ヲ幫助シテ間接ニ罪ヲ犯スモノヲ云
フ蓋シ其正犯者トハ情ニ於テ頗ル逕庭アルヲ以テ法律ハ正犯ノ刑
ニ一等ヲ減輕スルモノト爲セリ(舊律ノ隨從者トハ甚ク相ヒ異ナル
モノトス)
重○罪○輕○罪○ヲ○犯○ス○₁○ヲ○知○テ○器○具○ヲ○給○與○ス○ル○ト○ハ○例○へ○ハ○甲○者○ア○リ○乙○者
カ○丙○者○ヲ○謀○殺○セ○ン○ト○欲○ス○ル○ヲ○知○テ○刀○劍○ノ○屬○ヲ○給○與○ス○ル○カ○如○キ○ノ○類

ナリ而シテ甲者豫メ其給與スル所ノ器具ヲ以テ乙者カ犯罪ノ用ニ供
シ其器具ニ因テ犯罪ヲ容易ナラシムルヲ知テ故ラニ之レヲ給與
シタル時ニ限レリトス若シ夫レ乙者カ薪ヲ折カントスルニ因リ甲
者之レニ斧鉞ヲ貸與シタリシニ圖ラサリキ其斧鉞ヲ以テ丙者ノ頭
ヲ斷テ謀殺ノ罪ヲ犯シタルカ如キハ甲者ヲ指シテ從犯ト爲ス₁ヲ
得サルモノトス其他都テ罪ヲ犯ス₁ヲ知ラサル者ハ從犯者ト爲ス
可キ者ニアラサルナリ
誘○導○指○示○云○々○ト○ハ○例○へ○ハ○甲○者○ア○リ○乙○者○ヲ○謀○殺○セ○ン○ト○欲○ス○ル○ヲ○知○テ
丙○者○之○レ○カ○爲○メ○ニ○乙○者○ノ○舉○動○及○ヒ○平○素○乙○者○カ○遊○フ○所○ノ○場○所○若○シ○ハ○在
家ノ日時其他家人ノ多少鶏犬ノ有無或ハ潜入ノ場所等ヲ甲者ニ報道
シ機ヲ授ケテ以テ謀ヲ舉グルニ便ナラシムルノ類ヲ云フ而シテ此ノ
事タルヤ頗ル教唆ニ類似スト雖モ亦自ラ相ヒ異ナル所アリ教唆ハ
本ト我レヨリシテ事ヲ授ケ而シテ後ヲ彼レヲシテ其心ヲ決シ以テ犯

罪ニ至ラシムルヲ云ヒ誘導指示ハ即チ彼レ已ニ心ヲ決シ而シテ我レ
 其情ヲ知テ之レニ授ケルニ手段ヲ以テスル者ヲ云フ之レヲ要スル
 ニ教唆ハ犯人決意ノ以前ニ起リ而シテ誘導指示ハ犯人決意ノ以後ニ
 起ルモノトス
 其○他○豫○備○ノ○所○為○ヲ○以○テ○正○犯○ヲ○幫○助○ス○ル○ト○ハ○謀○殺○ヲ○行○ハ○ン○ト○欲○ス○ル
 者○ノ○家○ニ○其○謀○ラ○ル○ノ○人○ヲ○誘○致○シ○或○ハ○竊○盜○ヲ○為○サ○ン○ト○欲○ス○ル○者○ノ
 為○メ○ニ○故○ヲ○ニ○門○戸○ヲ○閉○鎖○セ○サ○ル○ノ○類○ヲ○云○フ○而○シ○其○誘○導○指○示○ト○云○ヒ
 豫○備○ノ○所○為○ト○云○ヒ○或○ハ○器○具○ヲ○給○與○ス○ル○ト○云○ヒ○皆○是○レ○他○人○罪○ヲ○犯○サ
 ノ○ト○ス○ル○ノ○情○ヲ○知○テ○其○犯○者○ヲ○幫○助○シ○犯○罪○ノ○成○立○ヲ○容○易○ナ○ラ○シ○メ○而○シ
 己○レ○其○事○ニ○與○カ○ラ○サ○ル○者○之○レ○ヲ○稱○シ○テ○從○犯○ト○爲○シ○以○テ○正○犯○ノ○本○刑
 ニ○一○等○ヲ○減○ス○ル○モ○ト○ス
 但○以○下○ハ○變○例○ナ○リ○ト○ス○正○犯○現○ニ○行○フ○所○ノ○罪○從○犯○ノ○知○ル○所○ヨ○リ○重○キ
 時○ト○ハ○例○ヘ○ハ○從○犯○ハ○正○犯○ノ○犯○サ○ン○ト○欲○ス○ル○所○ノ○罪○ハ○竊○盜○罪○ナ○リ○ト

思惟シタリシニ正犯現ニ行ヒタル所ハ竊盜罪ニアラスシテ強盜犯
 ナルカ如キ類ナリ此ノ場合ニ於テハ前條ノ例ノ如ク止テ從犯知ル
 所ノ罪即チ竊盜罪ニ照シ一等ヲ減スルモノトス
 之レニ反シテ正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリモ輕キ時例ヘ
 ハ從犯ハ正犯ノ行ハント欲スル所ノ罪ハ謀殺罪ナリト思惟シタリ
 シニ正犯現ニ行ヒタル所ハ謀殺ニアラスシテ止テ豫メ謀テ人ヲ毆
 打創傷シタルカ如キ此ノ場合ニ於テハ其現ニ行フタル所ノ罪即チ
 毆打創傷ノ罪ニ照シテ一等ヲ減スル者ナルヲ素ヨリ論テ俟タサル
 所ナリ
 抑モ本條掲ケル所ノ者ハ都テ事前ノ從ニシテ事後ノ從ニアラサル
 ナリ我カ國ノ律ニ於テハ獨リ事前ノ從アリテ事後ノ從ナル者ナシ
 之レニ異ナル佛朗西刑法ノ如キハ事後ノ從ト稱スル者アリ即チ罪
 人ヲ藏匿シ或ハ盜賊ナルヲ知テ故賣寄藏スル等ノ類是レナリ是

レ等ノ類ハ我カ刑法ニ於テハ從犯ト爲サスシテ別ニ一種ノ罪ト爲シテ之レヲ罰スルモノトス

○參照○佛朗西刑法第六十條第一項ハ教唆者ナリ第六十一條第六十二條後事

從ノ○獨逸刑法第四十八條此文ハ之レヲ畧ス第四十九條○白耳義刑法第六十七條第六十八條此條ハ教唆者ナリ○伊太利新刑法第七十六條第一第二ハ教唆者第三ハ教唆者及ヒ事前事後ノ從第四第五

ハ事前ノ從

第百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル

時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スル時ノ處分法ハ第百六條ニ於テ之レヲ見タリ本條ハ從犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スル時ト正犯ノ身分ニ

因リ刑ヲ減免スル時トノ處分法ヲ定メタルモノトス

第一項身分ニ因リ刑ヲ加重スルトハ子孫又ハ官吏タルノ身分ニ因

テ特ニ其本刑ヲ加重スルノ場合ヲ云フ

其重キニ從テ一等ヲ減ス夫レ從犯ハ正犯ノ本刑ニ一等ヲ減スルヲ

以テ原則ト爲スト雖モ若シ其身分ニ因リ特別ニ本刑ヲ加重セラル

可キ者從犯ト爲ル時ハ其加重シタル所ノ刑ヨリ一等ヲ減スルモノ

トス例ヘハ茲ニ甲者アリ豫メ謀テ乙者ヲ毆打シテ篤疾ニ致セリ而

シ丙者之レカ從犯タルカ如キ通常ノ場合ニ於テハ甲者即チ正犯ノ

本刑ハ重懲役ニ該ルヲ以テ丙者即チ從犯ハ之レヨリ一等ヲ減シ輕

懲役ニ處ス可キモノトス然ルニ其毆打セラル、所ノ乙者ハ丙者ノ

父ニ係ルヲ以テ丙者ハ其子タルノ身分ニ因リ特別ニ刑ヲ加重シ其

本刑無期徒刑ニ該ル可キモノトス此ノ場合ニ於テハ甲者ノ本刑ニ

照シテ減等ヒスシテ其重キニ從ヒ無期徒刑ヨリ一等ヲ減シ有期徒

刑ニ處スルノ類ナリ
 第二項正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時云々例ハ同居ノ子弟
 其父兄ノ財物ヲ竊取スルモノアリ之レヲ第三百七十七條ニ照スニ
 無罪ト爲ス然ルニ之レカ從犯タル他人アリトセンニ其正犯ハ身分
 ニ因リ刑ヲ免セラルト雖モ從犯ハ其輕キニ從テ刑ヲ免セラル
 コトヲ得サル者ナレハ亦必ラス通常竊盜ノ本刑即チ二月以上四年以
 下ノ刑ヨリ一等ヲ減シ重禁錮一月十五日以上三年以下ノ刑ニ處セ
 ラル、ノ類又十六歳以上二十歳以下ノ幼者重懲役ノ刑ニ該ル可キ
 罪ヲ犯サンニ此ノ場合ニ於テハ其幼者タルノ身分ニ因リ本刑ニ一
 等ヲ減シ輕懲役ノ刑ニ處ス可キモノトス然ルニ之レカ從犯タル丁
 年者ハ正犯ノ刑即チ幼者ノ受ク可キ輕懲役ノ刑ニ照シテ一等ヲ減
 スル所ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該ルト雖モ其輕キニ從テ減
 刑スルコトヲ得サル者ナレハ亦必ラス重懲役ノ刑ヨリ一等ヲ減シ輕

懲役ノ刑ニ處セラル、ノ類ナリ

第九章 未遂犯罪 凡三條

未成犯或ハ謀試或ハ試犯トモ云フ罪ヲ犯サントシテ未タ其目的ヲ
 遂ケサルノ謂ヒナリ西人之レヲ分チテ三段或ハ四段或ハ五段若ク
 ハ六段七段ト爲シテ解釋ス今姑ラ之レヲ六段ニ分チテ左ニ記載
 セン
 第一段罪ヲ犯サントスルノ思想例ハ茲ニ人アリ東都ノ市街ニ居
 住セリ然ルニ其人常ニ幽鬱ニ困ニ神氣ノ快爽ナラサルヨリ之レヲ
 慰メンカ爲メ忽チ旅行ヲ爲サント欲スルノ思想ヲ發起スルノ類ニ
 シテ罪ヲ犯サントスルノ思想ヲ生スルモ亦之レト同一ノ例ナリ之
 チ第一段ト爲シ而シテ此ノ段ハ未タ道德ヲ害スルニ至ラス蓋シ人ノ
 思想ハ時々變遷シ易ク平素謹厚ノ人ト雖モ時トシテ惡業ヲ爲サン
 トスルノ思想ヲ發スルコトナキ時期ニ難ケレハナリ故ニ此ノ一段ニ

於テハ素ヨリ刑ヲ加フ可キモノニアラサルナリ
 第二段罪ヲ犯サントスルノ意前例ニ據ルニ旅行ヲ爲サントスルニ
 ハ先ツ温泉ニ浴センカ或ハ京師ニ遊ハシカト思念スルノ類之レテ
 第二段ト爲シ唯其人ノ意中ニ存シテ未ダ外ニ顯ハレサルカ故ニ前段
 ニ比スレハ少シク道德ヲ害スル所有リト雖モ絶テ社會ヲ害スルコト
 無キヲ以テ法律之レヲ罰スルコトヲ得ス或者云フ人ノ意中ニ入ルハ
 頗ル危険ニシテ且ツ厭フ可キモノナリト是ナリ
 第三段罪ヲ犯サントスルノ決意前例ニ據ルニ此ニ至テ始メテ京師
 ニ遊ハント決意シ或ハ同行人ヲ勸メ以テ出發ノ日時ヲ俟ツノ類之
 レテ第三段ト爲シ前段ニ比スレハ其道德ヲ害スルコト稍大ナリト雖
 モ尙ホ未ダ社會ヲ害スルニ至ラス故ニ之レヲ罰スルコトヲ得ス然レ
 ニ將來ノ危害ヲ生ス可キ二三ノ場合ニ於テハ亦之レヲ罰スルコトア
 リ蓋シ此ノ段ニ至テハ即チ非心已ニ内ニ胚胎シ早晚必ラス危害ヲ

生ス可キヲ以テ之レヲ未發ニ防クモノナリ是レ其特例ナリトス
 第四段罪ヲ犯サントスルノ豫備前例ニ據ルニ已ニ京師ニ遊ハント
 決意シタルヲ以テ或ハ旅費ヲ調ヘ或ハ行李ヲ収メ專ラ出發ノ備ヘ
 ナ爲スノ類之レテ第四段ト爲シ其道德ヲ害スルコト前段ニ比スレハ
 更ニ大ナリト雖モ尙ホ未ダ社會ヲ害スルニ至ラサルヲ以テ之レヲ
 罰スルコトヲ得ス然レニ或ル二三ノ場合ニ於テハ之レヲ罰スルモノ
 アリ蓋シ決意已ニ成テ豫備ヲ爲スニ至テハ危害ヲ生スルコト近キニ
 在リ隨テ人心ヲ動搖セシムルノ患アレハナリ
 第五段犯罪ニ着手スル事前例ニ據ルニ豫備已ニ成リ出發ノ日已ニ
 到リタルヲ以テ始メテ東京ヲ發足シ藤澤ノ驛ニ到着シ逆旅ニ投ス
 ルノ類之レテ第五段ト爲ス
 第六段罪ヲ犯シテ未ダ遂ケサル事前例ニ據ルニ已ニ藤澤ノ驛ニ到
 リシニ急雨ノ故ヲ以テ圖ヲス馬入川暴漲シ遂ニ渡ルコト能ハスシテ

空ク家ニ販ルノ類之レテ第六段ト爲シ此ニ至テハ概テ刑ヲ加フルモノトス

然レヒ其五大段ト爲シテ釋明スルノ説ニ於テハ右第五第六ノ二段ヲ合シテ一段ト爲シ之ヲ通例ノ者ト爲セリ蓋シ穩當ナル可シ然リ而ノ斯ク數段ニ區別シテ之レヲ釋明スト雖モ畢竟理論ニ止マリ敢テ必要ナルモノニ非ラス故ニ其三大段ト爲シ四大段ト爲シ或ハ五大段六大段ト爲スモ今敢テ其可否ヲ論究スルヲ好マス

以上敷衍シタル所或ル二三ノ場合ヲ除クノ外第四段以下ハ之レヲ罰セサルヲ以テ原則ト爲シ第五段ニ至テ始メテ之レヲ罰スルモノトス抑モ法律ニ於テ第四段以下ノ者ヲ罰セサル所以ノモノハ管ニ犯人禍心ヲ包藏スルモ未ダ外面ノ所爲ニ顯ハサルヲ以テ其証佐ヲ得ルノ難ク且ツ未ダ社會ヲ害スルニ至ラスト云フノ点ヨリシテ之レヲ罰セサルノミニ非テス仍ホ他ニ理由アリトス蓋シ單ニ其決意

豫備ノミニ在テハ犯人自ラ反フシテ其非ヲ知り過テ改メテ善ニ遷ルヲ無シト云フ可カラス然ルニ其決意豫備ノ点ヨリシテ之レヲ罰ス可キモノトスル時ハ已ニ決意シタルノ犯人ハ概テ良心ヲ動スナク強イテ非ヲ遂ケントスルニ至ル可シ何トナシハ則チ其罪ヲ犯スモ罰セラレ之レヲ犯サルモ亦罰セラル罰ハ一ノミ寧ロ罪ヲ犯シテ以テ罰ヲ受クルニ如カスト爲スモノ有ル可ケレハナリ故ニ決意豫備ノミニ以テハ概テ之レヲ罰セサルモノトス

然レヒ或ル場合ニ於テハ之レト同一ノ理由ニ因ラスシテ決意豫備ノ点ヨリ之レヲ罰スルモノアリ今其理由ノ如キハ本條ニ就テ之レヲ説明ス可シ之レヲ要スルニ法律上刑罰ヲ加フル者ハ左ニ記載スル所ノ三種ニ過キサルモノト知ル可シ

第一罪ヲ犯サンコトヲ謀ル者即チ決意ニシテ第三段ニ掲ケタル者は是レナリ

第二罪ヲ犯サントシテ已ニ豫備ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル者即チ第四段ニ掲ケタル者は是レナリ

以上第一第二ノ場合ニ於テハ之ヲ罰スト雖モ其場合ハ僅々二三ニ過キサルモノトス

第三已ニ其事ヲ行フト雖モ未ダ遂ケサル者即チ第五段第六段ニ掲ケタルモノ是レナリ而シテ此ノ場合ニ至テハ大概之レヲ罰スルモノトス

第百十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

本條ハ第三段及ヒ第四段ニ掲ケタル未遂犯ノ決意豫備ニ係リタル時ノ處分法ヲ示シタルモノナリ

凡ソ罪ヲ犯サンコトヲ謀リ即チ罪ヲ犯サント決意シ又ハ犯罪ノ豫備

ヲ爲スカ如キハ未ダ其事ヲ行ハスト雖モ多少事跡ノ以テ外面ニ顯ルコトナキニ非ラス例ヘハ謀殺ヲ行ハント決意シ之レヲ心ニ謀リ之レヲ人ニ謀リ屬某所ニ會同シテ密事ヲ議スルカ如キ是レ其罪ヲ犯サンコトヲ謀ル者ニシテ人此ノ間ニ於テ不審ヲ措クコトアル可シ而シテ又某所ニ集マリ或ハ刀劍ヲ磨キ或ハ毒藥ヲ製スルカ如キ是レ其犯罪ノ豫備ヲ爲ス者ニシテ人能ク其謀殺ノ豫備ヲ爲ス者ナルコトヲ偵知スルヲ得可シ然レモ事理尙ホ曖昧ニ屬スルヲ以テ法律ハ特ニ其明條アル者ヲ除クノ外之レヲ罰スルコトヲ得サルモノト爲セリ夫レ罪ヲ犯サント欲シ己ニ之レヲ心ニ決シ又之レカ豫備ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル者ハ之レヲ罰スルコトヲ得サルモノハ何ソヤ是レ他ナシ凡ソ陰謀豫備ト稱スル者ハ概シテ前例擧クル所ノ如キモノニシテ事理尙ホ曖昧ニ屬シ其議スル所ノ事ハ是レ何ノ事ナル歟其磨ク所ノ刀劍ハ是レ何ノ用ニ供セントスル歟其人或ハ一家

ノ密事ヲ議シタルヤモ未タ知ル可カラス而シテ警ヲ防キ己レヲ保護
 センカ爲メ刀劍ヲ磨キタルヤモ亦未タ知ル可カラス偶シテ其訊問ノ際ニ
 在テ辭否カリ或ハ爲メニ其實情ヲ吐露スルコト有ルモ果シテ實情ナ
 ルヤ否ヤ或ハ神心畏懼ノ致ス所ナルカ亦未タ知ル可カラスシテ事
 遂ニ曖昧タルヲ免レサル可シ假令ヒ之レヲ糾問シテ能ク其果シテ犯
 罪ノ陰謀豫備ナルコト知リ得タリト云フト雖モ其人未タ社會ヲ害
 スルニ至ラザレハ之レヲ罰シテ其改良心ヲ妨害センヨリ寧ロ之レ
 ナ不問ニ措キ以テ社會ノ利益ヲ計ルニ如カサルナリ故ニ其陰謀豫
 備ニ止マリ未タ其事ヲ行ハサル者ハ之レヲ不問ニ措クヲ以テ原則
 ト爲セリ

然レハ其國事ニ關スル罪其他二三ノ罪ニ至テハ陰謀豫備ノ点ヨリ
 シテ之レヲ罰スルモノト爲セリ蓋シ其之レヲ罰スル所以ノ者ハ左
 ノ理由ニ外ナラサル可シ

夫レ國事ニ關スルノ罪ハ尋常事犯ト異ナリ一人一己ノ力ヲ以テ
 能ク事ヲ舉ク可キニアラス是ヲ以テ必テス數千ノ黨羽相ヒ結合シ
 或ハ沙上ニ坐シ或ハ烽火狐鳴シテ無賴ノ徒ヲ招集センコトヲ謀ル等
 其議スル所ノ陰事其爲ス所ノ豫備一トシテ世人ノ耳目ヲ動かサ、
 ルハ無シ故ニ之レカ實証ヲ得ルコト頗ル易クシテ且ツ誤謬ナキヲ保
 ス可ケレハナリ是レ陰謀豫備ヲ罰スル第一ノ理由ナリ

夫レ國事ニ關スルノ罪ハ其事タル至大至重ニシテ一旦事ヲ舉クル
 ニ至テハ天下安危ノ決スル所未タ知ル可カラス隨テ生民ノ塗炭モ
 亦未タ知ル可カラス而シテ其害タル殆ント名狀ス可カラサルニ至ラ
 ン實トニ尋常事犯ト年々同フシテ語ル可キモノニ非ラサルナリ故
 ニ之レヲ未發ニ防キ以テ社會ヲ保護セサル可カラス是レ其陰謀豫
 備ヲ罰スル第二ノ理由ナリ

夫レ國事ニ關スルノ罪ハ其目的トスル所本ト政府ヲ顛覆シ又ハ邦

士ヲ僭竊セントスルニ在ル者ナレハ其已ニ事ヲ舉ケ目的ヲ達スルニ至テハ該犯人現政府ニ代テ政權ヲ掌握スルニ因リ遂ニ之レヲ罰スルヲ得サル者ナレハ此ノ犯ニ限リ未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルヲ以テ原則ト爲ス故ニ其陰謀豫備ノ点ニ於テモ亦之レヲ罰セサルヲ得サルモノトス之レ第三ノ理由ナリ

以上敷衍シタルカ如キ理由アルヲ以テ國事ニ關スルノ罪ハ陰謀豫備ノ点ヨリシテ之レヲ罰シ禍害ヲ未發ニ防遏スルモノトス而シテ偽造貨幣ノ罪ノ如キモ亦豫備ノ点ヨリシテ之レヲ罰スル所以ノ者ハ是レ亦其危害ノ多クシテ且ツ証佐ヲ得ルヲ容易ナルニ因ルモノトス

第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

本條ハ已行ノ未遂犯即チ第五段第六段ニ掲ケタル所ノ未遂犯ノ處分法ヲ示シタルモノナリ

犯人意外ノ障礙ニ因リ未タ遂ケサル時トハ豫備已ニ終リテ其事ヲ行ヒ始メタリシニ中間犯人ノ期セサル他ノ情狀ニ因リ其所爲ヲ盡スル能ハスシテ中止シタル場合ヲ云フ例ヘハ甲者乙者ノ謀殺セント欲シ將サコノ刀ヲ揮テ乙者ノ頭ヲ断ダントス偶丙者傍ヲニ在リ此ノ體ヲ見テ倉皇或ハ甲者ノ前ヲ蔽ヒ或ハ後ヘヨリ甲者ノ兩手ヲ捉ヘ支ヘテ以テ其所爲ヲ盡スル能ハサラシムルカ如キ又ハ甲者乙者ニ鳩酒ヲ勸ム丙者其毒ナルヲ知リ直チニ取テ之レヲ反スノ類是レ皆他人ノ爲メニ阻遏セラレ遂ニ其所爲ヲ盡スル能ハサル者ニシテ犯人ノ意思ニ關係スル者ニ非ラサルナリ

犯人意外ノ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時トハ已ニ其所爲ヲ盡シ其事ヲ行ヒ畢リタリト雖モ犯人ノ期セサル他ノ情狀ニ因リ其行フ所ノ

事無効ニ屬シ遂ニ其目的ヲ達セサルノ場合ヲ云フ例ハ甲者アリ
 乙者カ路傍ニ醉臥セルヲ見テ窃カニ其懷中ヲ探クリ夾袋ヲ盜取シ得
 タリシニ忽チ他人ノ來ルニ會シ錯愕遂ニ財ヲ棄テ逃走シタルカ如
 キ又ハ甲者乙者ヲ毒殺セント欲シ毒酒ヲ勸メタリシニ乙者之レヲ
 飲ミテ其毒アルヲ知リ俄カニ自ラ消毒劑ヲ服シタルニ因リ毒藥
 其効ヲ奏セサルノ類是レ替他ノ情狀ニ因リ已ニ其事ヲ行ヒ畢リタ
 リト雖モ能ク其目的ヲ達スルヲ得サル者ニシテ犯人ノ意思ニ關
 係スル者ニ非ラサルナリ

以上二個ノ場合即チ障礙舛錯ニ因テ其罪ヲ犯シ遂ケサル時ハ已ニ
 遂ケタル者ノ本刑ニ照シテ一等又ハ二等ヲ減スルモノトス蓋シ已
 ニ其事ヲ行ヒタルニ於テハ其所爲ノ以テ外面ニ顯ル、アリテ道德
 ナ損シ社會ヲ害スルヲ頗ル大ナリト雖モ其已ニ遂ケタル者ニ比ス
 レハ亦自ラ間ナシトセス故ニ已遂者ノ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

ルモノナリ

抑モ障礙ト舛錯トハ自ラ異別アル者ニシテ所謂障礙ハ之レヲ中止
 シテ畢ラサル者而シテ舛錯ハ之レヲ行ヒ畢リタルト雖モ其効ヲ生ジ
 サル者ナリ然ルニ之レヲ一條中ニ併記シテ其處分法ヲ分カダサル
 ハ何ソヤ蓋シ理論ニ於テハ宜ク之レヲ分ツ可キニ似タリト雖モ實
 際ニ於テ彼此ノ情狀ヲ參酌スルニ障礙必ラスシモ重カラス舛錯必
 ラスシモ輕カラサル者アラソ若シ之レヲ分ツキハ或ハ輕重ノ衡其
 宜シキヲ得サルヲアリ且ツ彼此ノ輕重ヲ分別スルヲ頗ル困難ナルヲ
 有ル可シ故ニ其權衡ヲ得且ツ其困難ヲ避ケンカ爲メ之レヲ裁判官
 ノ所見ニ一任シ以テ一等又ハ二等ヲ減スルモノトセリ然レモ其實
 際ニ臨ミ處分ヲ施スニ際リ其障礙ニ係ルキハ一等ヲ減シ舛錯ニ係
 ルキハ二等ヲ減スルニ於テハ更ニ允當ヲ得ルニ庶幾カラソ
 茲ニ又不能犯ニ係ル場合即チ已ニ第一條ニ掲ケタリシ毒殺ヲ行ハ

シトシテ誤テ砂糖ヲ飲シメタルカ如キ又ハ人ヲ狙撃セントシテ空
 砲ヲ放チタルカ如キ場合ニ於テハ如何シテ處断ス可キ乎是レ等ノ
 犯ニ於テハ理論ヲ以テスルニ決シテ犯罪ヲ成就シ得ヘキ者ニ非ラ
 ス故ニ外國ノ法律ニ於テハ概テ之レヲ罰セサルカ如シ然レモ其風
 俗ヲ察ルノ点ヨリシテ之レヲ論スレハ亦決シテ之レヲ不問ニ措ク
 可カラズ蓋シ其毒藥ト誤信シ及ヒ丸ヲ挿ミタル者ト誤信シタルハ
 所謂意外ノ舛錯ニシテ若シ果シテ毒藥ニ係リ又果シテ空砲ニ非ラ
 サル時ハ其目的ヲ達シ得可ク且ツ外面ノ所爲ニ顯ハレ一個ノ犯罪
 ナ組成セントシタル者ナレハ我カ國ニ於テハ之レヲ未遂犯ト爲シ
 テ以テ罰ス可シト云フノ說アリ而シテ稍シ此ノ說ニ一決セルカ如シ
 因テ今姑ク此ノ說ニ從フ

又茲ニ謀殺ニ未遂犯ト爲ス可キ手將タ否ヲサルカノ一問題アリ其
 畧ニ曰ク茲ニ某甲ナル者アリ嘗テ事ニ因リ乙某ト隙ヲ生シ爾來甲

某怨テ内ニ搆フル日已ニ深シト雖モ未ダ嘗テ殺氣ヲ帶フルニ至ラ
 サリキ然ルニ一日某所ニ於テ乙某ト酒宴ノ席ニ會シ談話ノ間乙某
 戲謔シテ言偶某甲某ノ名譽ニ關スル事ニ及ヘリ而シテ斯ノ言タルヤ
 素ヨリ坐上ノ一興ニ過キサリシニ何ソ料ラン大ニ某甲某ノ心ヲ傷ル
 ノ怨ト爲リ殺機此ニ萌シ遂ニ乙某ヲ結果シ了セシメントスルノ念
 慮ヲ發シ事ニ託シテ其席ヲ退キ途上熟謀ヲ定メ卒ニ刀ヲ執テ以テ
 某所ノ森林中ニ潛匿シ乙某ノ歸ルヲ待ツ乙某何ソ此ノ事ヲ知ラン
 ヤ故ニ酒ヲ帶ヒ放歌シテ而シテ該森ノ傍ヲ過キレリ某甲某直チニ進
 ミ出テ刀ヲ用ヒテ乙某カ肩頭ニ向ヒ殺斫スル一下傷ニ因テ當時身
 倒ル某甲某勢ニ乘シテ將サニ其吭ヲ刺サントスルニ際シ乙某頻リニ
 其罪ヲ鳴謝シ合掌シテ餘喘ヲ全フセシメ乞フ是ニ於テ手甲某頓
 ニ無情ヲ覺ヘ坐ロニ哀憐ノ心ヲ起シ刀ヲ抛チテ急ニ乙某ヲ介保シ
 遂ニ自ヲ負フテ乙某ノ家ニ至レリト

之レテ決スル者云フ這個ハ本犯ノ真心悔悟ニ因テ自ラ之レテ遂ケサル者ナレハ之レテ意外ノ障礙ト云フ可カラス又意外ノ舛錯トモ云フ可カラス故ニ唯其現ニ加ヘタル所ノ毀傷ノ罪ヲ問フ可シト此ノ説蓋シ穩當ヲ得タリト云フ可シ(草案ニハ斯ノ如キ明條アリタリキ)

或ハ云フ是レ亦障礙舛錯ニ因テ其事ヲ遂ケサル者ニシテ謀殺ノ未遂犯ヲ以テ論ス可シト此ノ説モ亦細カニ論下スル時ハ大ニ其理ノ取ル可キ有リ然レモ今茲ニ此ノ兩説ノ理由ヲ陳シテ以テ漫リニ之レカ可否ヲ決スルヲ好マス看者幸ニ之レヲ取捨セヨ

○參照○佛蘭西刑法第二條○埃及刑法第十條重罪又ハ輕罪ヲ犯サント爲シ既ニ之ヲ行ヒ始メタル時ハ縱令ヒ本人ノ意ニ管セサル景狀ニ因リ之ヲ止メ又ハ之ヲ仕損スルト雖モ罪犯ノ謀試アリトス可シ○白耳義刑法第五十一條凡ソ輕重罪ヲ犯サント決心シ己ニ手ヲ

試ル者ト雖モ或ハ機ヲ失シ或ハ他人ニ遮キテ志ヲ果サ、ル者ハ其構意ヲ按シ罰ニ處ス○普魯士千八百五十一年四月十一日ノ刑法第三十一條罪犯ノ己ニ所業上ニ現レ而シテ他ノ障礙ヲ被リシカ爲メ其本意ヲ遂ケル能ハス或ハ未ダ其結果ヲ熟成セサルモハ之ヲ己行未成ノ者トシテ處決ス可キナリ

第三百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス
違警罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ前條ニ掲ケタル未遂犯例ノ及フ所即チ罪ノ種類ニ從ヒ之レヲ罰スル者ト之レヲ罰セサル者トノ區別ヲ示シタルモノナリ

凡ソ未遂犯罪ニ於テハ重罪ノ未遂ニ係ル者ハ悉ク之レヲ罰スルヲ以テ原則ト爲シ違警罪ノ未遂ニ係ル者ハ悉ク之レヲ罰セサルヲ以テ原則ト爲ス而シテ輕罪ノ未遂犯ニ至テハ之レヲ罰スル者ト之レヲ罰セサル者トアリ其之レヲ罰スル者ハ各本條ニ於テ特別ニ明文ヲ掲ケタル者ニ限レリトス

夫レ重罪ノ未遂犯ハ悉ク之レヲ罰スル所以ノ者ハ何ソヤ蓋シ重罪ハ都テ其社會ヲ害スルヲ頗ル大ニシテ且ツ概テ犯狀顯跡アリテ其証佐ヲ得ルヲ極メテ易キカ故ナリ之レニ反シテ違警罪ハ其罪最モ輕微ニシテ社會ヲ害スルヲ極メテ少ク隨テ之レカ實証ヲ得ルヲ甚ク難キヲ以テ悉ク之レヲ論セサルモノトス唯リ輕罪ニ至テハ其罪ノ種類ニ因リ或ハ社會ヲ害スルヲ頗ル大ニシテ且ツ其犯狀顯跡アリテ之レヲ證明シ易キ者アリ或ハ其害甚ク大ナラスシテ且ツ其犯狀ヲ證明シ難キ者アリ故ニ其罪ノ性質ニ因テ之レヲ罰スルモノト

罰セサルモノトノ區別ヲ設ケタルモノナリ

本條モ亦第一條ニ於テ罪ヲ三等ニ區別シタルヨリ生スル所ノ効果ノ相ヒ異ナレルモノトス而シテ本條ノ原則ハ佛朗西刑法ノ原則ト相ヒ同シキモノニシテ唯其減等ヲ爲スト爲サ、ルトノ点ニ付キ少シク相ヒ異ナル所アリ即チ佛朗西刑法ニ於テハ都テ已遂犯ト同一ニ看做シテ減等ヲ爲サ、ルナリ

○參照○佛朗西刑法第二條第三條○獨逸刑法第四十三條第四十四條○埃及刑法第七條重罪ノ謀試ハ現ニ重罪ヲ犯シタルト同視シ其刑モ亦之レニ同シ○第八條輕罪ノ謀試ハ別段法律上ニ定メタル場合ノ外ニテ輕罪ト同視ス可カラス且ツ之ト同一ノ刑ヲ用フ可カラス○白耳義刑法第五十二條凡ソ重罪ヲ犯サントシテ其遂ルヲ得サル者ハ第八十條及ヒ第八十一條ニ據リ其罪ヲ遂ケ行フ者ニ一等ヲ減ス○第五十三條凡ソ輕罪ヲ犯サントシタル者ノ罰ハ各其狀ニ從テ定

法ヲ設クル者トス○普魯士刑法第三十二條 法文ハ略ス但シ重罪未
第三十三條 同上輕罪ノ未遂ハ已遂ノ刑ニ 遂ハ已遂ノ刑ニ同シ
ハ罰 第三十六條 同上未遂
セス

第十章 親屬例 凡二條

第一百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載
シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姊妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母

八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者

九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子

十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

此ノ刑法中第二編以下ニ於テ此ノ節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者
親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス或ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス等
ト記載シタル者アリ所謂親屬トハ本條ニ列記スル所ノ者ヲ云フ而
シ其本條ニ於テ特ニ一二ノ親屬ヲ明記スル者アリ即チ子孫其祖父母
父母ニ對スル云々又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊取スル云々等
ノ類是レナリ是レ等ノ場合ニ於テハ其特記シタル所ノ親屬ノミニ限
ルト雖モ若シ其單ニ親屬トノミ記シタル時ハ本條ニ列記シタル所
ノ親屬ヲ總稱スルナリ例ヘハ第三百二十八條ニ親屬ニ害ヲ加フ可キ
事ヲ以テ脅迫シタル者ト云フカ如キハ祖父母父母ニ害ヲ加フルノ
事ヲ以テスルモ又ハ配偶者ノ祖父母父母ニ害ヲ加フルノ事ヲ以テ

スルモ皆同一ナルノ類是レナリ

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

本條ハ前條ニ祖父母父母及ヒ子孫兄弟姊妹トアルノ例ヲ補足シタル者ナリ

嫡母トハ庶子ヨリ正妻ヲ指スノ稱庶子トハ正妻ヨリ妾腹ノ子即チ正妻ノ産ム所ニ非ラサル子ヲ指スノ稱ナリ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪凡九章 百七十六條

此ノ編以下ハ刑罰ヲ加フ可キ所爲ト之レニ適用ス可キノ刑トチ定メタルモノトス

凡ソ罪ト爲ル可キ所爲ニ公益ニ關スルモノト私益ニ關スルモノトノ區別アリ而シテ此ノ刑法ニ於テハ公益ニ關スル罪ト私益ニ關スル罪トチ大別シテ編チ設ケラレタル者ニシテ此ノ編ニ於テハ公益ニ關スルノ罪チ掲ケ第三編ニ於テハ私益ニ關スルノ罪チ掲ケタリ抑モ公益ヲ害スルノ罪ト雖モ必ラスシモ私益ヲ害セサルニ非ラス又私益ヲ害スルノ罪ト雖モ必ラスシモ公益ヲ害セサルニ非ラス蓋シ其公私ノ利益ヲ併セテ之レチ侵害スル者最モ多キニ居レリ然ルニ公益ヲ害スルノ罪ト私益ヲ害スルノ罪トチ分チテ編チ設ケラレタル所以ノモノハ必竟其所爲ニ於テ直接ニ社會ヲ害スルモノト間接ニ社會ヲ害スルモノトノ別アルニ因レルモノトス

公益ニ關スル罪トハ一國全體ニ關シテ公安利益ヲ侵害スルノ罪ナ
云フナリ

第一章 皇室ニ對スル罪 凡五條

本章ニ掲グル所ノ皇室ニ對スル罪トハ天皇三后皇太子皇族及ヒ皇
陵ニ對シテ犯ス所ノ罪ナ云フナリ
按スルニ本朝ハ古來神州ト稱シ皇統一系萬古不易ニシテ遠ク他邦
ノ及フ所ニアラス故ニ臣民皆能ク皇上去奉戴シ風俗善良二千有餘
年ノ久シキ其間斬木倒戈帝位ヲ篡奪セント謀ル者僅カニ一二兇アル
ニ過キサルナリ今ヨリ以向數千萬世ノ後ナニ至ルモ其君ヲ弑シ若
クハ弑逆ヲ試ミノトスルノ賊ハ斷シテ生出スルコト無シト云フモ敢
テ過言ニ非ラサル可シ然リト雖モ若シ天誤テ此ノ國賊ヲ生スルコ
ト萬無キナ期シ難ク此ノ時ニ當テヤ若シ法律ノ規定ナキ時ハ此ノ刑
法ノ原則ニ因テ推論スルニ凡人ニ對スルノ犯者ト同一ノ處分ナ

施サ、ルヲ得ス故ニ豫メ皇室ニ對スルノ罪一章ヲ規定シ之レヲ本
編ノ首メニ掲ケ以テ臣民ニ對スルノ罪ト別異シタルモノトス

第一百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ
加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

天皇トハ太上天皇ヲ包括ス三后トハ太皇太后、皇太后、皇后ヲ云フ
危害ヲ加フルトハ尊體ニ對シテ弑逆即チ謀殺故殺ヲ行ヒ及ヒ毆打
創傷其他幽閉等ノ所爲ヲ行フヲ云フ蓋シ單ニ危害ト記シテ謀故殺傷
等ノ文字ヲ用ヒサル所以ノ者ハ臣民ト其書法ヲ同ブス可キニ非ラ
サルヲ以テナリ

天皇三后皇太子ノ尊體ニ對シテ以上ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ皆死刑
ニ處ス

危害ヲ加ヘントシタル者トハ陰謀豫備若クハ已ニ其事ヲ行ヒ未タ
遂ケサル者ヲ云フ此ノ場合ト雖モ亦之レチ死刑ニ處スルモノトス

蓋シ此ノ刑ハ甚タ嚴酷ニ過クルカ如シ然レニ其君臣ノ情誼及ヒ社會
 ナ害スルノ点ヨリシテ之レヲ論スル時ハ素ヨリ當サニ斯ノ如ク其刑
 ナ嚴ニセサルナ得サルナリ蓋シ其至尊ニ對スル者ト一個ノ常人ニ
 對スル者トノ間ニ於テ其輕重ノ差等アルハ猶ホ霄ト壤トノ差アル
 カ如シ故ニ尋常事犯ノ未成犯ト同一視シ得ヘキニアラス若シ夫レ
 其犯者ナシテ卒ニ其犯ヲ遂ケシムルニ至テハ之レカ爲メ内部ノ安
 寧及ヒ外部ノ安寧ヲ害スルカ如キ非常ノ危害ヲ生スルニ至ルモ亦
 豫メ期ス可カラス已ニ其非常ノ危害ヲ生スルニ至ルアラハ海内蒼生
 ノ擾亂ハ素ヨリ言テ俟タサル所ニシテ大逆無道其道徳ヲ破リ社會
 ナ害スル焉ヨリ大ナルハ無シ然ラハ則チ之レヲ未然ニ防カサル可
 カラス是レ本條特ニ其明文ヲ掲ケ唯危害ヲ加ヘントシタル者ナモ
 尙ホ死刑ニ處スル所以ナリ

○參照○佛朝西刑法第八十六條○獨逸刑法第八十條獨逸帝ヲ謀殺

且ツ謀殺セント企ツル者又一國ノ臣民トシテ獨逸ニ在リテ其國主ヲ謀殺
 且ツ謀殺セント企ツル者又何人ヲ論セス連邦ノ一國ニ在リテ其
 王侯ヲ謀殺シ且謀殺セント企ツル者ハ謀反大逆ト爲シ死刑ニ處ス
 ○白耳義刑法第一百一條凡國王ノ身體生命ニ對シ罪ヲ犯ス者ハ死刑
 若シ其身ノ自由ヲ妨グス(王ヲ獄ニ下ス類)又血ヲ流ス如キ無ク又傷
 ナ被テシムル如キ無ク又疾病ヲ起サシムル如キ無ク唯其身ニ對シ
 犯ス者ハ終身懲役法文ハ零ス本條ハ太子ニ對スル罪○英吉利刑法凡謀反
 大逆ハ皇帝及ヒ皇后若クハ皇太子ノ死ヲ謀リテ事已ニ行フ者或ハ
 鎖獄セシメント企テ事跡顯著ナル者ノ其罪至大其惡已ニ極ル罪犯
 ナ處決ス凡皇后及ヒ皇女若クハ皇太子ノ妃ニ和姦スル者ハ各謀反
 大逆律ヲ以テ罪ヲ論ス是レ皇家ノ血統ヲ紊亂スルヲ深ク防禦ス
 其未亡人ニ姦スル者ハ此律ニアラス

第三百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル

者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

本條ハ天皇三后皇太子及ヒ皇陵ニ對シテ不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ヲ罰スルノ律條ナリ

不敬ノ所爲トハ罵詈誶誹辱等ノ所爲アルヲ云フ史上載スル所願ヲ犯シテ直諫シ大不敬ニ坐セラレテ罪ニ至ル等ノ如キハ蓋シ本條言フ所ノ不敬ニハアラサル可シ然レモ其諫ニ託シテ言不敬ニ涉ルアラハ亦本條ニ依テ處斷ス可キモノトス

不敬ニ直接ノ不敬ト間接ノ不敬トアリ直接ノ不敬トハ直チニ御前ニ於テスル者ヲ云ヒ間接ノ不敬トハ其御前ニ於テセスシテ刊行ノ文書圖書若シハ公衆ニ對シ演說等ヲ以テ侮辱スルヲ云フ

凡ソ天皇三后皇太子ニ對シ其御前ニ於テ不敬ノ所爲アル者又ハ其

御前ニアラスト雖モ間接ニ不敬ノ所爲アル者ハ皆本條ニ依リ禁錮罰金ノ刑ニ處スルモノトス而シテ其不敬ノ所爲ハ言語若シハ形容ヲ以テスル者ニシテ犯罪ノ情狀自ラ輕重アル可シ故ニ裁判官ニ於テ本條掲ケル所ノ刑期內ニ就テ適當ノ處分ヲ施ス可キハ素ヨリ言フヲ俟タサル所ナリ

皇陵ニ對シテ不敬ノ所爲アル者トハ皇陵ヲ毀損汚瀆シ又ハ之レヲ發掘スル等ノ所爲アルヲ云フ此レ等ノ所爲アル者モ亦タ前項ノ例ト同一ノ刑ヲ科スルモノトス

夫レ天皇三后皇太子ハ至尊ナリ之レニ對シテ不敬ノ所爲アル者ハ官吏若シハ通常ノ人民ニ對シテ不敬ノ所爲ヲ施シタル者ト同一ノ處分ヲ爲ス可カラズ故ニ其刑ハ第四百一一條及ヒ第四百二十六條第十二項ノ刑ニ比スレハ更ニ重キヲ加フ又皇陵ハ天子ノ冢ナリ之レニ對シテ不敬ノ所爲アル者ハ人民ノ墳墓ニ對シテ不敬ノ所爲ヲ施

シタル者ト同一ノ處分ヲ爲ス可カラス故ニ其刑ハ第二百六十三條
第二百六十五條及ヒ第四百二十六條第十項ノ刑ニ比スレハ更ニ重
キヲ加ヘラレタリ是レ其皇室ニ對スルノ罪ハ特ニ其刑ヲ重シシ以
テ彼此ノ權衡ヲ得セシメタルモノナリ

○參照○佛朗西刑法第八十六條第四項○獨逸刑法第九十五條獨逸
帝ニ對シ言語又ハ體不敬ヲ爲シ又一國ノ臣民トシテ其國主ニ對シ
言語又ハ體不敬ヲ爲シ又何人ヲ論セス連邦ノ一國ニ在リテ其王侯
ニ對シ言語又ハ體不敬ヲ爲シタル者ハ二月ヨリ短カラサル禁獄ニ
處ス可シ其禁獄ノ外公然ノ職務及ヒ公選ニ依リ任セラレタル權ヲ
剝奪ス可シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ
處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス
本條ハ皇族ニ對シテ危害ヲ加ヘタル者又ハ加ヘントシタル者ヲ謂

スルノ律條ナリ

皇族トハ皇女皇孫皇妃諸親王ヲ云フ皇族ハ天子ノ連枝ニシテ亦尊
族ト爲ス故ニ其危害ヲ加ヘタル者ハ皆之レヲ死刑ニ處ス
然レモ其天皇三后皇太子ニ比スレハ亦自ラ尊卑ノ分アリ故ニ其危
害ヲ加ヘントシタル者ハ死刑ニ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス蓋シ斯
ノ如クセスシテ天皇三后皇太子ト同一ノ刑ヲ用フル時ハ大ニ權衡
ヲ失フ可ケレハナリ

○參照○佛朗西刑法第八十六條第二項○白耳義刑法第三百三條法文
ヲ以之レ○魯西亞刑法第二百四十三條皇帝ニ對スルノ罪第二百四
十四條皇嗣皇后及ヒ皇族ニ對スルノ罪本條ノ參照也

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲ナル者ハ二月以
上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

本條ハ皇族ニ對シテ不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ヲ罰スルノ律條ナリ
皇族ニ對シテ不敬ノ所爲アル者ハ天皇三后皇太子ニ對シテ不敬ノ
所爲アル者ヨリ其罪ノ輕キカ故ニ其刑モ亦第百十七條ニ規定スル
所ノ刑ヨリモ輕シ是レ猶ホ危害ヲ加ヘントシタル者ニ輕重アルカ
如キト同一ノ理ニシテ亦當サニ斯ノ如クセサル可カラサルモノナ
リ皇族ノ墳墓ニ對シテ不敬ノ所爲アル者ノ刑ハ本條ニ規定セラレ
ス故ニ第百六十五條ニ因テ處分ス可キモノトス

○參照○佛朗西刑法第八十六條第六項

第二百十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ
處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本章中輕罪ノ刑ニ處スル者トハ第百十七條及ヒ第百十九條ニ定メ
タル所ノ罪ヲ犯シタル者ヲ云フ

前編第三十八條ニ於テ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ監視ニ付

ス可キ者ハ各本條ニ於テ別段之レカ明文ヲ記載セルコト明示セリ
本條ノ如キハ即チ特別ニ記載シタルモノナリ以下各編章ニ於テ特
ニ監視ニ付ス可キコト明記セラレ、者ハ必ラス輕罪ノ刑ニ處ス可
キコト規定シタル正條アル章節ニ限レリトス其重罪ノ刑ノミナ規
定シタル章若シハ節ニ在テハ此ノ明條無シ何トナレハ則チ重罪ノ
刑ニ處スル者ハ第三十七條及ヒ第三十九條ニ定メタルカ如ク別ニ
宣告ヲ用ヒスシテ監視ニ付スルモノナレハ特ニ各編章ニ於テ之レ
カ明條ヲ設ケルヲ要セサレハナリ

第二章 國事ニ關スル罪 凡二節 十五條

本章ニ於テハ國事ニ關スル重罪輕罪及ヒ之レニ適用ス可キ所ノ刑
ヲ規定シタル者ニシテ之レヲ細別シテ二節ト爲シ第一節ニ於テハ
内亂ニ關スル罪ト其刑トヲ記載シ第二節ニ於テハ外患ニ關スル罪
ト其刑トヲ記載セリ而シテ其國事ニ關スル罪即チ國事犯罪ナル者ハ

政府ニ對スルノ事犯ニシテ其目的トスル所專ラ國政ヲ變更シ人民ニ幸福ヲ與ヘ社會ノ利益ヲ計畫スルニ在ル者ナレハ其社會ヲ害スルノ点ニ於テハ頗ル大ナリト雖モ其犯人ノ心術タルヤ他ノ常事犯罪ノ如ク自己一身ヲ利セント欲スル者ニ非ラサルヲ以テ道德ヲ害スルノ点ニ至テハ却テ甚タ少ニシテ敢テ之レヲ常事犯ト同視ス可キモノニアラサルナリ故ニ其刑モ亦常事犯ノ刑ヨリ寛ナルモノトス

第一節 内亂ニ關スル罪 凡八條

内亂ニ關スル罪トハ内國ノ騷擾ヲ起スノ事犯ニシテ所謂内部ノ安寧ヲ侵害スルノ罪ナリ

第二百一十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲテ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

本條ハ内亂ニ關スル罪ノ目的ト其處分法トヲ規定シタルモノトス政府ヲ顛覆ス君主獨裁ノ政府ヲ覆シテ更ニ立憲政治ノ政府ヲ置キ又ハ立憲政治ノ政府ヲ倒シテ新ダニ共和政府ヲ立シテ謀ル等ノ類是レ之レヲ政府ヲ顛覆スト云フ

邦土ヲ僭竊ス數州或ハ一州若クハ一地方ノ偏隅ニ割據シテ獨立ヲ謀リ政府ノ制令ヲ奉セサル等ノ類是レ之レヲ邦土ヲ僭竊スト云フ

朝憲ヲ紊亂ス。皇嗣ノ順序ヲ紊亂シ或ハ郡縣制度ヲ改メテ封建制度ト爲シ若クハ他ノ法制ヲ變更セシテ謀ル等ノ類是レ之レヲ朝憲ヲ紊亂スト云フ

凡ソ政府ヲ顛覆セント欲シ或ハ邦土ヲ僭竊セント欲シ又ハ朝憲ヲ紊亂セント欲スルノ目的ヲ以テ黨羽ヲ集メ難ヲ構ヘテ以テ國家ノ騷擾ヲ起ス者ハ皆之レヲ内亂ヲ起ス者ト云フ而シテ其内亂ヲ起サント欲スルニハ本ト一人一己ニシテ能ク事ヲ舉ケ得ヘキニ非ラサルヲ以テ必ラス首謀者アリ教唆者アリ或ハ群衆ノ指揮ヲ爲スモノアリ若クハ樞要ノ職務ヲ執ル者有ル可シ果シテ然ラハ此ノ衆各其罪狀ヲ異ニシ輕重ノ差等有リ假令ヒ其内亂ニ與ミシ自ラ干戈ヲ執テ以テ現ニ罪ヲ犯シタリト雖モ總則中ニ掲ケタル共犯ノ例ニ因リ皆正犯ヲ以テ論シ頭ヲ斬ヘテ戮ニ就カシムルハ亦慘ナラスヤ故ニ法律ハ之ヲ豫定シテ其共犯ノ例ヲ用ヒスシテ本條掲クル所ノ第一ヨ

リ第四ニ至ルマテノ區別ニ從テ處斷スルモノトセリ是レ蓋シ特例ニシテ各國ノ法制概テ之レト同一ナリトス

一首魁トハ自ラ主ト爲リ三軍ヲ統馭シテ以テ内亂ヲ起ス者ヲ云フ即チ張本人ナリ教唆者トハ他人ヲ唆供教令シテ内亂ヲ起サシムル者ヲ云フ蓋シ首魁及ヒ教唆者ハ群賊ノ長ニシテ其國難ヲ起シ人心ノ騷擾ヲ釀成スル者豈是ニ皆此ノ輩ノ胸裏ヨリ發生スル者ナレハ其罪最モ重ク且ツ大ナリト爲ス故ニ之レヲ死刑ニ處スルナリ

二群衆ノ指揮ヲ爲シタル者トハ一軍ニ將トシテ群賊ヲ左右シ號令指揮ヲ爲シタル者ヲ云フ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者トハ群賊ノ上ニ立チ軍事ノ機密ニ參與シタル者ニシテ所謂參謀等ノ職務ニ從事スル者ヲ云フ此レ等ノ輩ハ首魁及ヒ教唆者ヲ翼賛シテ内亂ヲ助シタル者ナレハ其罪亦頗ル重シト爲ス然レモ之レヲ首魁及ヒ教唆者ニ比スレハ亦自ラ輕重ナシトセス故ニ其中チノ事情重キ者ハ

無期流刑ニ處シ事情輕キ者ハ有期流刑ニ處スルナリ
 三兵器金穀ヲ資給スル者トハ軍事ノ用ニ供スル銃砲彈藥及ヒ刀槍
 ノ類或ハ軍用金及ヒ兵糧等ヲ資給シ而シテ己レ自ラ内亂ニ與カラサ
 ル者ヲ云フ又諸般ノ職務ヲ爲シタル者トハ軍中ノ記録或ハ會計若
 シハ輜重等ノ職務ヲ爲シタル者ヲ云ヒ樞要ノ職務ヲ爲シタル者ニ
 ハ非ラサルナリ此レ等ノ輩ハ各其内亂ノ一部分ヲ助成シタル者ニシ
 テ其罪亦甚ク輕キニ非ラス然レトモ之レヲ群衆ノ指揮ヲ爲シ及ヒ樞
 要ノ職務ヲ爲シタル者ニ比スレハ亦輕重ナシトセス故ニ其中チノ
 事情重キ者ハ重禁獄ニ處シ事情輕キ者ハ輕禁獄ニ處スルナリ
 四教唆ニ乘シテ附加隨行シタル者トハ別段ノ職務ヲ執ルニアラス
 シテ唯他人ノ教唆ニ乘シ其黨夥ト爲リテ附和隨行シタル者ヲ云フ
 又指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者トハ兵器彈藥金穀等ノ運送其他雜
 事ノ使役ニ服スル役夫等ノ類ヲ云フ此レ等ノ輩ハ以上ノ諸犯人ニ

比スルニ其罪更ニ輕シト爲ス故ニ其刑モ亦輕ク二年以上五年以下
 ノ輕禁錮ニ處スルモノトス但シ其畏懼隨行スル者ハ本條ノ限リニ
 非ラス

○參照○佛朗西刑法第八十七條○獨逸刑法第八十一條第二項獨逸
 國ノ政治及ヒ連邦一政府ノ政治ヲ非理ニ覆サントシ又其國ニ定リ
 タル即位ノ順序ヲ非理ニ紊サントシタル者無期徒刑又ハ○埃及刑
 法第八十三條第八十四條法文○白耳義刑法第四百條法文○英吉利
 刑法凡ソ宗門及ヒ法度ヲ改變シ或ハ君側ノ姦臣ヲ掃除セン等ニ託
 言シテ私憤ヲ以テ軍馬ヲ調發シ皇家ニ抗抵スル者ハ事ノ實否ヲ問
 ハス謀反大逆律ヲ以テ其罪ヲ論ス若シ私ニ衆徒ヲ連糾シテ盡ク國
 内ノ遊園及ヒ娯家等ヲ崩廢セント企ツル者モ亦同ク謀反大逆律ヲ
 以テ論ス是レ皇威ヲ忌憚セス且太政ノ權ヲ侵奪スレハナリ○印度
 千八百六十一年五月刑法第二百二十一條國王ニ對シ兵ヲ舉ケ又ハ兵ヲ舉
 一日ヨリ施行ノ刑法

ケンヲ試ミ及ヒ兵ヲ擧グルニ加カスル者ハ死刑若シハ終身流刑
ヲ以テ之ヲ罰シ悉ク其財産ヲ沒收ス可シ」第二百二十二條及ヒ第二百
十三條 法文 零ス

第二百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船
船金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ
起シタル者ノ刑ニ同シ

内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ云々トハ其政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊シ其
他朝憲ヲ紊亂セント欲スルノ目的ヲ以テ官私ノ所有ニ係レル兵器
彈藥船舶金穀若シハ軍備ノ物品等ヲ掠奪シタル者ヲ云フ此ノ場合
ニ於テハ未ダ兵ヲ擧ケ干戈ヲ弄スルニ至ラスト雖モ已ニ内亂ヲ起
シタル者ト同一ニ看做シ前條ニ規定スル所ノ區別ニ從テ其刑ヲ科
スルモノトス蓋シ假令ヒ未ダ兵ヲ擧ケ内亂ヲ起スニハ至ラスト
雖モ其内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ掠奪ノ所爲ニ著手シタル以上ハ恰モ

已ニ内亂ヲ起シタル者ト同一ノ危險アルヲ以テ其已ニ内亂ヲ起シ
タル者ト同一ノ刑ニ處スルナリ

○参照○佛朗西刑法第八十九條第一項○獨逸刑法第八十二條 法文 零ス

第二百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀
殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論
シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

政府ヲ變亂スルノ目的トハ政事ノ方向ヲ變亂セントスル者ニシテ
政府ヲ顛覆セントスル者トハ少ク相ヒ異ナルモノトス
人ヲ謀殺スルノ字其指ス所甚ク狭シ蓋シ專ラ當路ノ大臣所謂政權
ヲ掌握スル者即チ其人ノ進退ニ因リ影響ノ及フ所爲メニ政事ノ方
向ヲ一變シ得可シト思惟スルニ足ル可キノ人ヲ謀殺スルヲ云フ近
ク之レテ例セハ兇徒島田一郎カ輩ノ如キ是レナリ
凡ソ政事ノ方向ヲ變亂セントスルヲ以テ目的ト爲シ當路ノ人ヲ謀殺シ

タル者ハ假令ヒ兵ヲ舉グルニ至ラスト雖モ其目的トスル所本ト政
府ヲ變亂セントスルニ在ル者ナレハ之レヲ尋常謀殺ト同一視ス可
キモノニアラスシテ亦是レ一個ノ國事犯罪ト爲ス故ニ此ノ所爲ヲ
行ヒタル者ハ内亂ト同ク論シ第百二十一條ノ區別ニ從テ處斷スル
モノトス
下手者トハ現ニ手ヲ下シテ其人ヲ殺害シタル者即チ解死人ヲ云フ
ナリ

第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃
チ本刑ヲ科ス

未遂犯罪ノ時トハ内亂ヲ起シテ未ダ遂ケサル時ヲ云フナリ
第百二十一條ニ記載シタル所ノ罪ハ固ヨリ未遂犯ノ時ニ於テ本刑
ヲ科ス可キ者トス蓋シ國事犯ハ他ノ常事犯ト異ナリ其已ニ目的ヲ
達スルニ至テハ之レヲ罰スルコトヲ得サルモノナリ何トナレハ則チ

其已ニ目的ヲ達スルニ至テハ此ノ法律ヲ發行シタル所ノ政府ハ已
ニ顛覆シ犯人代テ政權ヲ握リ一ノ新政府ヲ開クヲ以テナリ夫レ一
旦冠履處ヲ易ヘハ何ヲ以テカ能ク誅戮ヲ施サンヤ是レ其國事犯ノ
性質ニ因テ然ルモノナレハナリ故ニ第百二十一條ノ罪ハ未遂犯即
チ單ニ内亂ヲ起シタルノミテ以テ已ニ其目的ヲ遂ケタル者ト爲シ
本刑ヲ科スルナリ

第百二十二條ニ記載シタル所ノ罪モ亦其物件ヲ劫奪シタルノミテ
以テ一個ノ已遂犯ト爲シテ本刑ヲ科スルモノトス
第百二十三條ニ記載シタル所ノ罪ハ其人ヲ謀殺シ畢リタル時ハ勿
論已ニ其事ヲ行フモ未ダ之レヲ殺死シ畢ラサル時ト雖モ仍ホ之レ
チ一個ノ已遂犯ト爲シテ本刑ヲ加フルモノトス
抑モ前三條ニ記載シタル所ノ罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行ヒ未
ダ遂ケサル時即チ未遂犯ノ時ト雖モ仍ホ之レチ已遂犯ト同一ノ刑

ニ處スル所以ノ者ハ何ソヤ蓋シ謀反大逆其國ニ不利ナル固ヨリ尋常事犯ト同視一ス可キニアラサルヲ以テ深ク將來ノ警戒ヲ爲シ特トニ亂臣姦賊ノ誅ヲ嚴ニスルモノナリ

第二百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第二百一十一條ニ於テ罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルコト非ラサレハ其刑ヲ科セスト明示セラレタリ所謂別ニ刑名ヲ記載スルトハ本條ノ如キ者即チ其一ナリ夫レ陰謀豫備ハ一般ノ原則ニ於テハ之レヲ罰セサルモノト雖モ本條ノ場合ノ如キハ例外ナリトス蓋シ國事犯ノ性質

ニ於テ要スル所ハ前條明示セルカ如ク未遂犯ノ時ニ於テ已ニ其本刑ヲ科スルモノナレハ其豫備陰謀ノ時ニ於テモ尙ホ之レヲ罰スルヲ以テ法トスルナリ

第一項本項ハ即チ第二百一十一條ニ所謂豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者是レナリ凡ソ内亂ヲ起サント決心シ之レカ爲メ黨類ヲ招集シ或ハ武器即チ銃砲彈藥若クハ刀槍弓矢等諸多ノ兵器及ヒ軍用ノ金銀米穀等ヲ準備シ其他都テ内亂ノ豫備ヲ爲シタリト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者即チ兵ヲ擧ケ干戈ヲ動カスニ至ラサル者ハ第二百二十一條ニ記載シタル所ノ例ニ照シ首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ一等ヲ減シ無期流刑ニ處シ以下同條ノ區別ニ從ヒ各其本刑ニ一等ヲ減スルモノトス

第二項本項ハ即チ第二百一十一條ニ所謂罪ヲ犯サンコトヲ謀ルト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者是レナリ凡ソ内亂ヲ起サント決心シ陰カニ其事

ヲ謀リ商議ヲ爲スト雖モ未ダ其黨類ヲ招集シ或ハ武器ノ類若クハ軍用金及ヒ糧食等ノ屬ヲ準備スルニ至ラサル者ハ其已ニ豫備ノ所爲ニ著手シタル者ニ比スレハ其形跡罪狀稍輕微ニ屬シ隨テ其危害モ亦甚ク重大ナラス故ニ第二百一十一條ニ記載シタル所ノ例ニ照シ首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ二等ヲ減シ有期流刑ニ處シ以下同條ノ區別ニ從ヒ各其本刑ニ二等ヲ減スルモノトス

第二百二十六條

内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第八十八條ニ於テ此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本刑ニ從フト明示セラレタリ所謂別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者トハ本條ノ如キ者即チ其一ナリ而シテ本條ノ自首法ハ第八十五條ノ例外ニシテ通常自首ノ法タル事未ダ發覺セサル以前ニ於テ

官ニ首出スル時ハ本刑ニ一等ヲ減スルヲ以テ原則ト爲スト雖モ本條内亂ニ關スル者ノ如キハ然ラス其自首シタル者ハ特ニ本刑ヲ全免シ止テ監視ニ付スルヲ以テ例ト爲ス

本條ニ於テ自首免刑ヲ與フルニハ二個ノ要件アリ而シテ第八十五條ニ記載スル所ノ自首ニモ亦二個ノ要件アリト雖モ其一要件ハ本條要スル所ノ條件ト相ヒ異ナルモノトス乃チ第八十五條ニ於テハ事未ダ發覺セサル以前ニ自首スルヲ要シ本條ニ於テハ事已ニ發覺スルト否トヲ問ハス未ダ其事ヲ行ハサル以前ニ自首スルヲ要スル是レナリ而シテ其一要件即チ官衙ニ自首スルヲ要スルハ彼此相ヒ同シキモノトス

凡ソ内亂ヲ起サントシテ之レカ豫備ヲ爲シ或ハ未ダ豫備ヲ爲スニ至ラスシテ止テ陰謀ヲ爲シタルノミナル者其事ノ已ニ發覺スルト未ダ發覺セサルトヲ問ハス未ダ其事ヲ行ハサル以前ニ於テ官ニ自

首シタル時ハ并ニ其主刑ヲ全免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付スルモノトス而シテ本條云フ所ノ監視ハ他ノ重罪輕罪ニ附加スル所ノ監視トハ相ヒ異ナル者ニシテ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付スルモノナリ其期限ハ第四十條第二項ノ例ニ從ヒ裁判確定シタル日ヨリ起算シ且ツ其期限間ハ第三十四條第二項ノ例ニ依リ公權ヲ行フヲ停止セラル、モノトス

夫レ尋常事犯ニ於テハ事未タ發覺セサル以前ニ在テ官ニ自首スト雖モ止テ本刑ニ一等ヲ減スルノミニシテ全免ヲ與ヘズ然ルニ本條ノ場合ニ於テハ其主刑ヲ全免シ彼此ノ間此ノ如ク相ヒ異ナル所以ノモノハ何ソヤ是レ他ナシ一ハ犯罪以前ニシテ一ハ犯罪以後ニ係レハナリ凡ソ尋常事犯ニ於テハ陰謀豫備ヲ罰スル者ニアラサルヲ以テ其陰謀豫備ノ間ニ在テハ尙ホ未タ犯罪ヲ成立シタル者ニアラサルノハ假令ヒ自首セスト雖モ固ヨリ罪アル者ニアラス是ヲ以テ第八十

五條ニ於テ豫定スル所ノ場合ハ其犯罪ノ以後即チ已遂ノ犯人ニ係レリ蓋シ其已ニ一罪ヲ犯シ遂ケタルノ後チニ在テハ假令ヒ其事ノ未タ發覺セサル以前ニ於テ自首スト雖モ其自首ノ効ニ因テ全罪ヲ消滅シ得ヘキ者ニアラス必ラスヤ其社會ニ被ラシメタル所ノ損害ヲ償ハサル可カラズ故ニ唯減等ニ止メテ全免ヲ與ヘズ然ルニ本條豫定スル所ノ場合ハ其犯罪以前即チ未タ其罪ヲ犯シ始メサル以前ノ者ニ係レリ蓋シ唯其陰謀豫備ニ止マリ未タ其事ヲ行ハサル以前ニ於テ官ニ自首シ眞心悔悟ノ情ヲ表シ其事實ヲ明告シ併セテ餘黨ヲ告知スルカ如キハ社會ニ於テ禍亂ヲ未發未然ニ防遏シ以テ國家ノ安泰ヲ維持スルヲ得ルノ利益アリテ其已ニ兵ヲ舉ケ事ヲ行ヒタルカ如キ大ナル危害ヲ被リタルニアラサルカ故ニ其罪重ク其惡大ナル事犯ニ係ルト雖モ本條要スル所ノ二條件ヲ具ヘテ自首シタル時ハ法律ハ其本刑ヲ全免スルモノト爲セリ然レト此ノ事犯タル

本ト頗ル重大ノ事件ニ係ルヲ以テ其再犯ノ患ヲ豫防センカ爲メニ
仍ホ監視ニ付スルモノトス

○参照○佛朗西刑法第百八條

第百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與
シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

本條ハ内亂ノ以前ニ在テ其内亂ヲ起サントスル者ニ集會所ヲ給與
シタル場合ヲ云フ

内亂ノ情ヲ知テ云々トハ其内亂ヲ起サンカ爲メ豫備若クハ陰謀ヲ
爲スノ情ヲ知テ之レニ其集會ヲ爲ス可キ場所ヲ給與シタル者ヲ云
フ此ノ場合ニ於テハ之レカ爲メニ利ヲ圖リ或ハ利ヲ圖リタルコ
ラス又ハ其夥黨ニ加入シテ共ニ其事ヲ謀リタルコラス止テ其集
會所ヲ給與シタルノミナ以テ本條規定スル所ノ刑ニ處スルモノト
ス蓋シ其内亂ヲ起サントスル者ニ在テハ敢テ集會所アルヲ要セサ

ルカ如シト雖モ若シ之レアル時ハ大ニ事ヲ謀ルニ便ニシテ之レテ
給與シタル者ニ在テハ多少其罪ヲ幫助スル所ナシトセス故ニ之レ
ヲ罰スルニ輕罪ノ刑ヲ以テスルナリ其犯罪ノ後ナニ在テ敗軍ノ將
若クハ殘卒餘黨等ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ之レヲ隱避セシメタル者
ハ本條ニ因ラスシテ第百五十一條ノ例ニ依ルモノトス

佛朗西其他ノ諸州ニ於テハ本條ノ犯人ヲ事前ノ從ト爲シテ處斷ス
ト雖モ我カ刑法ニ於テハ之レヲ從犯ト爲サスシテ別ニ一個ノ罪ト
爲シテ之レヲ論スルモノトス

○参照○佛朗西刑法第六十一條

第百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ内
亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ
刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ國事犯ト常事犯ト併發シタル時ノ處分法ヲ定メタルモノ也

人ノ身體ニ對シテ犯セル罪ハ即チ殺傷強姦若シハ制縛監禁等ノ類ニシテ其財産ニ對シテ犯セル罪ハ即チ放火若クハ劫奪等ノ罪ヲ云フ内亂ノ目的ニ關セサル云々トハ其爲ス所ノ事毫モ内亂ニ影響スル所ナリ至ク其内亂ノ目的ト相ヒ異ナルモノヲ云フ例ハ攻城ノ策畧ニ出テ火ヲ放チテ城下ノ民舎ヲ燬燒シタルカ如キハ是レ其内亂ノ目的ヲ達セントスルノ方法即チ犯罪ノ手段ナルヲ以テ是レ等ノ所爲ハ素ヨリ内亂ノ目的ニ關スル者ナリト雖モ之レニ反シテ嘗テ己レト宿怨アルニ因リ之レニ報セント欲シ内亂ノ機會ニ乘シ其内亂ノ起ルヲ以テ奇チ居ク可シト爲シ火ヲ放チテ其宿怨アル者ノ家ヲ燒燬シタルカ如キハ是レ其内亂ノ目的ニ關セサル罪ヲ犯シタル者ナリ其他内亂ノ機會ニ投シ私慾ヲ逞フセント欲シ居民ノ財物ヲ劫奪シ或ハ避難ノ妻女ヲ捉へ兇暴ヲ逞フシテ以テ姦事ヲ行フカ如キ皆是レ毫モ内亂ノ目的ニ關スル者ニアラサルナリ

以上ノ場合ニ於テハ内亂ノ目的ニ關スル罪ト其目的ニ關セサル罪トヲ比較シ一ノ重キニ從テ處斷スルヲ猶ホ數罪俱發ノ例ノ如シ例ハハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者内亂ニ乘シテ嘗テ己レト怨隙アル所ノ人ヲ謀殺シタルカ如キ之レヲ第二百一十一條第二項ト第二百九十二條トニ照スキハ謀殺ノ罪重キヲ以テ其重キ第二百九十二條ノ刑ニ處スルノ類是レナリ

第二節 外患ニ關スル罪

外患ニ關スル罪トハ本國ニ背キ外國ニ與ミシテ本國ノ安寧ヲ害スルノ事犯ナクフ所謂外部ノ安寧ヲ侵害スルノ罪ナリ

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附属シタル者ハ死刑ニ處ヌ

外國ニ與ミシテ本國ニ抗敵スルトハ日本國ノ人民ニシテ日本國ニ

背叛シテ外國ニ與ミシ干戈ヲ執テ以テ直接ニ日本國ニ抗敵シタル者ヲ云フ

外國ト交戦中同盟國ニ抗敵スルトハ日本國ト英吉利ト戦端ヲ開クノ時ニ際シ其救援ヲ盟約セシ佛朗西國ニ對シテ抗敵シタル者ノ如キヲ云フ所謂同盟國トハ戰時合縱救援ノ盟約ヲ爲シタル外國ヲ指ス者ニシテ貿易通商ノ爲メ條約ヲ締結シタル諸外國ヲ云フニハアラサルナリ其他日本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタルモノトハ敵國ノ兵ニ附屬シテ諸般ノ職務ニ從事シ敵國ヲ助ケテ間接ニ本國ニ抗敵シタルモノヲ云ス

以上ノ場合ニ於テハ多少其罪ニ輕重ノ差異有ル可シト雖モ苟クモ日本國ノ人民ニシテ其本國ニ對スルノ義務ヲ忘レ他國ヲ助ケテ以テ本國ニ抗敵スルカ如キハ情ニ於テ最モ惡ム可ク且ツ其危害ノ及ブ所極メテ甚太シク大逆無道神人ノ共ニ怒ル所ニシテ其生命ヲ奪

フニアラサレハ社會ノ損害ヲ償フニ足ラズ故ニ皆之レヲ死刑ニ處スルナリ

○參照○佛朗西刑法第七十五條○獨逸刑法第八十八條第一項法文

○埃及刑法第七十六條何人ニ限ラズ敵ノ兵隊中ニ加ハリ國ニ對シテ兵器ヲ弄スル本國人ハ死刑ニ處ス可シ○白耳義刑法第一百十三條凡ソ兵器ヲ持シ自國ニ敵スル者ハ非常禁錮トス

第三百三十條 交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

交戦中トハ日本國ト外國ト交戦中ニ在テ敵國ノ兵ヲ誘導シテ日本國ノ領地内ニ入ラシメタル者ヲ云フ軍事ニ關スル土地家屋物件トハ港口陣營及ヒ軍用品製造所等ノ類ヲ云フナリ

凡ソ日本國ト外國ト交戰中敵兵ヲ誘導シテ日本國ノ管内ニ入ラシ
メ又ハ日本國ニ屬スル都府城塞及ヒ同盟國ニ屬スル都府城塞ヲ敵
國ニ交付シ又ハ兵器彈藥船艦ヲ敵國ニ交付シ若クハ其他ノ軍事ニ
關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付スル等ノ所爲アル者ハ皆死刑ニ
處スルモノトス

夫レ本條明示スル所ノ所爲ハ前條規定スル所ノ罪ヨリ其狀一層重
シト爲ス蓋シ前條ノ場合ノ如キハ假令ヒ自ラ本國又ハ同盟國ニ抗
敵スト雖モ其勝敗ノ數ニ關スルコト甚タ大ナルニ非ラス何トナレハ
則チ外國ニ於テ一將帥若クハ一伍隊ノ兵ヲ得タリト雖モ士卒ノ銳
氣之レカ爲メニ増加シ能ク勝利ヲ得ルト期シ難ク而シテ本國ノ失フ
所ハ猶ホ九牛ノ一毛ヲ亡ヘルカ如ク素ヨリ左右ノ手ヲ失ヒ之レガ
爲メ大ニ士氣ヲ阻喪シ三軍ノ師戰ハスシテ潰ユルカ如キニアラサ
レハナリ然ルニ本條ノ罪ノ如キハ之レト異ナリ其利害ノ關スル所

甚タ大ニシテ敵兵肯樂ノ處ヲ占メ之レカ爲メ本國ヲ蹂躪セラレ我
カ軍ノ敗衄ヲ來シ遂ニ國家ノ亡滅ヲ招クニ至ルコト萬無キチ期シ難
ク實トニ全軍ノ勝敗之レニ因テ決スト云フモ敢テ不可ナルコトナシ
其狀ノ重キ豈ニ前條ノ罪ニ加フル更ニ一層ナラスヤ故ニ皆之ヲ死
刑ニ處スルハ素ヨリ當然ノコトナリトス然レモ前條ノ罪ヲ輕シト云
フニハアラサルナリ前條ノ罪モ亦重大無極ノモノナリト雖モ本條
ノ罪ハ仍ホ更ニ一層ノ重キヲ加ヘタルモノト云ヒシノミ

○參照○佛朗西刑法第七十七條○獨逸刑法第九十條法文○埃及刑
法第七十八條上○白耳義刑法第一百五條上

第三百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ
漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國
ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス
敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之